Panasonic

取扱説明書

音声ファイル管理ソフト

Voice Editing Ver.2.0

Premium Edition

このたびはお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

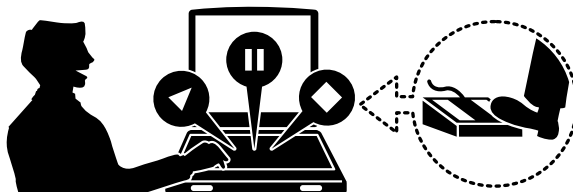
■ この取扱説明書と機器本体の取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。

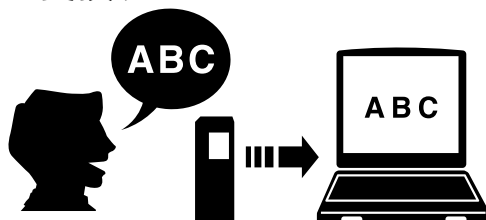
- Windows の基本操作やコンピューター、周辺機器の取り扱いについては、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本書では、OS が Windows XP のときに表示される操作画面例を使用しています。また、本書のイラストや画面は一部実際と異なる場合があります。

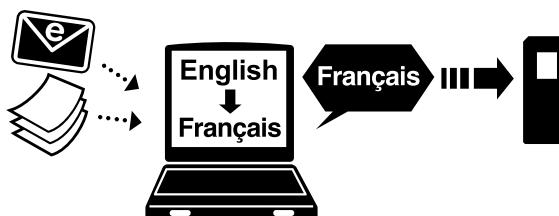
MSC0158AD_J_ZA

こんなことができます

IC レコーダーや SD メモリーカードに記録した音声ファイルをパソコンに取り込み、音声ファイルの管理、再生などができます。また、文書を音声ファイルに変換して IC レコーダーに転送（保存）することもできます。

▶特長 1：音声ファイルから文章を書き起こす

- 音声ファイルを聞きながら、内容を復唱して書き起こします。（☞ 69 ページ）
- キーボードで音声ファイルの再生操作ができます。（☞ 68 ページ）
- 音声ファイルを再生して書き起こすこともできます。（☞ 71 ページ）

▶特長 2：音声を文字に変換する

- 音声をその場で文字に変換できます。（☞ 61 ページ）
- IC レコーダーにメモ録音しておけば、後からテキスト文書に変換できます。（☞ 71 ページ）
- 日本語、英語の音声認識ができます。

▶特長 3：外国語に翻訳し、読み上げる

- 文章を外国語に翻訳することができます。（☞ 83 ページ）
- 外国語のホームページや文書の翻訳もできます。（☞ 93 ページ）
- 翻訳した結果を読み上げることができます。（☞ 83 ページ）
- 外国語の文章を読み上げるので、いつでもヒアリングの練習ができます。（☞ 80 ページ）
- 電子メールなどの文章を音声に変換し、IC レコーダーに転送すれば、外出中に聞くことができます。（☞ 78 ページ）
- 下記の言語の読み上げと言語間の相互翻訳ができます。
  日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語

もくじ

お使いになる前に

すぐ使う

さらに使いこなす

もっと使いこなす

必要なときに

必要なシステム構成

Voice Editing Ver. 2.0 Premium Edition をお使いいただくためには、下記のような性能を満たしたパソコンが必要です。

■ 対応パソコン：下記対応の OS がプリインストールされた IBM PC/AT またはその互換機

- NEC PC- 98 シリーズとその互換機では動作保証しません。
- Macintosh には対応していません。

■ OS：Microsoft® Windows® 98 Second Edition（以降、「Windows 98SE」と記載します。）
Microsoft® Windows® Millennium Edition（以降、「Windows Me」と記載します。）
Microsoft® Windows® 2000 Professional ※（以降、「Windows 2000」と記載します。）
Microsoft® Windows® XP Home Edition/Professional ※（以降、「Windows XP」と記載します。）

※ Windows® 2000、Windows® XP では、管理者の権限を持つユーザー（Administrator）で使用できます。マルチユーザーには対応していません。

- Windows® 3.1、Windows® 95、Windows® 98（Windows® 98SE を除く）および Windows NT® には対応していません。
- OS のアップグレード環境での動作は保証しません。

■ ハードウェア

- CPU　：Windows® 98 SE、Windows® Me　：Intel® Pentium® II 333 MHz 以上
  Windows® 2000、Windows® XP　：Intel® Pentium® III 500 MHz 以上
- RAM　：Windows® 98 SE、Windows® Me　：128 MB 以上
  Windows® 2000、Windows® XP　：256 MB 以上
- ハードディスク　：150 MB 以上の空き容量
  - Windows® のバージョンや音声ファイルにより、別途空き容量が必要です。
  - Acrobat® Reader®（付属）、DirectX® 9.0c（付属）、音声認識エンジン（付属）、音声合成エンジン（付属）、翻訳エンジン（付属）、Voice Editing Launcher（Office アドイン、Internet Explorer 右クリックメニュー）をインストールする場合、別途空き容量が必要です。
  - 音声波形表示機能、音声認識機能、音声合成機能、翻訳機能、サウンドレコーダー機能、CD-R 書き込み機能 (Windows® XP のみ)、Voice Editing Launcher を使用する場合、一時領域として別途空き容量が必要です。
  - Voice Editing の全ての機能、全ての言語のエンジンをインストールする場合、約 1.5G バイトの空き容量が必要です。
- ドライブ　：CD-ROM ドライブ（インストールに必要）
  CD-R/RW ドライブ（Windows® XP で、CD-R 書き込み機能を使用する場合に必要）
- サウンド　：Windows 互換サウンドデバイス
- ディスプレイ　：High Color（16 bit）以上　デスクトップ領域 800 × 600 以上（1024 × 768 以上を推奨）
- インターフェース：USB ポート（USB ハブおよび USB 延長ケーブルで接続した場合は、動作を保証しません）
- その他　：マウスまたはマウスと同等のポインティングデバイス

次ページへ続く ▶

必要なシステム構成

お知らせ

- ハードウェアの環境について、下記のご注意があります。
  - マルチ CPU 環境、またはマルチブート環境には対応していません。
  - 64 ビットパソコンでの動作は保証していません。
  - 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
  - お客様が自作されたパソコンでの動作は保証していません。
- 音声認識エンジン、音声合成エンジン、翻訳エンジンについて、下記のご注意があります。
  - 音声認識エンジン、音声合成エンジン、翻訳エンジンは、OS がインストールされているドライブ（通常は C ドライブ）にインストールされます。
  - 音声認識エンジン、音声合成エンジン、翻訳エンジンを動作させるには、OS がそのエンジンの言語をサポートしている必要があります。

■ 必要なソフトウェア

DirectX® 8.1 以降／ Internet Explorer 6.0
Microsoft Office 2000/Office XP/Office 2003（Office アドインを使用する場合に必要：Word/Excel/PowerPoint に対応）

お知らせ

- このソフトウェアと下記のシステムを同じパソコンにインストールしてご使用になることはできません。
  下記のソフトウェアをアンインストールしてからこのソフトウェアをインストールしてください。
  - Voice Editing Ver.1.0 Premium Edition
  - Voice Editing Ver.1.0 Professional Edition
  - Voice Editing Ver.1.0 Mobile Edition
  - Voice Editing Ver.1.0 Light Edition
  - Voice Editing Ver.1.0 Free Edition
  - Voice Editor 3　- Voice Editor 2　- Voice Editor 2 for H"
  - Voice Studio Ver.2.0　- Voice Studio Ver.1.0
  - SD Voice Editor Ver. 1. x
- 以前のバージョンで作成した音声ファイルは、アンインストールを行っても削除されませんので引き続き使えます。ただし、ファイル保全のためにバックアップを取っておくことをお勧めします。

扱える音声ファイルの形式

VM1 形式ファイル

Panasonic IC レコーダーで録音される音声ファイル

■ **対応機種：RR-US470/530/630**
圧縮形式　　：モノラル TRC
Voice Editing Ver.2.0 でのアイコン：（TRC コーデックマーク）
録音モード　：HQ（ハイクオリティ）、FQ（ファインクオリティ）、SP（スタンダードプレイ）
※「メモ」フォルダー内の音声ファイルは「モノラル HQ」モードのみです。

モノラル TRC	フォルダー数制限	ファイル数制限
メモリー内蔵タイプ IC レコーダー	001 ～ 005（固定）	001 ～ 099

お知らせ
同梱の IC レコーダー（RR-US470）は、モノラル録音です。

■ **対応機種：RR-US900/500/090/070/050**
圧縮形式　　：ステレオ TRC/ モノラル TRC
Voice Editing Ver.2.0 でのアイコン：（TRC コーデックマーク）
録音モード　：HQ（ハイクオリティ）、FQ（ファインクオリティ）、SP（スタンダードプレイ）
※ステレオ録音した音声ファイルには、「ステレオ」欄に が表示されます。
「メモ」フォルダー内の音声ファイルは「モノラル HQ」モードのみです。

ステレオ TRC/ モノラル TRC	フォルダー数制限	ファイル数制限
メモリー内蔵タイプ IC レコーダー	001 ～ 005（固定）	001 ～ 099

■ **対応機種：RR-XR320/330、RR-US007/009/520/620**
圧縮形式　　：ADPCM2
Voice Editing Ver.2.0 でのアイコン：（IC レコーダーマーク）
録音モード　：HQ（ハイクオリティ）、SP（スタンダードプレイ）、LP（ロングプレイ）

ADPCM2	フォルダー数制限	ファイル数制限
メモリー内蔵タイプ IC レコーダー	001 ～ 004（固定）	001 ～ 099
SD メモリーカード（IC レコーダーに装着時）	001 ～ 009	

携帯電話、ビデオカメラで録音される音声データ

圧縮形式　　：G.726
Voice Editing Ver.2.0 でのアイコン：（携帯電話／ビデオカメラマーク）
録音モード　：SP（スタンダードプレイ）、LP（ロングプレイ）
※「LP」モードは、携帯電話のみです。

G.726	フォルダー数制限	ファイル数制限
	001 ～ 999	001 ～ 999

音声ファイルは 8 分 24 秒ごとに分割されて保存されます。8 分 24 秒を越える音声ファイルがある場合は、1 フォルダーあたりの保存できるファイル数が 999 個より少なくなります。（☞ 95 ページ「SD_VOICE フォルダーと音声ファイル」）

次ページへ続く ▶

扱える音声ファイルの形式

お知らせ

- 各音声ファイルの録音モードは音声ファイル一覧の「モード」欄に表示されます。
- SD メモリーカードスロット付き IC レコーダーをお使いの場合、Voice Editing では、SD メモリーカード上の、（IC レコーダー）アイコンのフォルダーをご使用ください。
- VM1 形式ファイルは音声データを圧縮しているため、WAVE データよりも少ない容量で保存することができます。
- ? で示される音声ファイルは、保存、再生、編集など操作はできません。（☞ 40 ページ「音声ファイルを編集する」）
- ハードディスク、リムーバブルディスクでのフォルダー数制限は 001 ～ 999、ファイル数制限は 001 ～ 999 です。

WAVE 形式ファイル

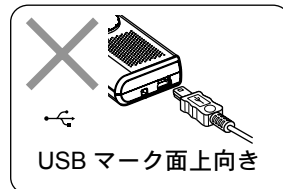
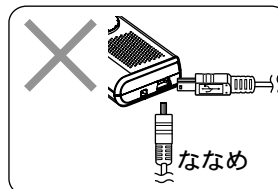
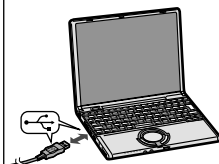
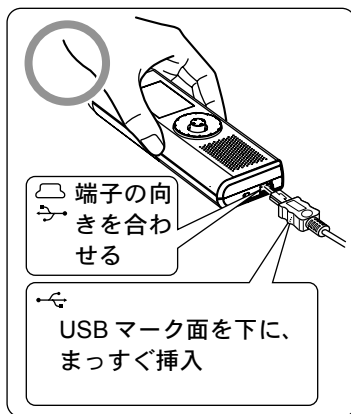
Voice Editing Ver.2.0 で「WAVE → VM1」または「VM1 → WAVE」に変換することができます。
（☞ 34 ページ「変換する」）
「VM1 → WAVE」変換時の初期ファイル名は、
［番号］＋［カナ表示のタイトル名］＋［録音日時］.WAV　です。
　　　　　　ファイル名　　　　　　　　　　拡張子
「WAVE → VM1」変換時の初期タイトル名は、WAVE 形式ファイルのファイル名です。

お知らせ

- ハードディスクの空き容量が少ないと、VM1 形式ファイルを WAVE 形式ファイルへ変換できません。
「一時領域の指定（☞ 90 ページ）」で空き容量の多いハードディスクを指定するか、「音声ファイルの分割（☞ 42 ページ）」機能でファイル容量が小さくなるように分割してください。
- FAT16 のファイルシステムでお使いの場合、ファイルシステムの制限で 2.1G バイト以上の WAVE 形式ファイルが扱えません。
長時間録音した VM1 形式ファイルを WAVE 形式ファイルへ変換する場合、変換した後の WAVE 形式ファイルが 2.1G バイト以内に収まるように「音声ファイルの分割（☞ 42 ページ）」機能で分割してください。

IC レコーダーを接続する

❶ Windows を起動する

❷ IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続する

お知らせ

- Voice Editing は 2 台以上の IC レコーダーの同時使用に対応していません。
  2 台以上の IC レコーダーを同時に接続しないでください。
- IC レコーダーに付属しているケーブルをお使いください。付属品以外を使用すると故障の原因になります。
  また、付属のケーブルは他の機器に使わないでください。
- IC レコーダー本体の USB 端子の抜き差しは、必ず手元で行ってください。
  ななめや裏向きに無理に挿入すると端子が変形して、IC レコーダーや接続する機器の故障の原因になります。
- IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続するときは、IC レコーダーの操作を停止してホールド状態にしてください。
- USB ケーブルでパソコンに接続している間は、IC レコーダー本体の操作はできません。
- IC レコーダーや USB リーダーライターは Voice Editing ではドライブとして認識されます。
  IC レコーダーは Windows 上ではドライブとして認識されません。
- SD メモリーカードを使う場合は、USB リーダーライターまたは PC カードアダプターに SD メモリーカードを差し込み、パソコンと接続してください。

起動と終了

起動する

❶ Windows を起動する

❷ IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続する (☞ 8 ページ)

お知らせ

セキュリティ機能付きの IC レコーダーをパソコンに初めて接続し、Voice Editing Ver.2.0 を起動すると、「認証キー」を入力する画面が表示されます。
詳しい操作については、「IC レコーダーのセキュリティ（☞ 12 ページ）」を参照してください。

〈起動画面〉

❸ デスクトップの Voice Editing アイコンをダブルクリックする

Voice Editing が起動し、初期画面が表示された後、〈ドライブ選択ダイアログ〉画面が表示されます。

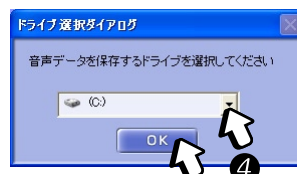
お知らせ

デスクトップにアイコンが表示されていない場合「スタート」メニューから［すべてのプログラム］→［Voice Editing］→［Voice Editing］を順に選びます。

❹ 任意のドライブを選び、 OK をクリックする

確認の画面が表示されます。

お知らせ

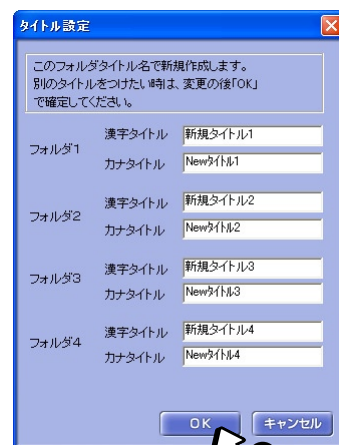
ここで選んだドライブが「デフォルト・ドライブ」になります。

❺ ［はい］ボタンをクリックする

〈タイトル設定〉画面が表示されます。

❻ サブフォルダーのタイトルを決める

- 4 個のサブフォルダーが作成できます。
- カナタイトル（半角）と漢字タイトル（全角）の 2 種類のタイトルを付けることができます。（☞ 51 ページ「タイトルの表示」）
- フォルダータイトルは、後で変更できます。

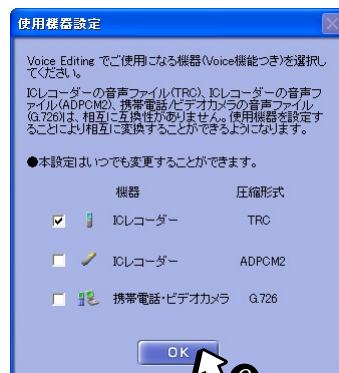
❼ OK をクリックする

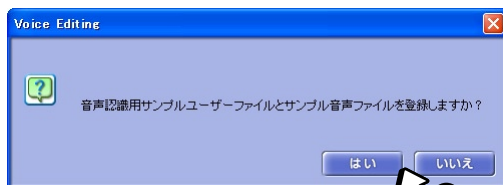
〈使用機器設定〉画面が表示されます。

次ページへ続く ▶

❽ 使用する機器を選ぶ

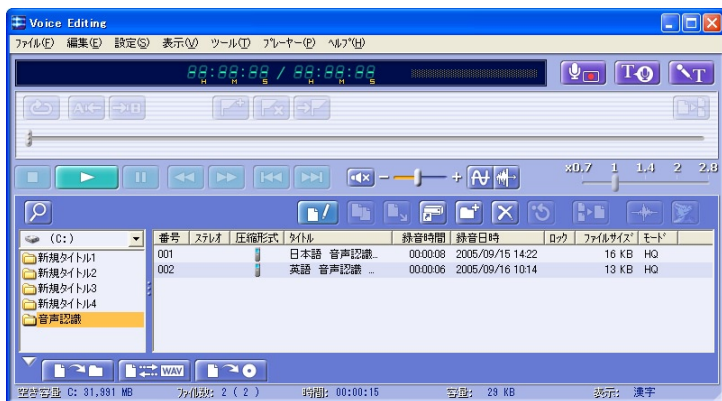
お使いの機器（圧縮形式）に「✔」を付けてください。

❾ OK をクリックする

確認のダイアログが表示されます。

❿ [はい]ボタンまたは、[いいえ]ボタンをクリックする

[はい］ボタンをクリックすると、「音声認識」フォルダーが作成され、音声認識用のサンプル音声ファイルが登録されます。
[いいえ］ボタンをクリックすると、音声認識用のサンプル音声ファイルは登録されません。（☞ 114 ページ「付録」の「音声認識サンプル」）
ボタンをクリックすると、〈メイン画面〉が表示されます。

お知らせ

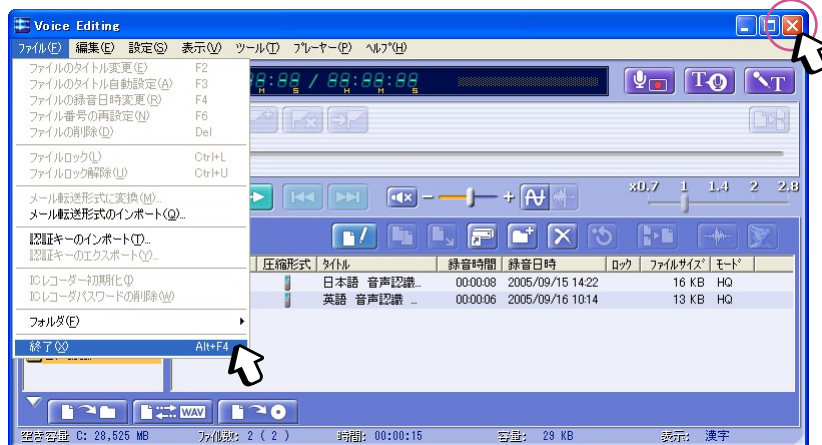
2 回目以降は、 Voice Editing をダブルクリックすると、〈メイン画面〉が表示されます。

〈メイン画面〉

お知らせ

- Windows の画面の設定が「特大フォント」になっていると、〈メイン画面〉の表示が上の通りにならないことがありますので「標準」フォントに変更することをお勧めします。（操作の方法は Windows の取扱説明書をご覧ください）
- 〈メイン画面〉下の は、CD-R/RW ドライブを接続している Windows XP をお使いになっている場合のみ、表示されます。

次ページへ続く ▶

終了する

画面右上の❎をクリックする
または
「ファイル」メニューから［終了］を選ぶ

IC レコーダーのセキュリティ

■IC レコーダー本体の「セキュリティ」について

- 下記の IC レコーダーには、セキュリティ機能が付いています。
  - RR-US470
- セキュリティ機能付き IC レコーダーには、下記のフォルダーがあります。
  「A」、「B」、「C」、「S」、「M」
  セキュリティ機能を持っているフォルダーは、「S」セキュリティフォルダー（FolderS）のみです。
- セキュリティ機能付き IC レコーダーには、下記の 2 つのセキュリティ機能があります。

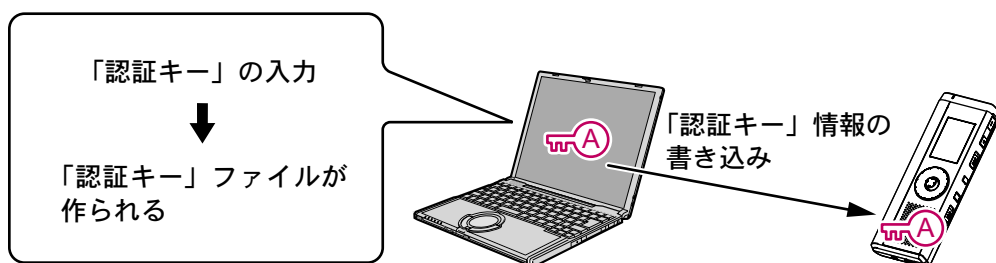
①IC レコーダー本体の「パスワード」によるセキュリティ機能

IC レコーダー本体に「パスワード」の設定ができます。
「パスワード」を設定した後、「S」セキュリティフォルダー (FolderS) 内の音声ファイルを再生するとき、「パスワード」の入力が必要になります。
IC レコーダーの操作、「パスワード」については、IC レコーダー本体の取扱説明書をご覧ください。
IC レコーダー本体の「パスワード」を忘れた場合、Voice Editing で「パスワード」の解除ができます。
(☞ 20 ページ)

② Voice Editing による「認証キー」を用いたセキュリティ機能

パソコンとセキュリティ機能付き IC レコーダーの「認証キー」が一致することで、セキュリティフォルダー（FolderS）内の音声ファイルの再生ができます。

■「認証キー」について

セキュリティ機能付き IC レコーダーのセキュリティフォルダー（FolderS）内の音声ファイルを再生するためには「認証キー」が必要です。
セキュリティ機能付きの IC レコーダーをパソコンに初めて接続すると、「認証キー」を入力する画面が表示されます。
「認証キー」を入力すると「認証キー」ファイルが作られ、接続している IC レコーダーに「認証キー」に基づく情報が書き込まれます。

これ以降、「認証キー」を書き込まれたセキュリティ機能付き IC レコーダーは、「認証キー」が一致するパソコンに接続するとセキュリティフォルダー（FolderS）内の音声ファイルの再生ができるようになります。
「認証キー」が一致していないパソコンにセキュリティ機能付き IC レコーダーを接続してもセキュリティフォルダー（FolderS）内の音声ファイルの再生はできません。

次ページへ続く ▶

IC レコーダーのセキュリティ

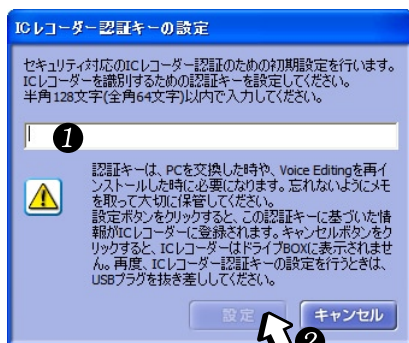
「認証キー」は、全角で 1 文字から 64 文字（半角で 128 文字）まで設定できます。
覚えやすい言葉や自分に関連した文字列にすることができます。
たとえば、自分の座右の銘や好きな詩の一節、仕事に関係した単語を幾つか並べるなど、覚えやすい文章を「認証キー」にすることができます。
入力した「認証キー」は、パソコンの買い替えなどで、Voice Editing を再インストールするときに必要になります。
再インストール後、最初に設定した「認証キー」と同じ「認証キー」を入力しないと、IC レコーダーのセキュリティフォルダー（FolderS）内の音声ファイルの再生ができません。
「認証キー」は、必ず、忘れないように書きとめて大切に保管してください。

お知らせ

下記の 3 つのものは、厳密には同じものではありません。ただし、便宜上、以降は「認証キー」として説明しています。

- パソコンに初めて接続するときに入力した「認証キー」
- パソコンに保存した「認証キー」ファイル
- IC レコーダーに書き込まれる、「認証キー」に基づく情報

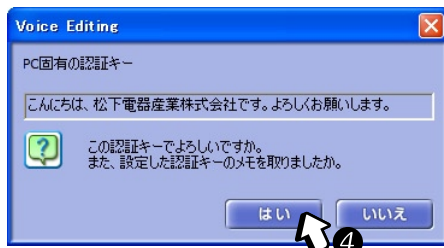
認証キーを設定する

セキュリティ機能付きの IC レコーダーをパソコンに初めて接続し、Voice Editing Ver.2.0 を起動すると、下記の画面が表示されます。

❶「認証キー」を入力する

お知らせ

- 「認証キー」は、全角 1 文字～ 64 文字（半角の場合、128 文字）以内で入力してください。
- 「認証キー」は、記憶しやすい文章にすることをお勧めします。
  例：こんにちは、松下電器産業株式会社です。よろしくお願いします。

❷〈IC レコーダー認証キーの設定〉画面の 設定 をクリックする

確認の画面が表示されます。

❸入力した「認証キー」を書きとめる

入力した「認証キー」は、パソコンの買い替えなどで Voice Editing を再インストールするときに必要になります。
IC レコーダー本体の取扱説明書に、「認証キー」を記入する欄があります。必ず、忘れないように書きとめて大切に保管してください。

次ページへ続く ▶

❹ 確認の画面の はい をクリックする

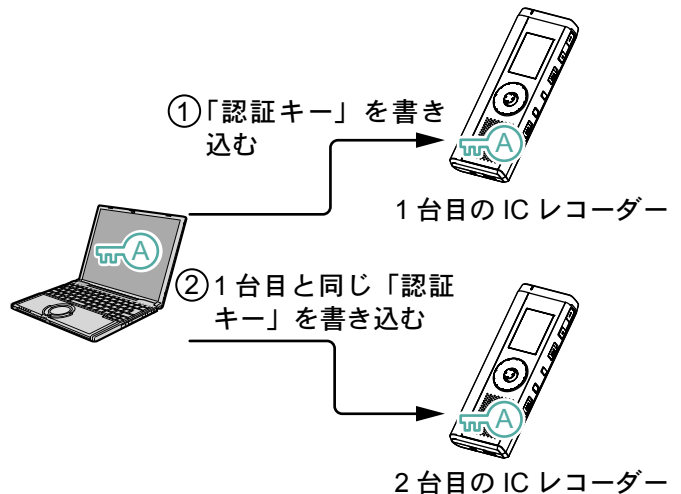
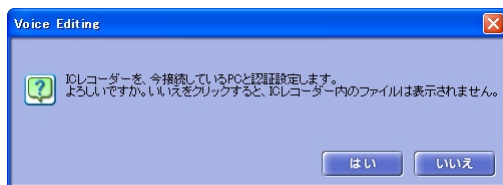
入力した「認証キー」に基づいた情報が、接続しているセキュリティ機能付き IC レコーダーに書き込まれます。
IC レコーダーのセキュリティフォルダー（FolderS）内の音声ファイルの再生ができます。

複数の IC レコーダーを使う

1 台のパソコンで複数のセキュリティ機能付き IC レコーダーを使う場合、「認証キー」は、下記のように設定されます。

2 台の IC レコーダーを 1 台のパソコンで使う場合

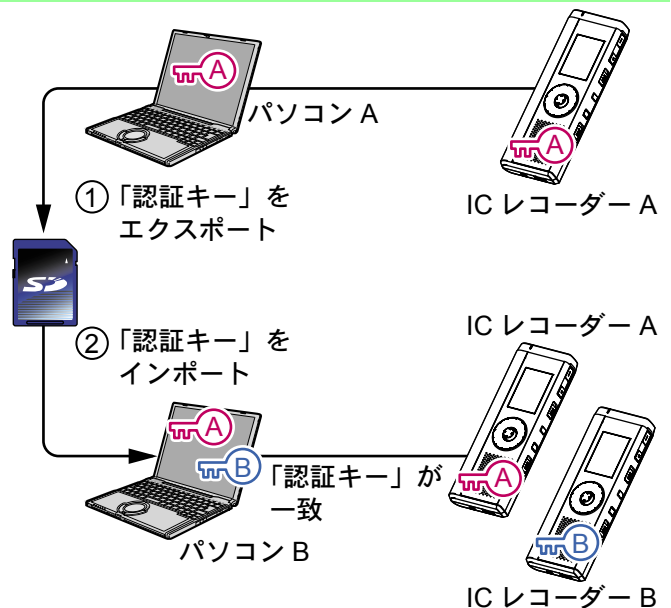
①1 台目の IC レコーダーをパソコンに接続、「認証キー」を設定します。
「認証キー」は、1 台目の IC レコーダーに書き込まれます。

②2 台目の IC レコーダーを接続すると、確認のダイアログが表示されます。

はい をクリックすると、1 台目の「認証キー」が 2 台目の IC レコーダーに書き込まれます。
この場合、同じ「認証キー」を 2 台の IC レコーダーで使います。

他のパソコンで「認証キー」の設定を行った IC レコーダーを接続する場合

たとえば、パソコン A で認証を済ませている IC レコーダー A を、すでに IC レコーダー B の認証が済んでいるパソコン B に接続する場合、

①パソコン A で「認証キー」をエクスポートします。
②パソコン B へ「認証キー」をインポートします。

詳しい操作の手順については、『「認証キー」のエクスポートとインポート（☞ 17 ページ）』を参照してください。

ご注意

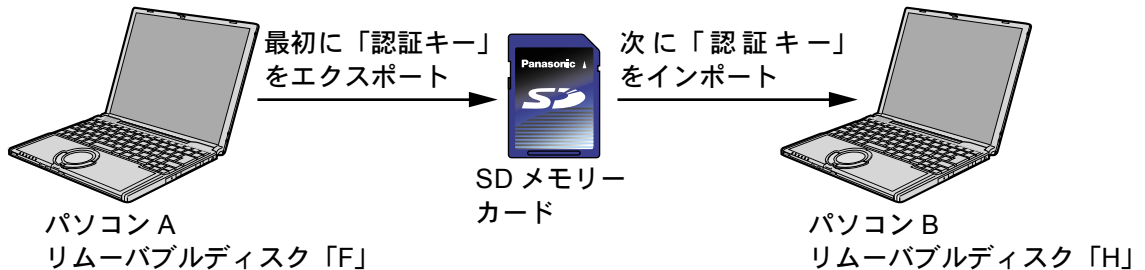
- 1 台のパソコンに設定できる「認証キー」の数には制限があります。
- Voice Editing は、1 台のパソコンに対してのみ使用が許可されています。
  複数台のパソコンで使用する場合、インストールするパソコン毎に IC レコーダーをお買い求めいただき、付属の Voice Editing をそれぞれのパソコンにインストールしてください。

次ページへ続く

IC レコーダーのセキュリティ

■「認証キー」のエクスポートとインポート

お知らせ

- ここでは、パソコン A の「認証キー」を、SD メモリーカードを使って、パソコン B へエクスポートとインポートを行う手順を例に説明します。
- パソコンの構成は、「認証キー」をエクスポートするパソコン A のリムーバブルディスクを「F」、「認証キー」をインポートするパソコン B のリムーバブルディスクを「H」として説明します。

※リムーバブルディスクとは、パソコンに接続されている外部記憶装置（SD メモリーカード、USB メモリーなど）です。「マイコンピュータ」を開くと表示されます。

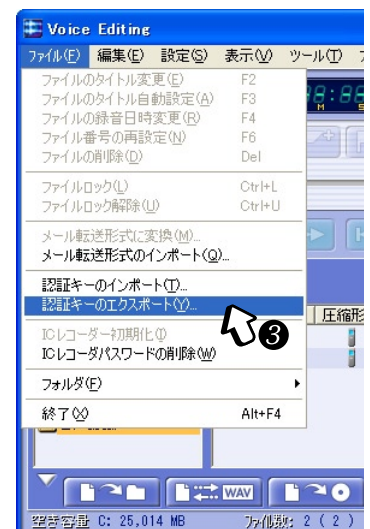
- 説明中のパソコンの構成、外部記憶装置の種類などは、一例です。
  実際にお使いになっているパソコンによっては、「F」、「H」は変わります。

●最初に、パソコン A から IC レコーダー A の「認証キー」をエクスポートします。

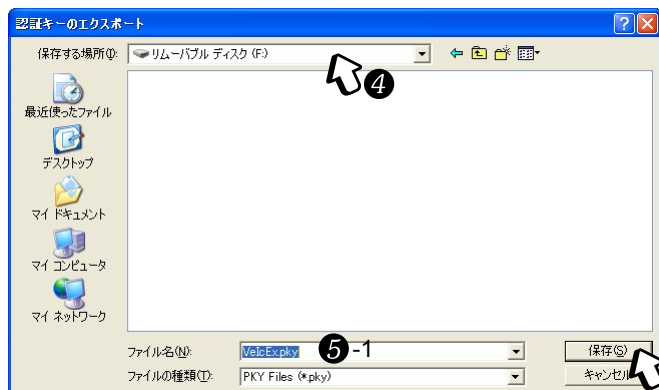
❶「認証キー」をエクスポートしたい IC レコーダー A かどうか確認する

❷ 手順❶で確認した IC レコーダー A と「認証キー」が一致するパソコン A を USB ケーブルで接続する（☞ 8 ページ）

❸［ファイル］メニューから［認証キーのエクスポート］を選ぶ

〈認証キーのエクスポート〉画面が表示されます。

次ページへ続く

❹〈認証キーのエクスポート〉画面で、「認証キー」を保存する場所を選ぶ

ここでは、リムーバブルディスク「F」のSDメモリーカード内を選びます。

❺「認証キー」に名前を付け、［保存］ボタンをクリックする

「認証キー」が pky ファイル（*.pky）として保存されます。

●次に、IC レコーダー A の「認証キー」をパソコン B へインポートします。

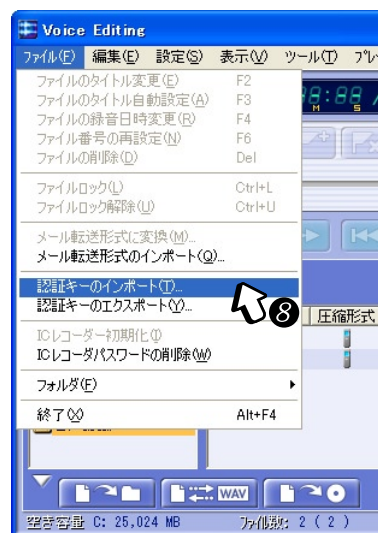
❻ pky ファイル（*.pky）を保存したメディアを別のパソコンに接続する

ここでは、「認証キー」を保存した SD メモリーカードをパソコン B のリムーバブルディスク「H」に接続します。

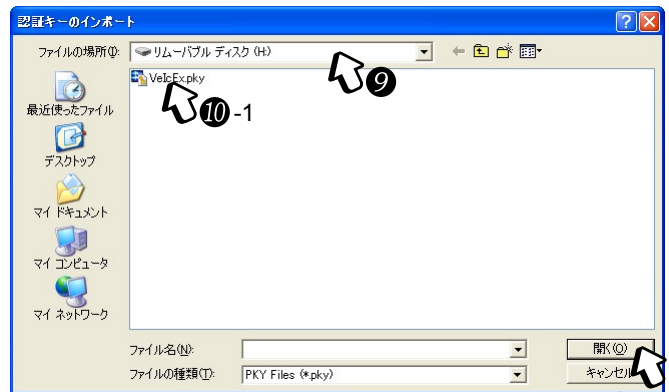
❼ Voice Editing を起動する（☞ 9 ページ）

ここでは、パソコン B の Voice Editing を起動します。

❽［ファイル］メニューから［認証キーのインポート］を選ぶ

〈認証キーのインポート〉画面が表示されます。

次ページへ続く ▶

❾〈認証キーのインポート〉画面で、「認証キー」の場所を選ぶ

ここでは、手順❻で接続したリムーバブルディスク「H」の SD メモリーカード内を選びます。

❿「認証キー」を選び、［開く］ボタンをクリックする

「認証キー」が読み込まれます。

⓫ IC レコーダー A とパソコン B を USB ケーブルで接続する（☞ 8 ページ）

IC レコーダー A のセキュリティフォルダー（FolderS）内の音声ファイルの再生ができます。

お知らせ

- ［認証キーのエクスポート］は、下記の場合に選ぶことができます。
  セキュリティ機能付き IC レコーダーを「認証キー」が一致するパソコンに接続している
- ［認証キーのインポート］は、下記の場合に選ぶことができます。
  - セキュリティ機能付き IC レコーダーを「認証キー」が一致しないパソコンに接続している
  - セキュリティ機能付き IC レコーダーを接続していない

IC レコーダーの「パスワード」を削除する

IC レコーダーの「パスワード」を忘れた場合や変更したい場合など、IC レコーダーの「パスワード」を Voice Editing で解除できます。

お知らせ

「認証キー」が一致していない IC レコーダーの「パスワード」の解除はできません。

❶「パスワード」を解除したい IC レコーダーか確認する

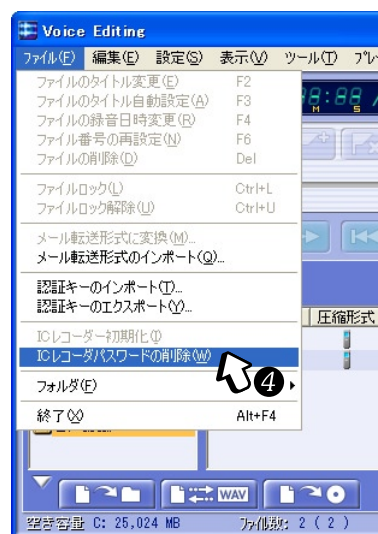
❷ 手順❶で確認した IC レコーダーと「認証キー」が一致するパソコンを USB ケーブルで接続する（☞ 8 ページ）

❸ ドライブボックスのプルダウンリストから、IC レコーダーを選ぶ

❹［ファイル］メニューから［IC レコーダパスワードの削除］を選ぶ

確認の画面が表示されます。

❺ 確認の画面の はい をクリックする

IC レコーダーの「パスワード」が解除されます。

お知らせ

「パスワード」の設定は、IC レコーダー側で行ってください。
IC レコーダーの操作、「パスワード」については、IC レコーダー本体の取扱説明書をご覧ください。

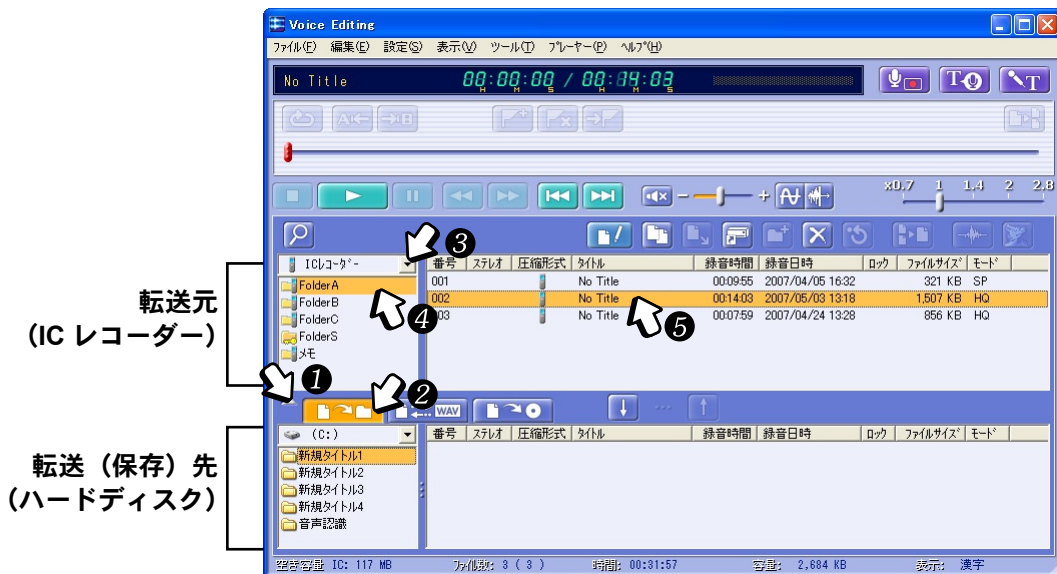
転送（保存）する

音声ファイルとサブフォルダーは一定の形式、名前、構造で保存されます。
（☞ 95 ページ「フォルダー構造」）

お知らせ

使用機器設定で、複数の機器を選んだ場合、転送（保存）時に圧縮形式を変換することができますが、圧縮形式を変換せずに転送（保存）することをお勧めします。（☞ 89 ページ「使用機器の選択」）

パソコンへの転送（保存）

IC レコーダー、SD メモリーカード内の VM1 形式の音声ファイルを、パソコンのハードディスクへ転送（保存）することができます。
複数のハードディスクドライブがある場合は、別のハードディスクドライブにも転送（保存）できます。

❶ をクリックする

に変わり、下のウィンドウが開きます。

❷ をクリックする

❸ 上のウィンドウで転送元のドライブを選ぶ

❹ サブフォルダーを選ぶ

❺ 転送（保存）したい音声ファイルを選ぶ

■ 複数の音声ファイルを同時に選ぶには

- 連続する場合：最初の音声ファイルでクリック、⇧ Shift キーを押しながら最後の音声ファイルをクリックする
- 離れた位置の場合：Ctrl キーを押しながら音声ファイルをクリックする

次ページへ続く ▶

❻ 下のウィンドウで転送（保存）先のドライブを選ぶ

選んだドライブの空き容量がステータスバーに表示されます。

❼ サブフォルダーを選ぶ

❽ [↓]をクリックする

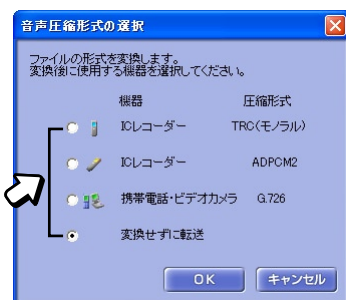
転送先に音声ファイルが追加表示されます。
転送元の音声ファイルは、そのまま残ります。

タイトルが付いていない音声ファイルを転送すると、自動的に圧縮形式とモード、録音日時がタイトル名になります。

■ 複数の機器を選んでいる場合
(☞ 89 ページ「使用機器の選択」)
❽の後、右図のような〈音声圧縮形式の選択〉画面が表示されます。お使いの機器（圧縮形式）を選んでください。

■ ステレオ TRC の音声ファイルを選んでいる場合
〈使用機器設定〉画面で、圧縮形式が TRC の IC レコーダーのみを選んでいるとき、ステレオ TRC を転送（保存）する場合も右図のような〈音声圧縮形式の選択〉画面が表示されます。

次ページへ続く

もくじへ

転送（保存）する

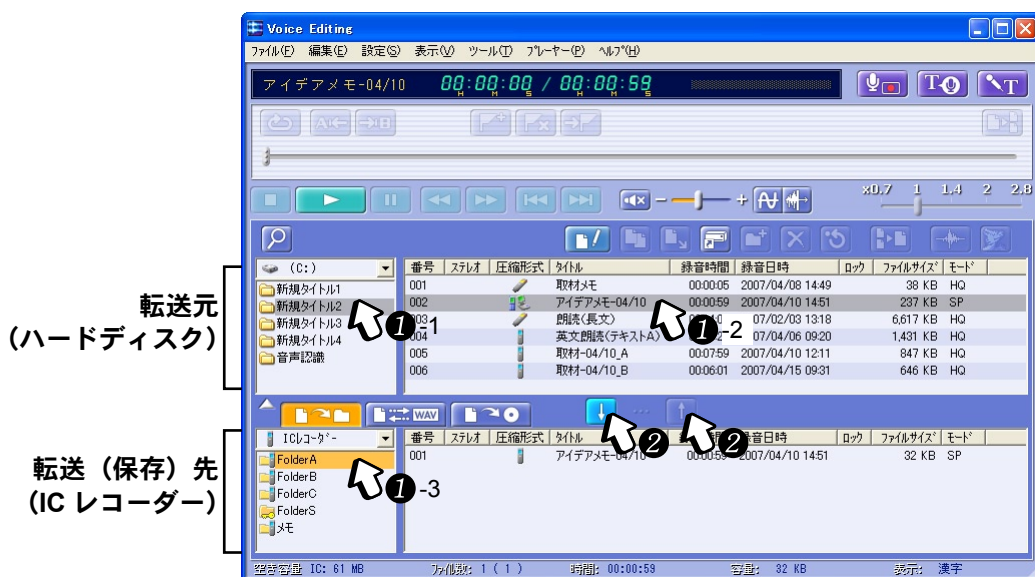
お知らせ

- 選んだドライブに「SD_VOICE」フォルダーやサブフォルダーがない場合は、「SD_VOICE」フォルダーと 4 つのサブフォルダーが作成されます。仮想ドライブを選択した場合は 1 つのサブフォルダーが作成されます。
- 空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、転送時に一時領域を使用するために、転送（保存）ができないことがあります。
- タイトルが付いていない音声ファイルを SD メモリーカードからパソコンへ転送するとき、SD メモリーカードが「LOCK」されているとタイトル名は「No Title」になります。
- 転送した音声ファイルの内容がわかるようにタイトルの変更ができます。(☞ 51 ページ「タイトルを編集する」)
- 機器によっては、音声ファイルを録音した日時が記録されない場合があります。
  音声ファイルの録音日時の設定または変更ができます。（☞ 55 ページ「録音日時を変更する」）
- をクリックする他に、下記の方法でも下のウィンドウが開きます。
  － をクリックする
  －「表示」メニューから［ファイルの転送ウィンドウ表示］を選ぶ
- 音声ファイルの選択状態を反転する場合、「編集」メニューから［選択の切り替え］を選びます。
- ステレオ録音した音声ファイルは、「ステレオ」欄に が付きます。
- ステレオ TRC の音声ファイルを他の圧縮形式に変換すると、下記の録音モードになります。

圧縮形式	ステレオ TRC		〈音声圧縮形式の選択〉画面の機器名			
			TRC コーディック（モノラル TRC）	IC レコーダー（ADPCM2）	携帯電話・ビデオカメラ（G.726）	変換せずに転送（ステレオ TRC）
録音モード	HQ モード（ステレオ）	▶	HQ モード（モノラル）	HQ モード	SP モード	HQ モード（ステレオ）
	FQ モード（ステレオ）	▶	FQ モード（モノラル）	HQ モード	SP モード	FQ モード（ステレオ）
	SP モード（ステレオ）	▶	SP モード（モノラル）	SP モード	SP モード	SP モード（ステレオ）

- ステレオの音声ファイルをモノラルの音声圧縮形式に変換すると、元のステレオには戻りません。
- 転送（保存）するときに音声圧縮形式を変更する場合、一時的にファイルを作成します。
  圧縮形式によっては一時的なファイルが大きくなる場合があります。
  その場合、［オプション］で空き容量が多いハードディスクの指定ができます。（☞ 90 ページ「オプションの設定」）

IC レコーダーなどへの転送（保存）

上下のウィンドウでの選択と↓ ↑により、IC レコーダーや、SD メモリーカード、ハードディスク間で音声ファイルを相互に転送できます。

❶ 上下ウィンドウで転送元と転送（保存）先のサブフォルダーと音声ファイルを選ぶ

上を転送元で下を転送（保存）先とするか、下を転送元で上を転送（保存）先にしてください。

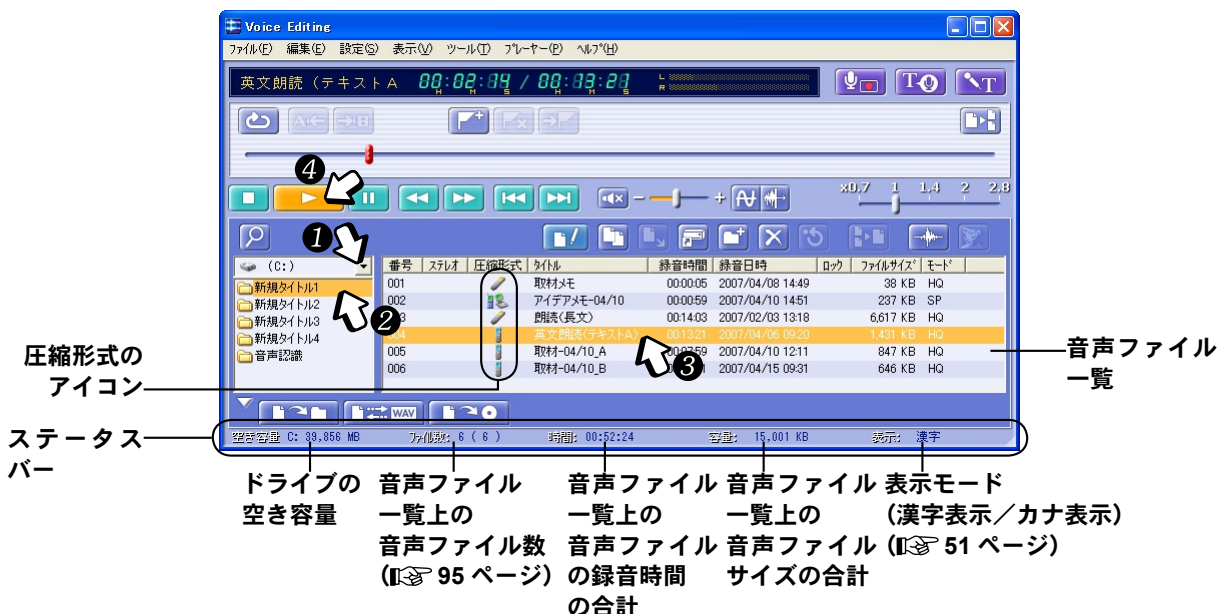
❷ ↓か↑をクリックする

転送先ウィンドウに音声ファイルが追加表示されます。

お知らせ

- 転送（保存）中は、IC レコーダーや SD メモリーカードなどのリムーバブルメディアの取り付け／取り外しは、絶対にしないでください。
- 上下ウィンドウで転送（保存）先・転送元に同一の IC レコーダーを選ぶことはできません。
- IC レコーダーを 2 台以上接続し、IC レコーダー間での直接転送（保存）はできません。
- IC レコーダーの機種によっては、IC レコーダーのフォルダーボックスに「メモ」フォルダーが表示されます。「メモ」フォルダー内の音声ファイルは他のフォルダーや SD メモリーカード、ハードディスクへ転送（保存）できますが、他のフォルダーから「メモ」フォルダーへ転送（保存）することはできません。
- Voice Editing から IC レコーダーへ転送（保存）した音声ファイルのタイトルは、転送（保存）時に表示されていたタイトルになります。
  たとえば、漢字表示のときに IC レコーダーへ音声ファイルを転送（保存）すると、IC レコーダーでは漢字表示のときのタイトルになります。
- IC レコーダーに転送（保存）した音声ファイルのタイトルが全角で先頭から 16 文字を超えている場合は、全角 17 文字目以降（半角の場合は、先頭から 33 文字目以降）は削除されます。（☞ 51 ページ「タイトルの表示」）

音声ファイルの再生

パソコンのハードディスクや IC レコーダーに保存した音声ファイルが再生できます。

❶ ドライブを選ぶ

❷ サブフォルダーを選ぶ

❸ 再生する音声ファイルを選ぶ

圧縮形式のアイコン ：TRC
：ADPCM2
：G.726
：形式不明のファイル（再生できません）

❹ ▶ をクリックする

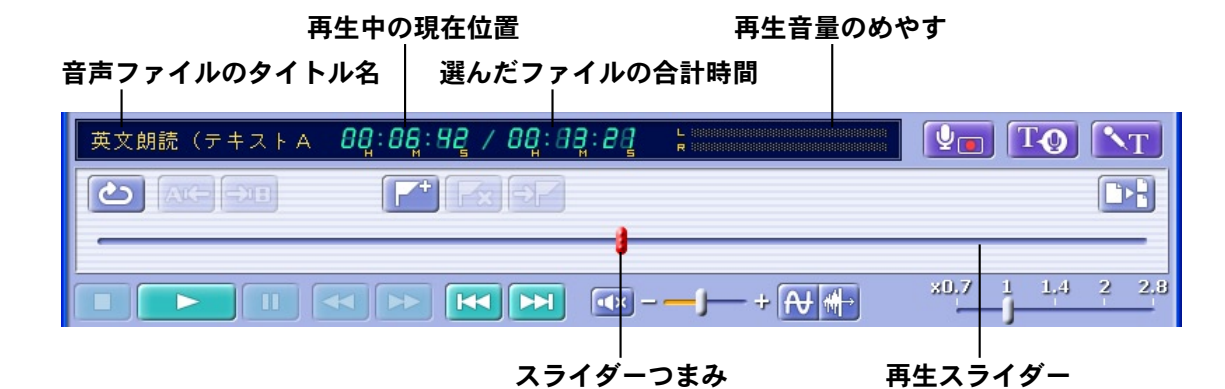
▶ に変わり、が再生位置を示します。

お知らせ

- エクスプローラーで、VM1 形式ファイルをダブルクリックしても再生されません。
- 複数の音声ファイルを選んでいる場合は音声ファイル一覧の上から順次再生されます。
（☞ 21 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）
- WAVE 形式の音声ファイルも再生できます。ただし、再生スピードの調整はできません。

次ページへ続く ▶

もくじへ

ボタンの機能

停止

再生

一時停止（もう一度クリックするか、 をクリックすると再生が始まります）

早戻し／早送り（再生中に押し続ける。離すと通常の再生に戻ります）

スキップ（前後の音声ファイルに移ります）

エフェクター： をクリックした後、右隣の上下矢印をクリックして音質を切り替えます。

音質調整の一覧

音質調整番号	効　果
1 ～ 3	高音域カット
4 , 5	低音域カット
6 ～ 8	高音域＋低音域カット
9 , 10	中音域カット

• 録音状態によっては効果のない場合があります。

ノイズキャンセラー： をクリックした後、右隣の上下矢印をクリックして雑音（ノイズ）を調節します。

ノイズ調整の一覧

ノイズキャンセラーの強弱レベル	効　果
1	弱
2	中弱
3	中
4	中強
5	強

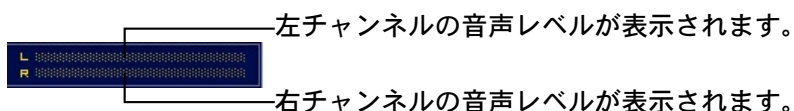
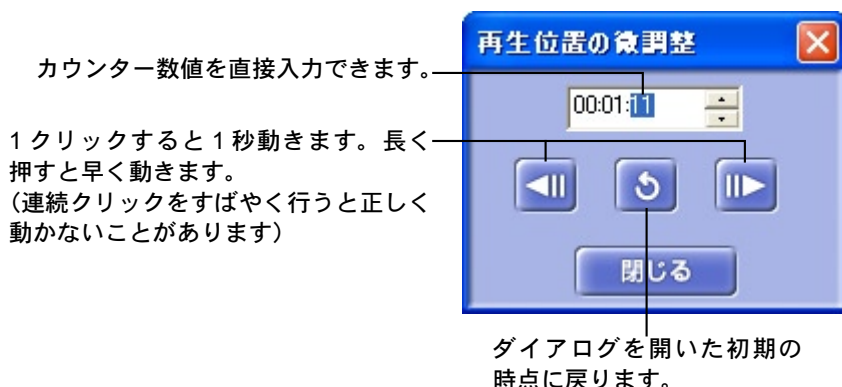
• 録音された環境によっては、ノイズキャンセル機能が有効に働かない場合があります。
• ノイズキャンセルの強度（1 ～ 5）によっては、音声レベルが小さくなったり、音質が変わったりする場合があります。
• 〈音声ファイル波形〉画面でもノイズキャンセル機能が使えます。（☞ 49 ページ）

次ページへ続く

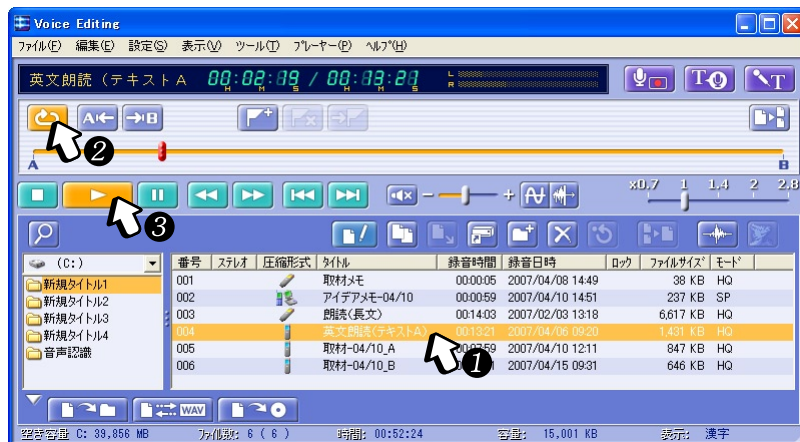
消音（音声ミュート）（再度クリックすると、音が出ます）

音量調整

再生音量のめやす
モノラル録音の音声ファイルを選んでいる場合、左上の図のような再生音量を表示します。
ステレオ録音の音声ファイルを選んでいる場合、左右の再生音量を表示します。

L
R
左チャンネルの音声レベルが表示されます。
右チャンネルの音声レベルが表示されます。

スライダーつまみ
（右クリックし、［微調整ダイアログを表示］をクリックすると、下図の画面が開きます。）

お知らせ

- 24 時間を超える音声ファイルは、〈再生位置の微調整〉画面を開くことができません。
- 再生や停止などの音声ファイル操作ボタンは、下記の方法でも操作できます。
  - プルダウンメニューの「プレーヤー」メニューから操作を選ぶ
  - キーボード操作（☞ 68 ページ）
  - 音声による操作（☞ 73 ページ）

1 つの音声ファイルの繰り返し再生（リピート）

❶ 再生する音声ファイルを選ぶ

❷ をクリックする

に変わり、再生スライダーの表示がオレンジ色になります。
解除するにはもう一度クリックします。

❸ をクリックする

に変わり、繰り返し再生されます。
停止するにはをクリックします。

指定した 2 点間の繰り返し再生

❶ 再生する音声ファイルを選ぶ

❷ [ボタン] をクリックする

[ボタン] に変わり、再生スライダーの表示がオレンジ色になります。

❸ [▶] をクリックする

[▶] に変わり、再生が始まります。

❹ [マーカー] が開始する位置に移動したら [A←] をクリックする／
[マーカー] が終了する位置に移動したら [→B] をクリックする

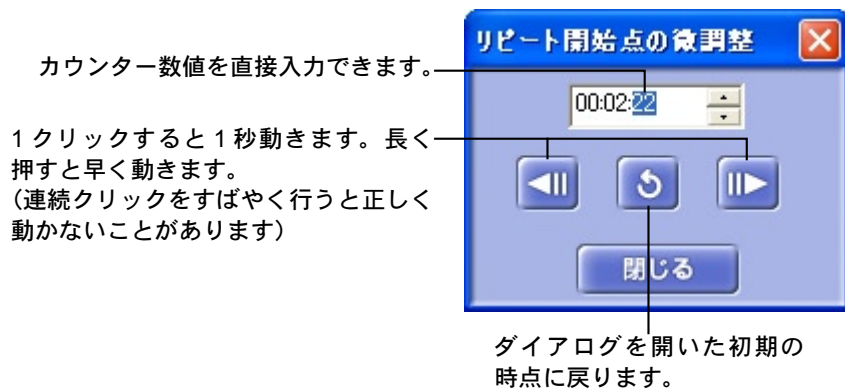
- 再生スライダーの A 点、B 点の間だけがオレンジ色に表示されます。
- [■] を押すまで繰り返し再生されます。

次ページへ続く ▶

もくじへ

再生する

お知らせ

- A を指定しなければ音声ファイルの先頭が開始点になり、B を指定しなければ音声ファイルの最後が終了点になります。
- ［A］と［B］をドラッグして動かすこともできます。
- ［A］、［B］を右クリックし、［微調整ダイアログを表示］をクリックすると位置の微調整ができます。

- 24 時間を超える音声ファイルは、〈リピート開始点の微調整〉画面を開くことができません。

インデックス機能

音声ファイルに、の付加（最大 16 カ所）、削除ができます。
を付けると、すばやく聞きたい位置から聞くことができます。

お知らせ

- IC レコーダーではインデックス機能を使うことはできません。
  パソコン上でを付けた音声ファイルを IC レコーダーに転送（保存）するとは解除されます。
- SD メモリーカードにはの情報は保存されます。

インデックスの付加

1 音声ファイルを再生する

2 付加する点でをクリックする

が付きます。

インデックスの削除

1 をクリックする

2 をクリックする

- が解除されます。
- 複数のがあるときは、続けてをクリックするとより左側が連続して解除できます。

インデックスを付けた位置からの再生

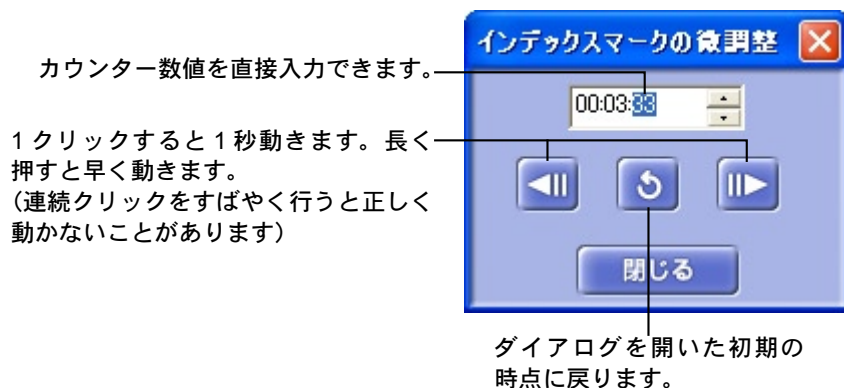
1 音声ファイルを再生する

2 をクリックする

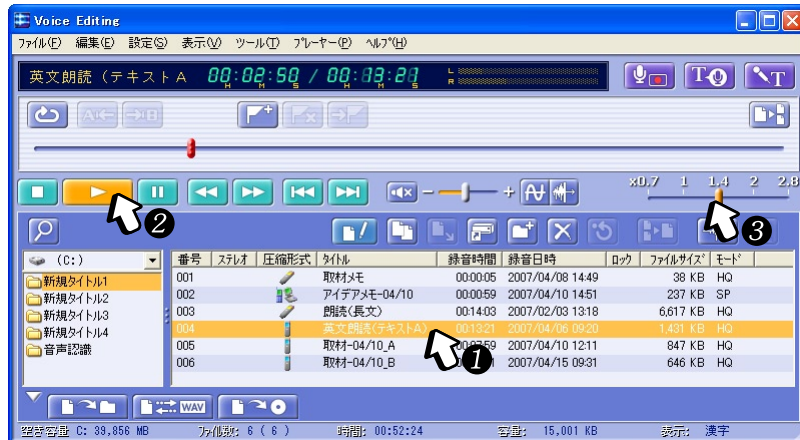
がまで飛びます。

次ページへ続く

お知らせ

- 音声ファイルを結合、分割するとは解除されます。
- の間隔は、最短 1 秒です。
- を右クリックし、［微調整ダイアログを表示］をクリックすると位置の微調整ができます。

- 24 時間を超える音声ファイルは、〈インデックスマークの微調整〉画面を開くことができません。

再生スピードの調整

聞きたい位置を早く探すために早聞きしたいときや、メモの書き取りなどで遅くして聞きたいときに音声ファイルの再生スピードを変えることができます。

❶ 再生する音声ファイルを選ぶ

❷ ［▶］をクリックする

［▶］に変わり、再生が始まります。

❸ 再生速度調整つまみを目盛り位置にドラッグする

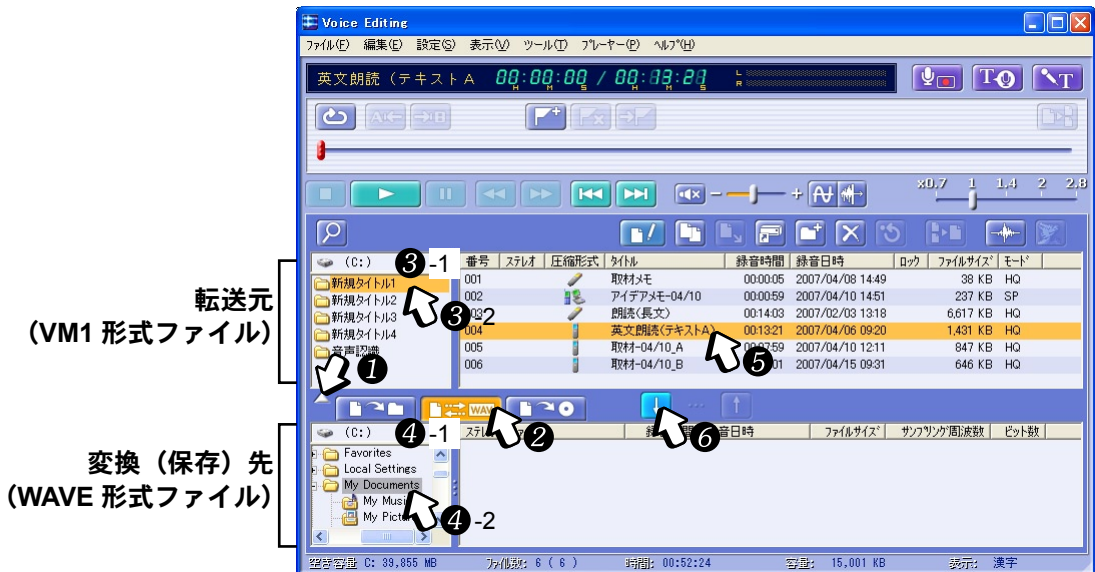
お知らせ

- 再生スピードを変更すると、再生される音声ファイルの音の高さがわずかに変わります。
- IC レコーダー内の音声ファイルを直接再生する場合、再生スピードの調整はできません。
- WAVE 形式の音楽ファイルを再生する場合、再生スピードの調整はできません。

変換する

VM1 形式の音声ファイルを WAVE 形式に変換して転送（保存）することができます。
逆に、WAVE 形式の音声ファイルを VM1 形式に変換して転送（保存）することもできます。

VM1 → WAVE 形式に変換

〈ファイル変換〉画面

❶ をクリックする

に変わり、下のウィンドウが開きます。

❷ をクリックする

❸ 上ウィンドウで転送元のドライブとサブフォルダーを選ぶ

❹ 下の「WAV 変換ウィンドウ」で変換（保存）先のドライブとフォルダーを選ぶ

❺ 変換したい VM1 形式の音声ファイルを選ぶ

（☞ 21 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

❻ をクリックする

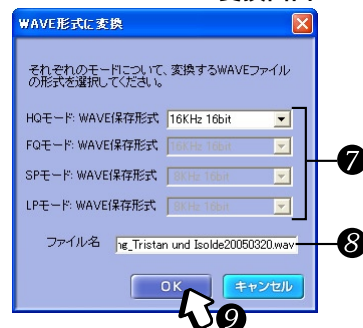
に変わり、〈WAVE 形式に変換〉画面が表示されます。

次ページへ続く ▶

変換画面

❼ WAVE 形式ファイルのモードを選ぶ

録音モードに対応した WAVE 形式を選んでください。

VM1 形式	変 換	WAVE 形式
HQ モード（ステレオ） HQ モード（モノラル）	▶	8 kHz/16 bit、11 kHz/16 bit、16 kHz/16 bit、22 kHz/16 bit のいずれか
FQ モード（ステレオ） FQ モード（モノラル）	▶	8 kHz/16 bit、11 kHz/16 bit、16 kHz/16 bit、22 kHz/16 bit のいずれか
SP モード（ステレオ） SP モード（モノラル）	▶	8 kHz/16 bit または 11 kHz/16 bit
LP モード	▶	8 kHz/16 bit

❽ ファイル名を入力する

変換時の初期ファイル名は［番号］＋［カナ表示のタイトル名］＋［録音日時］.WAV です。

お知らせ

- タイトル名に「\/:.;*?"<> ｜」が含まれる場合は自動的に「_」に置き換わります。
- 複数の音声ファイルを変換する場合、上記のタイトル名で自動的に変換されます。

❾ OK をクリックする

- 「WAV 変換ウィンドウ」に変換（転送）した WAVE 音声ファイルが表示されます。
- ▶ をクリックすると再生、確認できます。

お知らせ

- 空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、変換時に一時領域を使用するために、変換できない場合があります。
- WAVE 形式ファイルに変換する場合は転送（保存）先を「SD_VOICE」フォルダー以外の場所に指定してください。
- WAVE 形式の音声ファイルの転送（保存）先として、IC レコーダーは指定できません。
- WAVE 形式の音声ファイルを再生する場合、再生スピードの調整はできません。
- ハードディスクの空き容量が少ないと、VM1 形式ファイルを WAVE 形式ファイルへ変換できません。
  「一時領域の指定（☞ 90 ページ）」で空き容量の多いハードディスクを指定するか、「音声ファイルの分割（☞ 42 ページ）」機能でファイル容量が小さくなるように分割してください。
- FAT16 のファイルシステムでお使いの場合、ファイルシステムの制限で 2.1G バイト以上の WAVE 形式ファイルが扱えません。
  長時間録音した VM1 形式ファイルを WAVE 形式ファイルへ変換する場合、変換した後の WAVE 形式ファイルが 2.1G バイト以内に収まるように「音声ファイルの分割（☞ 42 ページ）」機能で分割してください。

WAVE → VM1 形式に変換

❶ をクリックする

に変わり、下のウィンドウが開きます。

❷ をクリックする

❸ 下の「WAVE 変換ウィンドウ」でドライブとフォルダーを選ぶ

❹ 上ウィンドウで変換（保存）先のドライブとサブフォルダーを選ぶ

❺ 変換したい WAVE 形式の音声ファイルを選ぶ

をクリックすると音声ファイルの内容が確認できます。

（☞ 21 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

次ページへ続く ▶

❻ をクリックする

下表と使用機器選択で設定された内容に従って自動的に変換されます。（☞ 89 ページ）

■ モノラル録音の場合

WAVE 形式（サンプリング周波数）	変 換	VM1 形式	圧縮形式
6.4 kHz	▶	SP モード	モノラル TRC
8 kHz	▶	FQ モード	
11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	HQ モード	
6.4 kHz	▶	LP モード	ADPCM2
8 kHz	▶	SP モード	
11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	HQ モード	
8 / 11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	SP モード	G.726

■ ステレオ録音の場合

WAVE 形式（サンプリング周波数）	変 換	VM1 形式	圧縮形式
6.4 kHz	▶	SP モード（ステレオ）	ステレオ TRC
8 kHz	▶	FQ モード（ステレオ）	
11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	HQ モード（ステレオ）	
6.4 kHz	▶	LP モード	ADPCM2
8 kHz	▶	SP モード	
11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	HQ モード	
8 / 11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	SP モード	G.726

上のウィンドウに変換・転送された VM1 形式の音声ファイルが表示されます。
タイトル名は WAVE 形式ファイルのファイル名が自動的に設定されます。
- 漢字表示のタイトル：WAVE 音声ファイルのファイル名
- カナ表示のタイトル：FromWAV_［録音時間］_［サンプリング周波数］_［ビット数］

お知らせ

空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、変換時に一時領域を使用するために、変換できないことがあります。

ファイルを検索する

音声ファイルを検索します。

❶ をクリックする

- に変わり、「検索モード」になります。右側に「検索キーワード入力」欄が表示されます。
- 音声ファイル一覧の項目に「フォルダタイトル」が表示されます。

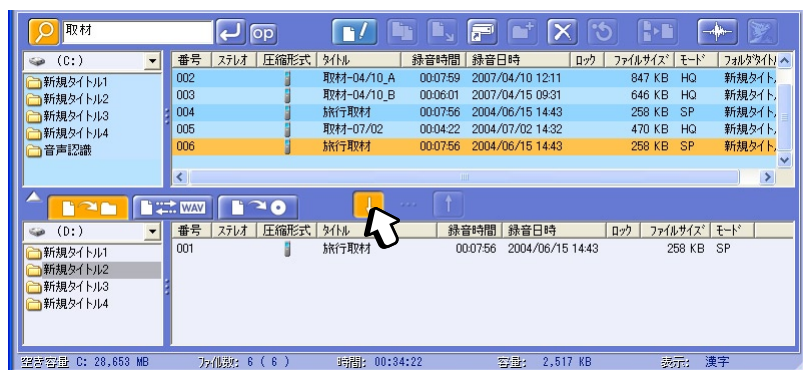
❷ 音声ファイルを検索するドライブを選ぶ

❸「検索キーワード入力」欄にキーワードを入力する

❹ をクリックする

- キーワードに該当する音声ファイルが音声ファイル一覧に表示されます。
- 「フォルダタイトル」欄には、音声ファイルが存在するフォルダーが表示されます。

お知らせ

- をクリックすると、「検索モード」から戻ります。
- IC レコーダー内の検索もできます。
- 検索キーワードにワイルドカード（*、?）が使えます。
  「*」は、任意の長さの文字列を表します。たとえば、「s*d」を指定すると、「sad」や「started」を検索できます。
  「?」は、任意の 1 文字を表します。たとえば、「s?t」を指定すると、「sat」や「set」を検索できます。
- 検索した音声ファイルは、下のウィンドウを開いて別のドライブ・フォルダーに転送させることもできます。
  ただし、下のウィンドウから上のウィンドウへの転送はできません。

次ページへ続く ▶

ファイルを検索する

■ 詳しい検索条件を設定する

opをクリックすると、〈検索オプション〉画面が表示されます。
検索条件を指定する項目にチェックマークを付けます。

日付：　音声ファイルの録音日時を指定します。

種類：　音声ファイルの圧縮形式を指定します。
TRC 形式、ADPCM2 形式、G.726 形式
TRC 形式の場合、ステレオ / モノラルの指定ができます。

録音時間：録音時間を指定します。
「最短」は、指定した録音時間以上の音声ファイルを検索します。
「最長」は、指定した録音時間以内の音声ファイルを検索します。
指定できる録音時間は、23 時間 59 分 59 秒までです。

大文字と小文字の区別：
「検索キーワード入力」欄に入力した英文字の大文字と小文字を区別して検索します。

数値入力はキーボードの矢印キーを使っても変更できます。
［↑］キー、［↓］キーを押すと数値の増減ができます。
［→］キー、［←］キーを押すと数値入力欄内の左右移動ができます。

また、日付は、カレンダーで指定ができます。
「日付」欄の▼をクリックすると、カレンダーが表示されます。日付をマウスでクリックします。

音声ファイルを編集する

ハードディスクや SD メモリーカード内の VM1 形式の音声ファイルやサブフォルダーの編集ができます。
IC レコーダーの音声ファイルは直接編集できません。パソコンに転送（保存）後に行ってください。

音声ファイルやサブフォルダーについて右の編集ができます。
また、仮想ドライブの作成ができます。

	音声ファイル	サブフォルダー
コピー／貼り付け	○	―
削　除	○	○
新規作成	―	○
ソート	○	―
タイトル変更	○	○
結　合	○	―
分　割	○	―
ロック	○	―

音声ファイルの結合

2 つの音声ファイルをつなげて 1 つのファイルにすることができます。

お知らせ

- 同じ圧縮形式、同じモードに限り結合ができます。ステレオとモノラルの音声ファイルの結合はできません。
- 音声ファイルを結合しているときには、IC レコーダーの取り付け／取り外しは、絶対にしないでください。

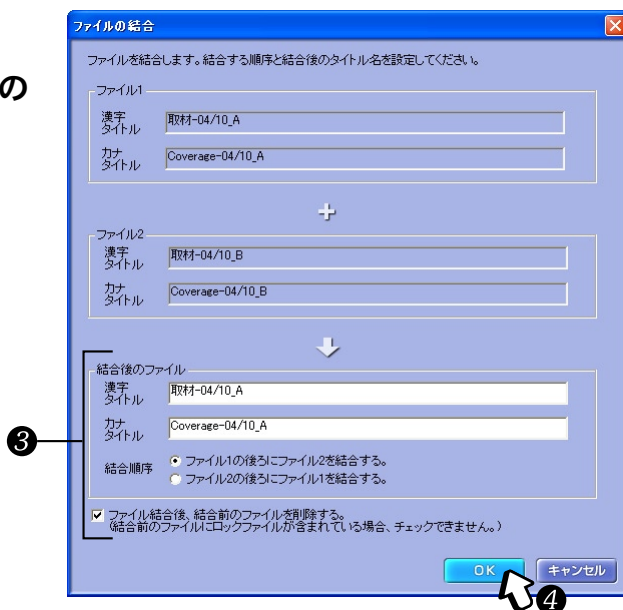
❶ つなげたい音声ファイルを選ぶ

Ctrl キーを押しながら音声ファイルをクリックすると、2 つの音声ファイルが選べます。

❷ をクリックする

〈ファイルの結合〉画面が表示されます。

❸ 結合後のファイル名、順序、結合前のファイルの削除を設定する

❹ OK をクリックする

お知らせ

- 手順❷のとき、「編集」メニューから［音声ファイル結合］を選ぶこともできます。
- IC レコーダー内の音声ファイルのファイル結合はできません。
- ロックされている音声ファイルもファイル結合ができます。
  ロックされている音声ファイルは、結合後に削除することはできません。

音声ファイルの分割

❶ で分割したい位置を決める

❷ をクリックする

確認の画面が表示されます。

❸［はい］ボタンをクリックする

- 分割された 2 個の音声ファイルが表示されます。
- 分割を実行しないときは［いいえ］ボタンをクリックしてください。
- 分割を実行直後に元に戻すには、をクリックしてください。

お知らせ

- 分割後の録音時間やファイルサイズの合計は、表示の精度により分割前の値と一致しないことがあります。
- 手順❷のとき、「編集」メニューから［音声ファイル分割］を選ぶこともできます。

コピー／貼り付け

音声ファイルをコピーし、他のサブフォルダーに貼り付けることもできます。

❶ 音声ファイルを選ぶ

❷ をクリックする

❸ サブフォルダーを選ぶ

❹ をクリックする

コピーした音声ファイルが貼り付けられます。

お知らせ

- とをクリックする他に、下記の方法でも音声ファイルのコピー / 貼り付けができます。
  - 右クリックで表示されるメニューから［コピー］または［貼り付け］を選ぶ
  - 「編集」メニューから［コピー］または［貼り付け］を選ぶ
- 上のウィンドウでコピーした音声ファイルを下のウィンドウのサブフォルダーへ貼り付けることもできます。
- IC レコーダー内の音声ファイルをコピーし、同じ IC レコーダー内の別のサブフォルダーへ貼り付けることはできません。

音声ファイルを編集する

音声ファイルの削除

❶ 削除したい音声ファイルを選ぶ

（☞ 21 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

❷ をクリックする

確認の画面が表示されます。

❸［はい］ボタンをクリックする

削除を行わないときは［いいえ］ボタンをクリックしてください。

お知らせ

- ロックされた音声ファイルの削除はできません。ロックを解除してください。
- をクリックする他に、下記の方法でも音声ファイルの削除ができます。
  - キーボードの［Delete］キーを押す
  - 右クリックで表示されるメニューから［ファイルの削除］を選ぶ
  - 「ファイル」メニューから［ファイルの削除］を選ぶ

音声ファイルのロック

大切な音声ファイルを消してしまったり、編集したりできないようにすることができます。

❶ ロックする音声ファイルを選ぶ

❷「ファイル」メニューから［ファイルロック］を選ぶ

- 音声ファイル一覧でロックした音声ファイルにがつきます。
- 「ファイル」メニューから［ファイルロック解除］を選ぶとロックを解除することができます。

お知らせ

手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［ファイルロック］または［ファイルロック解除］を選ぶこともできます。

音声ファイルのソート

音声ファイル一覧の項目をクリックする

- 音声ファイルが、下表に従ってソート（並べ替え）されます。

項　目	備　考
ステレオ	モノラル、ステレオの順
圧縮形式	TRC、G.726、ADPCM2 の順
タイトル	数字、アルファベット、50 音順、漢字コード順
録音時間	
録音日時	
ロック	ロックがかかっている、かかっていない順
ファイルサイズ	
モード	HQ、FQ、SP、LP 順
フォルダータイトル	検索モード：数字、アルファベット、50 音順、漢字コード順

- もう一度同じボタンをクリックすると現在の順番と逆の順番にソートされます。

お知らせ

次の場合はソートできません。

- IC レコーダー
- SD メモリーカード内の （IC レコーダー）アイコンのフォルダーの中
- CD-R
- ロックされたメディア
- CD-R ウィンドウ内の CD-R/RW に書き込み済みの音声ファイル（Windows XP のみ）

音声波形で編集する

音声ファイルの音声波形を見ながら、切り取り / コピー / 貼り付けの編集ができます。

❶ 音声ファイルを選ぶ

❷ をクリックする

〈音声ファイル波形〉画面が表示されます。

スライダー　音声ファイルのタイトル名　再生中の現在位置　選んだファイルの合計時間

時間軸

左チャンネル

音声レベル

右チャンネル

選択した範囲の最初の時間　選択した範囲の長さ

選択した範囲の最後の時間

お知らせ

- ステレオ録音の WAVE 形式ファイルを選ぶと、左右の音声波形が表示されます。
  それぞれの音声波形は個別に編集できます。
  左右を示すボタンをクリックすると、OFF（R、L）になります。OFF になった方の音声波形の編集はできません。
- VM1 形式ファイル、WAVE 形式ファイルともに音声波形で編集ができます。
- IC レコーダー内の音声ファイルは、音声波形での編集ができません。
- 「編集」メニューから［音声波形表示］を選ぶこともできます。
- 音声波形で編集できる音声ファイルは、 3 時間までです。
  3 時間を越える音声ファイルを音声波形で編集したい場合、1 つの音声ファイルが 3 時間以内に収まるように「音声ファイルの分割（☞ 42 ページ）」機能で分割してください。

次ページへ続く ▶

音声波形で編集する

ボタンの機能

保存‥‥‥‥‥‥‥ 〈音声ファイル波形〉画面で編集した音声ファイルを保存します。

コピー‥‥‥‥‥‥ 選択した範囲をコピーします。

切り取り‥‥‥‥‥ 選択した範囲を切り取ります。

無音‥‥‥‥‥‥‥ ステレオ録音の片側チャンネルを選んでいるとき、が に変わります。選択した範囲を無音にします。

貼り付け‥‥‥‥‥ コピー / 切り取った範囲をスライダーの位置に貼り付けます。

切り抜き‥‥‥‥‥ 選択した範囲を残します。

元に戻す‥‥‥‥‥ 直前の操作を元に戻します。

初期状態に戻す ‥‥ メイン画面から〈音声ファイル波形〉画面を開いたときの波形状態に戻します。

ノイズ波形を登録‥ 選択した範囲を雑音（ノイズ）として登録します。

ノイズキャンセラー実行‥ 登録した雑音（ノイズ）を小さくします。

時間軸拡大

時間軸縮小

音声レベル拡大

音声レベル縮小

フィット‥‥‥‥‥ 時間軸と音声レベルが画面に収まるように表示されます。

アンプ＋‥‥‥‥‥ 選択した範囲の音声波形が拡大され、音声レベルが上がります。

アンプ－‥‥‥‥‥ 選択した範囲の音声波形が縮小され、音声レベルが下がります。

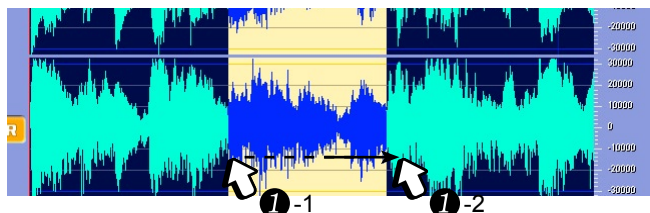
- ステレオ録音の音声ファイルを選んだ場合、〈音声ファイル波形〉画面の左側に以下のボタンが表示されます。

L 左チャンネル‥‥‥ 左チャンネル波形の編集ができます。

R 右チャンネル‥‥‥ 右チャンネル波形の編集ができます。

音声波形の切り取り / コピー / 貼り付け

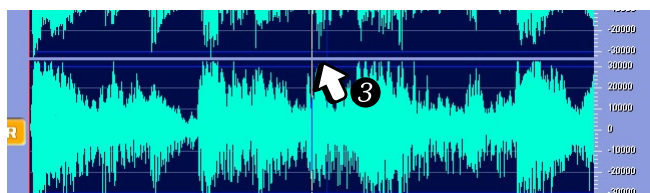
❶ 音声波形上の切り取りたい範囲をドラッグする

ドラッグした範囲が選択状態になります。

❷ をクリックする

選択した範囲が切り取られます。

❸ スライダーを貼り込みたい位置に移動する

❹ をクリックする

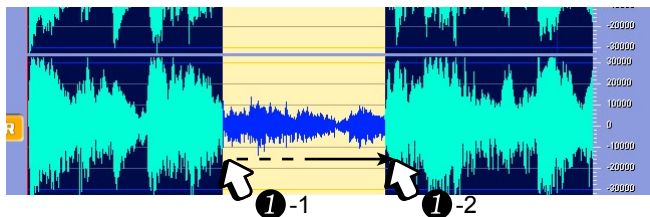
スライダーの位置に切り取った音声波形が貼り込まれます。

お知らせ

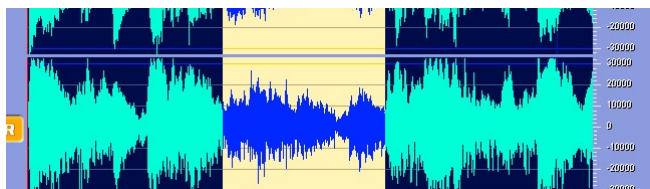
- 手順❷のときをクリックすると、選択した範囲がコピーされます。
- 手順❷のときをクリックすると、選択した範囲が切り抜かれ画面に表示されます。
- 〈音声ファイル波形〉画面の音声波形上を右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。
- 選択した範囲の端をドラッグすると、範囲の長さを変更することができます。
- をクリックすると、スライダーが再生位置を示しながら再生できます。選択範囲の音声の確認ができます。
- 選択した範囲の開始点と終了点、選択した範囲の長さを数値で指定することもできます。
- ステレオ録音の WAVE 形式ファイルを選んだ場合、左右個別に編集ができます。
  たとえば、左チャンネルの音声波形を編集したい場合、右側のをクリックします。
  ボタンが OFF になって右チャンネルの音声波形がグレー表示になり、左チャンネルのみ音声波形の編集ができます。
- ステレオ録音の片側波形のみの切り取りはできません。
  ステレオ録音の片側波形をグレー表示にすると、がに変わります。選んだ音声波形を無音にします。
- 一方の音声波形を、他方の音声波形に貼り込むことができます。
  たとえば、左チャンネルの音声波形をコピーし、右チャンネルに貼り込むことができます。

音声レベルの変更

音声波形の音声レベルを拡大、縮小します。
聞き取りにくい部分を拡大したり、音声が大きい部分を縮小したりして、全体の音声レベルを合わせるときなどに利用できます。

1 音声レベルが小さい部分をドラッグする

ドラッグした範囲が選択状態になります。

2 をクリックする

選んだ範囲の音声波形が拡大されます。

お知らせ

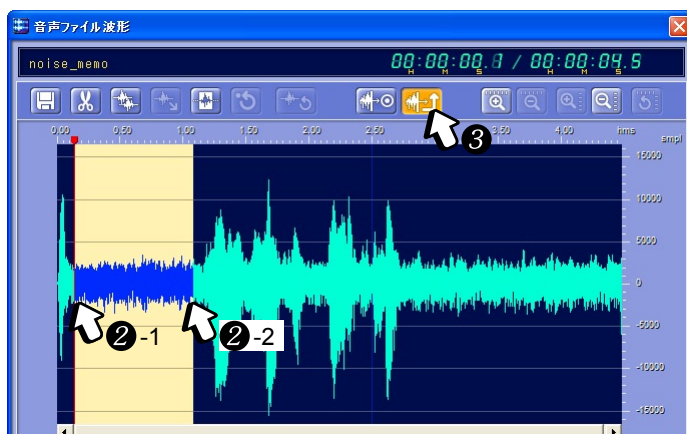
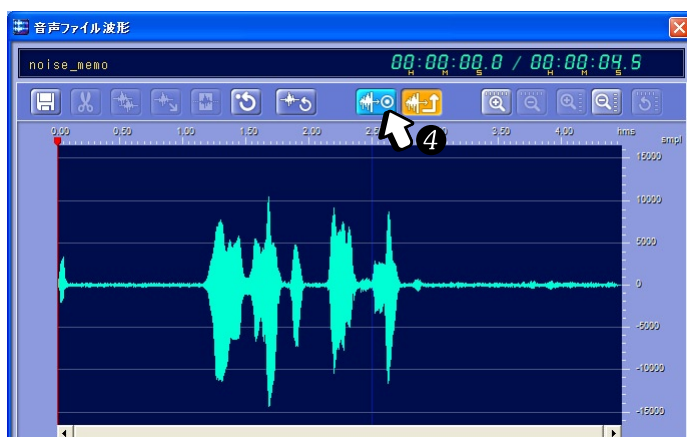
- をクリックすると、選んだ範囲の音声波形が縮小されます。
- ステレオ録音の音声ファイルの場合、左右個別の編集ができます。

音声波形で雑音を小さくする

音声波形で雑音（ノイズ）を指定し、雑音を小さくします。
録音した音声と雑音（ノイズ）がはっきり分かる場合に利用します。

❶ **雑音（ノイズ）部分を確認する**

❷ **雑音（ノイズ）部分をドラッグする**
ドラッグした範囲が選択状態になります。

❸ **をクリックする**
選択した波形を雑音（ノイズ）として指定します。

❹ **をクリックする**
雑音（ノイズ）部分が小さくなります。

お知らせ
録音された環境によっては、ノイズキャンセル機能が有効に働かない場合があります。
（音声レベルが小さくなったり、音質が変わったりする場合があります。）

音声波形の保存

波形で編集した音声ファイルを保存します。

❶ をクリックする

〈ファイルの保存〉画面が表示されます。

❷ 漢字タイトルとカナタイトルを入力する

❸ OK をクリックする

VM1 形式ファイルの場合

お知らせ

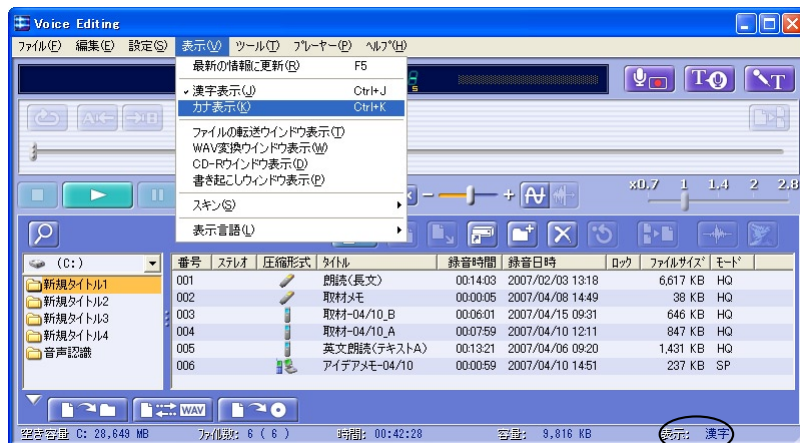
WAVE 形式ファイルを保存すると、ファイル名を入力する〈ファイルの保存〉画面が表示されます。

タイトルを編集する

タイトルの表示

サブフォルダーおよび音声ファイルのタイトルは、漢字表示とカナ表示を切り替えて入力できます。

漢字表示：「表示」メニューから［漢字表示］を選ぶ

カナ表示：「表示」メニューから［カナ表示］を選ぶ

漢字表示／カナ表示

- 最大入力文字　　音声ファイル　　：全角で 100 文字（半角で 200 文字）
  ただし全角と半角の文字数の合計は、半角に換算して 250 文字までです。（全角 1 文字を半角 2 文字と数えます）
  サブフォルダー：全角で 16 文字（半角で 32 文字）
- 扱える文字　　漢字表示（全角、半角カナ、英数字）：JIS 第 1 水準、JIS 第 2 水準（Shift JIS）、JISX0201
  カナ表示（半角カナ、英数字）　　：JISX0201

お知らせ

- 音声ファイルのタイトルまたはフォルダータイトルは、Voice Editing での表示専用です。
  Windows のエクスプローラーでのファイル名、フォルダー名とは異なりますのでご注意ください。
- Voice Editing から IC レコーダーへ転送（保存）した音声ファイルのタイトルは、転送（保存）時に表示されていたタイトルになります。
  たとえば、漢字表示のときに IC レコーダーへ音声ファイルを転送（保存）すると、IC レコーダーでは漢字表示のときのタイトルになります。（☞ 24 ページ「IC レコーダーなどへの転送（保存）」）
- IC レコーダーに転送（保存）した音声ファイルのタイトルが全角で先頭から 16 文字を超えている場合は、全角 17 文字目以降（半角の場合は、先頭から 33 文字目以降）は削除されます。
- 音声ファイルのタイトルを表示することができる IC レコーダーでも、表示対応していない文字は、表示窓で正しく表示できない場合があります。
- メモリー内蔵タイプの IC レコーダー上では音声ファイルのタイトル変更はできません。
- 機器によっては、音声ファイルを録音した日時が記録されない場合があります。
  音声ファイルの録音日時の設定または変更ができます。（☞ 55 ページ「録音日時を変更する」）
- 半角表示のみの IC レコーダー（RR-XR シリーズ）をお使いの場合、カナ表示でご利用になることをお勧めします。
- 携帯電話で録音した音声ファイルは、カナ表示モードではタイトルが表示されません。

音声ファイルやサブフォルダーのタイトルの変更

❶ **タイトルを変更したい音声ファイルまたはサブフォルダーを選ぶ**

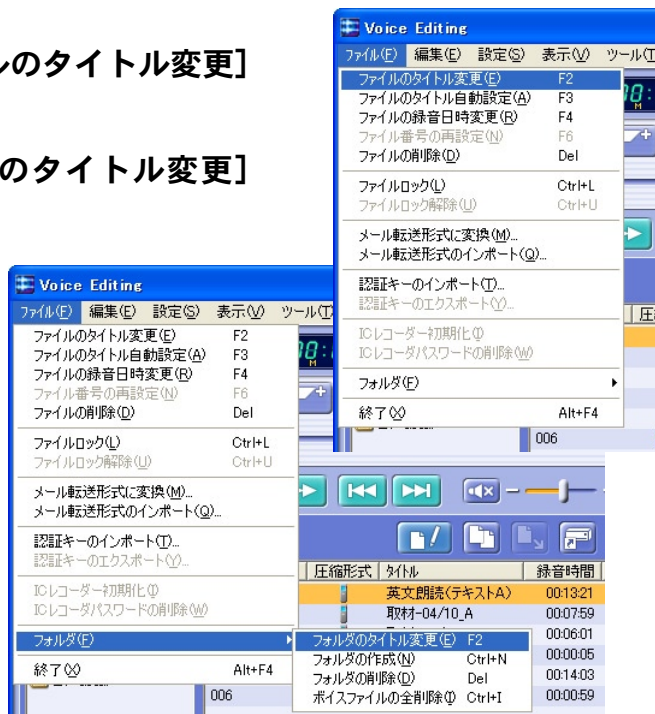
❷ **「ファイル」メニューから［ファイルのタイトル変更］を選ぶ**

または［フォルダ］→［フォルダのタイトル変更］をクリックする

タイトル部分が入力できる状態になります。

❸ **新しいタイトルを入力する**

（☞ 51 ページ「タイトルの表示」）

❹ **パソコンの Enter を押す**

お知らせ

手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［ファイルのタイトル変更］や［フォルダのタイトル変更］を選ぶこともできます。

タイトルを自動的に設定する

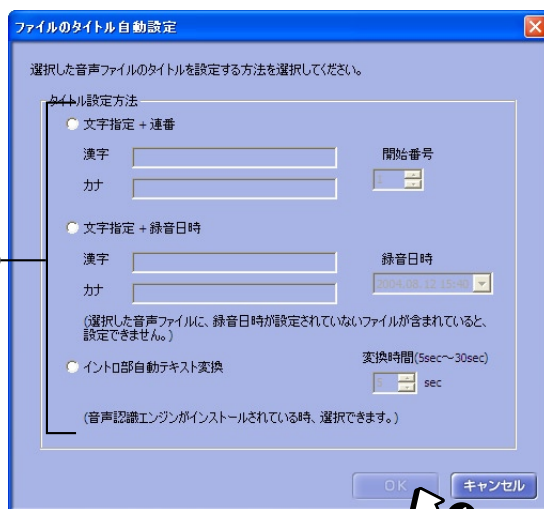
❶ タイトルを変更したい音声ファイルを選ぶ

❷「ファイル」メニューから［ファイルのタイトル自動設定］を選ぶ

〈ファイルのタイトル自動設定〉画面が表示されます。

❸ 設定するタイトルの種類を選ぶ

設定できるタイトルの種類は以下の通りです。

- 「文字指定＋連番」
  指定した文字列に順番に番号をつけてタイトルにします。
- 「文字指定＋録音日時」
  指定した文字列と音声ファイルの録音日時を組み合わせてタイトルにします。
  音声ファイルを複数選択した場合、「録音日時」プルダウンリストで確認ができます。
- 「イントロ部自動テキスト変換」
  音声ファイルの先頭の部分をタイトルにします。
  詳しい操作の手順については、次項の「イントロ部自動テキスト変換の使いかた」を参照してください。

❹ OK をクリックする

お知らせ

- 手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［ファイルのタイトル自動設定］を選ぶこともできます。
- 「文字指定＋連番」と「文字指定＋録音日時」の文字入力欄は、全角文字で 25 文字まで、半角文字で 50 文字まで入力できます。
- 「文字指定＋録音日時」の「録音日時」プルダウンリストでは、録音日時の確認ができます。
  録音日時の変更はできません。
- 音声ファイルに録音した日時が記録されていない場合、「文字指定＋録音日時」は設定できません。
  録音日時の変更については、「録音日時を変更する（☞ 55 ページ）」を参照してください。

イントロ部自動テキスト変換の使いかた

音声ファイルの先頭部分の音声を文字に変換し、タイトルにします。

お知らせ

「イントロ部自動テキスト変換」は、「音声認識エンジン」がインストールされ、「Dictation Pad」が起動できる場合のみ設定できます。

❶〈ファイルのタイトル自動設定〉画面から「イントロ部自動テキスト変換」を選び、「変換時間」を指定する

「変換時間」で、音声ファイルの先頭から何秒間をタイトルにするのか指定します。

❷ OK をクリックする

〈ユーザーの管理〉画面が表示されます。

❸ 音声ファイルを録音したユーザーを選び、［開く］ボタンをクリックする

音声ファイルの先頭部分がタイトルに変換されます。
変換された先頭部分は、漢字表示側の「タイトル」欄に入力されます。

お知らせ

「イントロ部自動テキスト変換」を設定する前に音声認識エンジンをトレーニングしてください。
トレーニングの方法については、「音声を文字に変換する（音声認識）（☞ 61 ページ）」を参照してください。

録音日時を変更する

機器によっては、音声ファイルを録音した日時が記録されない場合があります。録音した記録として日時を付けることができます。
また、音声ファイルを整理する都合上、実際に録音した日時と異なる日時をつけたい場合にも利用できます。

お知らせ

録音日時の変更は Voice Editing の音声ファイル一覧に表示される「録音日時」を変更します。ファイル本体の日時の変更はできません。

❶ 録音日時を変更したい音声ファイルを選ぶ

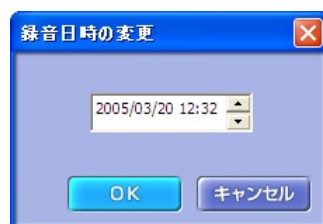
❷「ファイル」メニューから［ファイルの録音日時変更］を選ぶ

確認画面が表示されます。

❸ OK をクリックする

〈録音日時の変更〉画面が表示されます。

❹ 録音日時を変更し、OK をクリックする

選択した音声ファイルの録音日時が変更されます。

お知らせ

- 手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［ファイルの録音日時変更］を選ぶこともできます。
- 録音日時がある音声ファイルを選択している場合、確認の画面が表示されます。

E メールに音声ファイルを添付する

E メールを送付する相手が Voice Editing を持っていない場合、再生専用の Voice Editing Mini Player を添付できます。

音声ファイルの添付・送付

❶ 送付する音声ファイルを選ぶ

複数の音声ファイルを選ぶこともできます。
(☞ 21 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」)

❷「ファイル」メニューから［メール転送形式に変換］を選ぶ

〈メール転送形式に保存〉画面が表示されます。

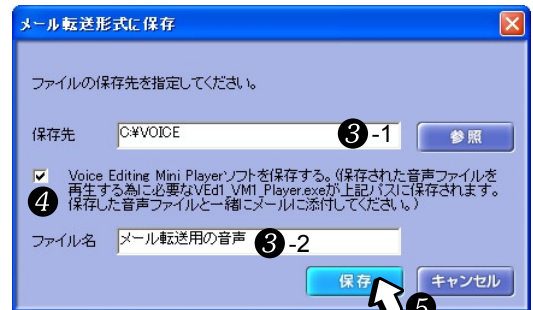
❸ 保存先とファイル名を入力する

ファイル名に「\/:.;*?"<> ｜」が含まれる場合は自動的に「_」に置き換わります。

❹「Voice Editing Mini Player ソフトを保存する。」に「✔」を入れる

❺［保存］ボタンをクリックする

指定した保存先に Voice Editing Mini Player「VEd1_VM1_Player.exe」と、❸で付けた名称の VM1 のファイル「＊ .pvc」が保存され、エクスプローラー画面が表示されます。

❻ お使いの E メールソフトを使って、「VEd1_VM1_Player.exe」と VM1 のファイル「＊ .pvc」を添付して送付する

お知らせ

- 手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［メール転送形式に変換］を選ぶこともできます。
- 2 回目以降は「VEd1_VM1_Player.exe」を添付して送付する必要はありません。「＊ .pvc」のみを添付・送付してください。

次ページへ続く ▶

受け取った音声ファイルの再生

❶ 受け取って、パソコンに保存した「VEd1_VM1_Player.exe」をダブルクリックする

Voice Editing Mini Player が解凍、保存され、〈ヘルプ〉画面が表示されます。
「VEd1_VM1_Player.exe」と同じフォルダーに「VM1_Player」フォルダーが作成されます。

❷「VM1_Player」内の「VEd1_VM1_Player.exe」をダブルクリックする

Voice Editing Mini Player が起動します。

❸ VM1 のファイル「＊ .pvc」を Voice Editing Mini Player 上にドラッグ＆ドロップする

❹ Voice Editing Mini Player の［▶］をクリックする

音声ファイルが再生されます。

お知らせ

- 手順❸のとき、Voice Editing Mini Player を右クリックして表示されるメニューから［メール転送形式のインポート］を選ぶこともできます。
- 以前のバージョンで作成した VM1 のファイル「＊ .pvc」を Voice Editing Mini Player で再生できます。
- VM1 のファイル「＊ .pvc」は Voice Editing Ver.2.0 でも再生できます。
  再生には下記の方法があります。
  － VM1 のファイル「＊ .pvc」を Voice Editing Ver.2.0 の音声ファイル一覧にドラッグ＆ドロップする
  － 右クリックで表示されるメニューから［メール転送形式のインポート］を選ぶ
  －「ファイル」メニューから［メール転送形式のインポート］を選ぶ

スキン（小画面）を使う

限られた機能だけを使うときはスキン（小画面）を使うと便利です。

「表示」メニューの[スキン]から、好みのスキンを選ぶ

■通常画面に戻るには

スキンの上の□をクリックする

お知らせ

スキン（小画面）の情報表示部分にマウスカーソルを重ねると、音声ファイルのタイトルが表示されます。

ドライブ・フォルダーを使う

仮想ドライブの作成

各々のドライブのルート・ディレクトリ（最上位階層）にある「SD_VOICE」フォルダー以外に、好みの階層に「SD_VOICE」フォルダーを新規作成して仮想ドライブとして使用できます。

1 をクリックする

に変わり、〈仮想ドライブ登録〉画面が表示されます。

2 ［新規作成］ボタンをクリックする

〈仮想ドライブの作成〉画面が表示されます。

3 仮想ドライブ名、パス（フォルダー作成先）を入力し、［設定］ボタンをクリックする

- パスは画面下段の一覧からフォルダーを選択しても指定できます。
- 〈仮想ドライブ登録〉画面に戻ります。

4 ［閉じる］ボタンをクリックする

仮想ドライブが作成され、ドライブボックスで新規のドライブとして選べます。

お知らせ

- をクリックする他に、「設定」メニューから［仮想ドライブ登録］を選ぶこともできます。
- 複数の仮想ドライブを作成した場合、〈仮想ドライブ登録〉画面内で使わない仮想ドライブの「✔」を外すと、一時的に非表示にできます。
- 仮想ドライブはドライブボックスのプルダウンリストから選べます。

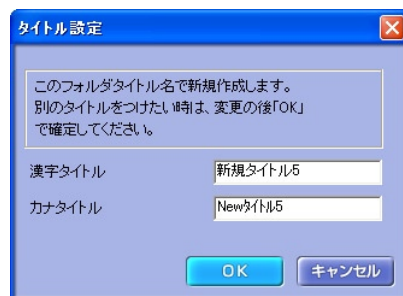
新しいサブフォルダーの作成／削除

新しいサブフォルダーの作成

❶ をクリックする

〈タイトル設定〉画面が表示されます。

❷ サブフォルダーのタイトルを入力し、をクリックする

ドライブボックスに新しいサブフォルダーが追加されます。

お知らせ

をクリックする他に、右クリックで表示されるメニューから［フォルダの作成］を選ぶこともできます。

サブフォルダーの削除

❶ 削除したいサブフォルダーを選び、をクリックする

確認の画面が表示されます。

❷［はい］ボタンをクリックする

削除を行わないときは［いいえ］ボタンをクリックしてください。

お知らせ

- をクリックする他に、右クリックで表示されるメニューから［フォルダの削除］を選ぶこともできます。
- WAVE 形式の音声ファイルを含むサブフォルダーを削除するときは、削除したくない他の形式のデータをあらかじめ退避してから行ってください。
- ロックされた音声ファイルを含むサブフォルダーの削除はできません。

音声を文字に変換する（音声認識）

音声を文字に変換することができます。

ご注意

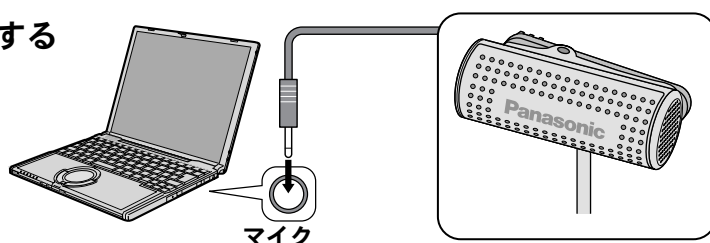
- 音声認識をお使いになる場合、事前に音声認識させたい人の声を登録する操作（トレーニング）が必要です。また、テキスト変換時には音声認識ユーザー名を選択してください。
- 同時会話のような話者の特定ができない会議録音や、雑音の入った会話録音での音声認識はできません。
- IC レコーダーをお使いになる場合、「メモ録音」にしてください。

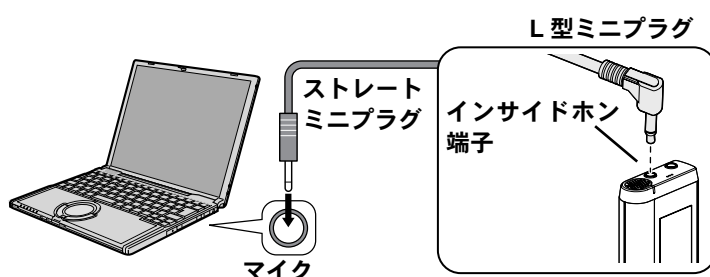
お知らせ

- 初めて変換する前には、「音声認識のプロパティ」で「トレーニング」を必ず行ってください。
- 話し方や音声の内容によっては、正しく文字に変換されない場合があります。
  音声認識の精度には個人差があります。はっきりとした口調で急がないで話してください。また、静かな環境で話してください。
  句読点の「、」は「てん」、「。」は「まる」と読み上げてください。
- Windows 98SE/Windows Me でトレーニングした音声認識ユーザーと、Windows 2000/Windows XP でトレーニングした音声認識ユーザーとは互換性がありません。

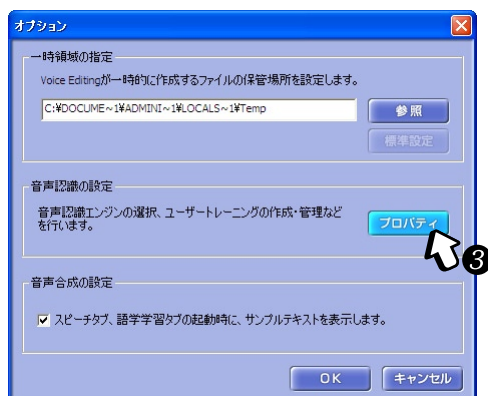
トレーニング

音声を文字に変換する準備を行います。
以下の手順で音声認識ユーザーを作成します。

1 パソコンにマイクロホンを接続する

お知らせ

- 下記の IC レコーダーをマイクロホンとして利用できます。
  RR-US470/900/500/090/070/050
  IC レコーダーの「録音モニター機能」をマイクロホンとして利用します。
  ① IC レコーダーの USB ケーブルをパソコンから外します。
  ② IC レコーダーとパソコンを付属の「音声・テキスト変換専用コード」で接続します。
  ③「メモ録音」にします。
  「メモ録音」にする方法については、IC レコーダー本体の取扱説明書をご覧ください。
- 上記以外の IC レコーダーは、マイクロホンとして利用できません。市販のマイクロホンをパソコンに接続してください。

次ページへ続く

❷「設定」メニューから［オプション］を選ぶ

「オプション」画面が表示されます。

❸［プロパティ］ボタンをクリックする

〈音声認識のプロパティ〉画面が表示されます。

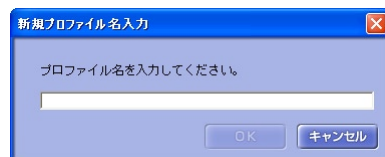
❹音声認識エンジンを選ぶ

「音声認識エンジン」から音声認識のトレーニングを行う音声認識エンジンを選びます。

❺［オーディオ入力］ボタンをクリックする

〈録音コントロール〉画面が表示されます。
「マイク」の「選択」にチェックマークが付いているか確認します。

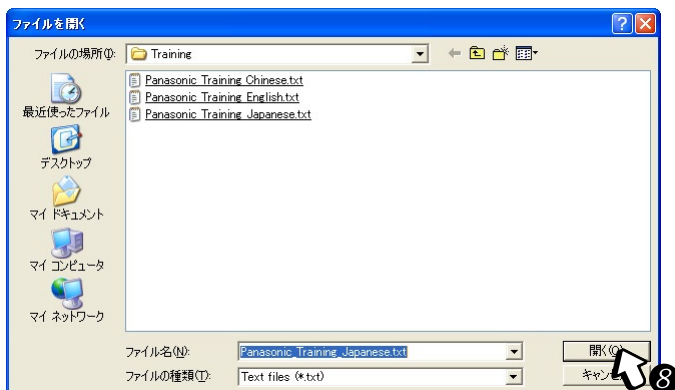
❻〈音声認識のプロパティ〉画面の「ユーザーの管理」の［新規作成］ボタンをクリックする

〈新規プロファイル名入力〉画面が表示されます。

❼音声認識ユーザー名（プロファイル名）を入力し、OKをクリックする

〈ファイルを開く〉画面が表示されます。

次ページへ続く ▶

8 音声トレーニングで読み上げる文書ファイルを選び、［開く］ボタンをクリックする

「マイク ウィザード」が起動します。

9 マイクロホンのスイッチを ON にし、マイクロホンの調整をする

- 「マイク ウィザード」の指示に従って、マイクロホンの調整を行います。

10「マイク ウィザード」の［完了］をクリックする

「音声トレーニング」ウィザードが起動します。

11 音声トレーニングを行う

「音声トレーニング」ウィザードの指示に従ってください。
音声トレーニングが終了すると、音声認識ユーザーの作成が始まります。

12 音声認識ユーザーの作成が終了したら、〈音声認識のプロパティ〉画面の OK をクリックする

お知らせ

- 音声認識ユーザーは、トレーニングを追加すると認識精度が上がります。
  追加トレーニングは、〈音声認識のプロパティ〉画面の［トレーニングの追加］ボタンから行います。
  ［トレーニングの追加］ボタンをクリックすると、確認のダイアログが表示されます。
  「既定文章」を選ぶと、Voice Editing に用意されている文章が「音声トレーニング」ウィザードに表示されます。「音声トレーニング」ウィザードの指示に従ってトレーニングを繰り返してください。「既定文章」のトレーニングの量については、「付録」の「音声認識エンジンのトレーニング（☞ 112 ページ）」をご覧ください。
  また、任意の文章を読み上げてトレーニングを追加することもできます。
  あらかじめ、読み上げる文章をテキストファイルにしておきます。
  確認のダイアログで「任意文章」を選ぶと〈ファイルを開く〉画面が表示されます。あらかじめ作成したテキストファイルを選ぶと、「音声トレーニング」ウィザードに表示されます。以降は、「音声トレーニング」ウィザードの指示に従ってください。（☞ 113 ページ「任意文章」）
- 音声認識ユーザーは、「Dictation Pad」の からも作成、追加トレーニングができます。
- 音声認識ユーザー名の末尾には、手順4で選んだ音声認識エンジンの名前がつきます。

ディクテーションをする

IC レコーダーまたはマイクロホンに向かって話した音声をその場でテキスト変換します。

ご注意

IC レコーダーをお使いになる場合、「メモ録音」にしてください。

❶ **パソコンにマイクロホンを接続する（☞ 61 ページ）**

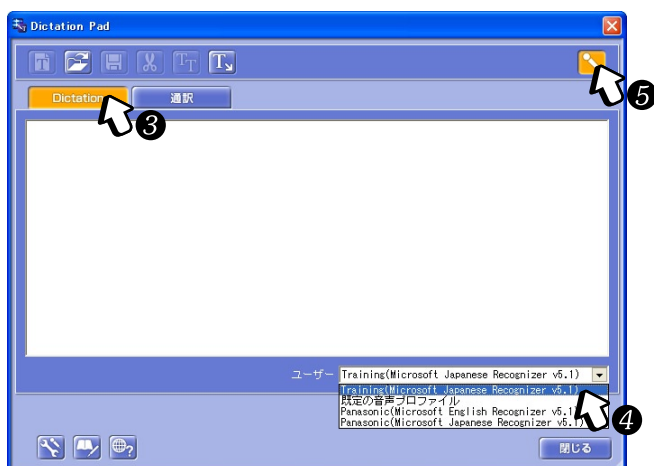
❷ **をクリックする**

「Dictation Pad」が起動します。

❸ **［Dictation］タブをクリックする**

❹ **音声認識ユーザー名を選ぶ**

❺ **「Dictation Pad」の「マイク」を ON にする**

をクリックすると、に変わります。

❻ **マイクロホンを ON にする**

❼ **マイクロホンに向かって文章を読み上げる**

読み上げた文章が文字に変換されます。

❽ **をクリックする**

テキスト変換した文書の保存ができます。

お知らせ

- ハードディスクの空き容量によっては、音声認識ができない場合もあります。
- をクリックすると、音声認識に関するサポートページが表示されます。
- 初回起動時に、音声認識のサンプルを登録した場合、「デフォルト・ドライブ」に「音声認識」フォルダーが作成されます。
  「音声認識」フォルダー内のサンプルを使って、音声認識機能の動作テストができます。詳しい操作の手順については、「付録」の「音声認識サンプル（☞ 114 ページ）」をご覧ください。

通訳する

IC レコーダーまたはマイクロホンに向かって話した音声をその場でテキスト変換すると同時に、他言語に翻訳して読み上げます。

ご注意

- 翻訳エンジンがインストールされていない場合、「通訳」機能は使えません。
- 通訳機能は、音声認識機能→翻訳機能→音声合成機能を組み合わせています。
- 通訳する音声の内容によっては、意図した通訳結果が得られない場合があります。

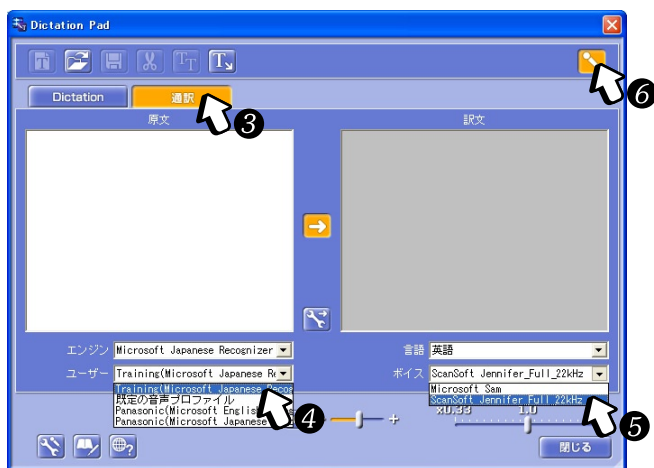
1 パソコンにマイクロホンを接続する（☞ 61 ページ）

2 をクリックする

「Dictation Pad」が起動します。

3 ［通訳］タブをクリックする

4 「原文」側で読み上げる言語の音声認識エンジンとユーザー名を選ぶ

5 「訳文」側で、翻訳する他言語を「言語」から、読み上げる音声を「ボイス」から選ぶ

6 「Dictation Pad」の「マイク」を ON にする

をクリックすると、に変わります。

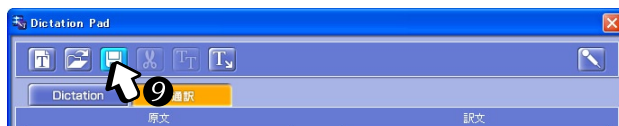
7 マイクロホンを ON にする

8 マイクロホンに向かって文章を読み上げる

読み上げた文章が文字に変換され「原文」欄に表示されます。
続いて他言語に翻訳され「訳文」欄に表示されます。その後、表示された文章が読み上げられます。

次ページへ続く

❾ をクリックする

テキスト変換した文書の保存ができます。

「原文」欄をクリックしてをクリックすると、「原文」欄の内容がテキストに保存できます。
「訳文」欄をクリックしてをクリックすると、「訳文」欄の内容がテキストに保存できます。

お知らせ

- をクリックすると、翻訳の設定が行えます。詳しい設定については、「付録」の「翻訳の設定（☞ 118 ページ）」を参照してください。
- 読み上げた文章が正しく認識されない場合、をクリックし、通訳をいったん停止します。正しく認識されなかった単語や文章を修正し、をクリックします。「訳文」欄の文章がクリアされ、「原文」欄の文章を先頭から翻訳し直します。

単語を登録する

より高い認識率を得るために、認識しにくい単語を登録します。

❶「Dictation Pad」の をクリックする

〈単語の追加と削除〉画面が表示されます。

❷「単語」欄に登録する単語を入力する

❸ 単語の発音を登録する

［発声の録音］ボタンをクリックし、入力した単語を読み上げます。
単語が認識されると、「辞書」欄に追加されます。
「辞書」欄に追加されない場合は、その単語を繰り返して読み上げます。

❹［閉じる］ボタンをクリックします。

登録した単語を読み上げると、辞書に登録した文字列にテキスト変換されます。

音声を書き起こす（音声認識）

IC レコーダーで録音した音声ファイルから文章を書き起こすには、下記の 2 種類の方法があります。
Ⓐ音声ファイルを聞きながら、内容を復唱して音声認識で文章を入力する。（☞ 69 ページ「復唱して書き起こす」）
Ⓑ音声ファイルを再生しながら音声認識で文章を入力する。（☞ 71 ページ「音声ファイルを文字に変換する」）

書き起こしキーの設定

書き起こし作業中、キーボードのキー操作で音声ファイルの再生や一時停止などのコントロールが行えます。

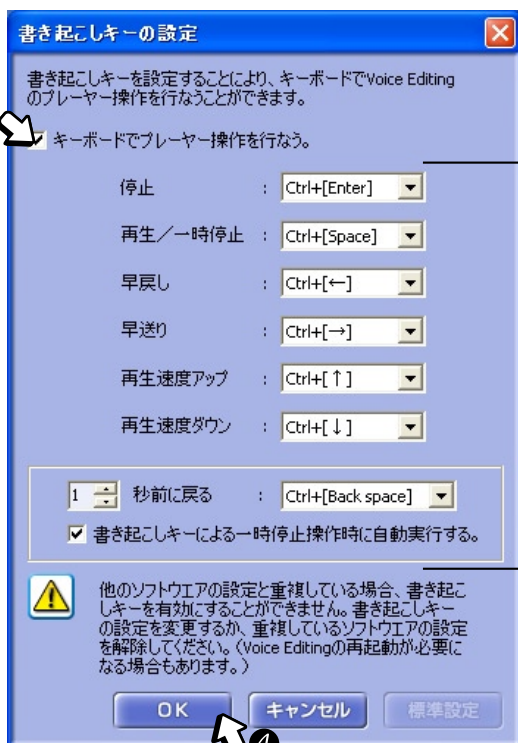
1 ［設定］メニューから［書き起こしキーの設定］を選ぶ

〈書き起こしキーの設定〉画面が表示されます。

2 「キーボードでプレーヤー操作を行なう。」にチェックマークを付ける

音声ファイル操作がキー操作で行えます。

3 音声ファイル操作にキー操作を割り当てる

▼をクリックして、プルダウンリストからキー操作を選びます。
「書き起こしキーによる一時停止操作時に自動実行する」にチェックマークを付けると、一時停止したときに再生位置が指定秒数戻ります。

4 OK をクリックする

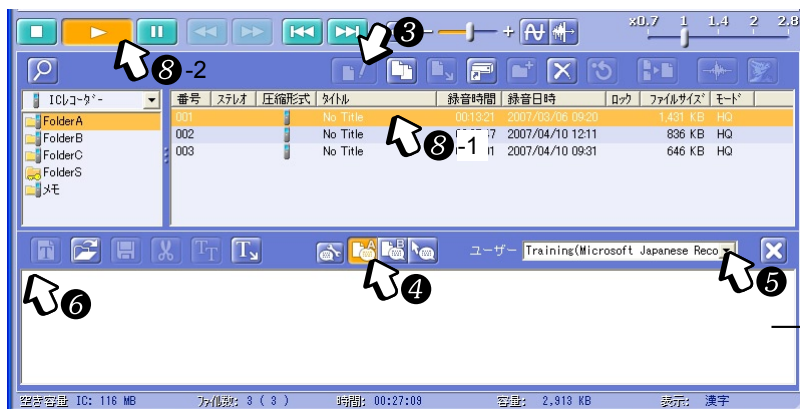
お知らせ

- 設定した書き起こしキーは、〈メイン画面〉とスキン（小画面）で使えます。
  たとえば、スキン（小画面）で再生しながら、ワープロソフトで書き起こし作業をすることもできます。
- 音声で音声ファイルの再生や一時停止などのコントロールが行えます。（☞ 73 ページ）

復唱して書き起こす（復唱モード）

音声ファイルを聞きながら、マイクロホンに向かって内容を復唱します。
復唱した声で音声認識を行い、テキスト変換します。
復唱している自分の声で音声認識をさせるので、「音声認識ユーザー」のトレーニングを重ねておけば、高い認識率で文字に変換できます。

❶ IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続する（☞ 8 ページ）

❷ パソコンにマイクロホンを接続する（☞ 61 ページ）

❸ をクリックする

「書き起こしウィンドウ」が表示されます。

❹ （復唱モード）をクリックする

（復唱モード）の右側に「音声認識ユーザー」欄が表示されます。

❺「音声認識ユーザー」を選ぶ

音声ファイルの内容を復唱して音声認識を行うので、自分の声でトレーニングした「音声認識ユーザー」を選びます。

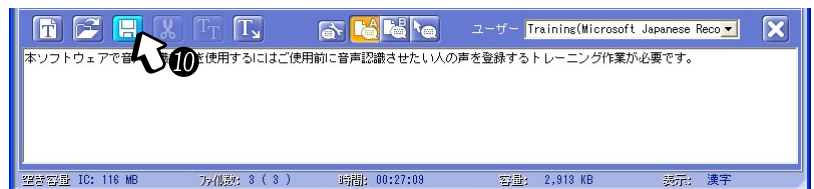
❻「書き起こしウィンドウ」内をクリックし、文字カーソルを入れる

次ページへ続く

❼ マイクロホンを ON にする

❽ 書き起こす音声ファイルを選び、再生して内容を確認する

❾ 再生を一時停止して、手順❽で確認した内容をマイクロホンに向かって復唱する

復唱した内容が文字に変換されます。

❿ をクリックする

テキスト変換した文書の保存ができます。

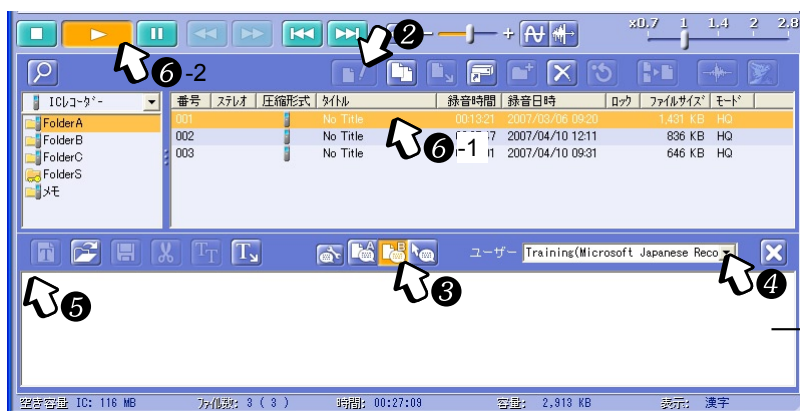
お知らせ

- 書き起こし作業中、音声ファイルの再生や一時停止などのファイル操作をキーボードのキー操作で行うことができます。(☞ 68 ページ「書き起こしキーの設定」)
- をクリックすると、「書き起こしウィンドウ」が閉じます。

音声ファイルを文字に変換する（ファイル再生モード）

ご注意

- 「メモ録音」で録音した音声ファイルを使用してください。
- 同時会話のような話者の特定ができない会議録音や、雑音の入った会話録音での音声認識はできません。

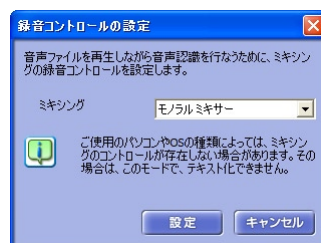
❶ IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続する（☞ 8 ページ）

❷ をクリックする

「書き起こしウィンドウ」が表示されます。

❸ （ファイル再生モード）をクリックする

（ファイル再生モード）の右側に「音声認識ユーザー」欄が表示されます。

お知らせ

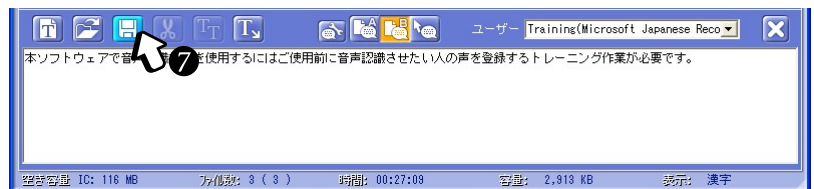
- 初めて（ファイル再生モード）をクリックしたときは、〈録音コントロールの設定〉画面が表示されます。
  ミキサーを選び、設定をクリックします。
  設定した後に変更もできます。（☞ 73 ページ）
- お使いのパソコンの種類や OS によっては、ミキサーの表記名称が異なる場合があります。
- お使いのパソコンの種類や OS によっては、ミキシングコントロールが存在しない場合があります。また、ミキサーを選択しても、テキスト変換ができない場合や、正常にテキスト変換されない場合があります。
  この場合、ファイル変換によるテキスト変換を行ってください。
  詳しい手順については、「付録」の「音声認識サンプル（☞ 114 ページ）」を参照してください。

次ページへ続く

❹「音声認識ユーザー」を選ぶ

音声ファイルを録音した声でトレーニングした「音声認識ユーザー」を選びます。

❺「書き起こしウィンドウ」内をクリックし、文字カーソルを入れる

❻ 書き起こす音声ファイルを選び、再生する

音声ファイルの内容が文字に変換されます。

❼ をクリックする

テキスト変換した文書の保存ができます。

お知らせ

- 書き起こし作業中、音声ファイルの再生や一時停止などのファイル操作をキーボードのキー操作で行うことができます。(☞ 68 ページ「書き起こしキーの設定」)
- をクリックすると、「書き起こしウィンドウ」が閉じます。

音声で操作する

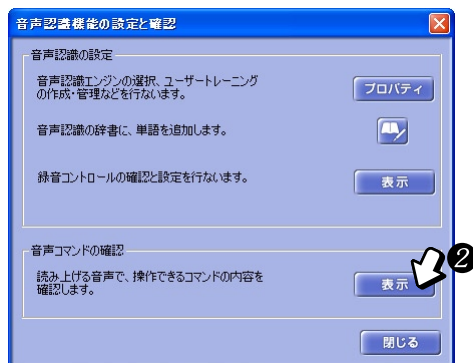
音声で音声ファイルの再生や一時停止などのコントロールが行えます。

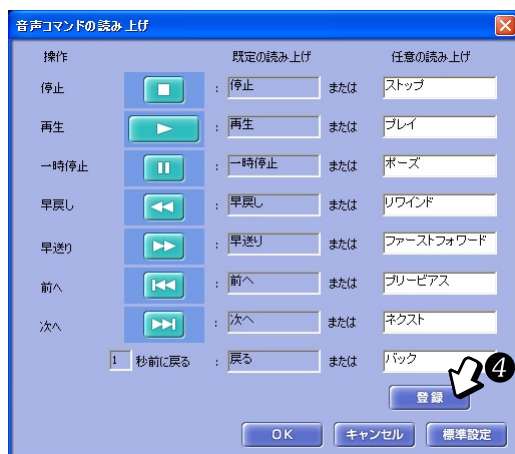
ご注意

音声コマンドは、発音によっては正しく機能しない場合があります。

音声コマンドの設定

1 をクリックする

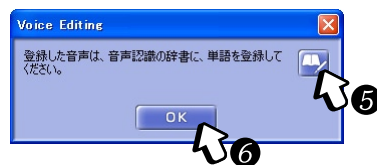
〈音声認識機能の設定と確認〉画面が表示されます。

2「音声コマンドの確認」の 表示 をクリックする

〈音声コマンドの読み上げ〉画面が表示されます。

3「任意の読み上げ」欄に読み上げるコマンド名を入力する

4 登録 をクリックする

登録が完了すると、確認の画面が表示されます。

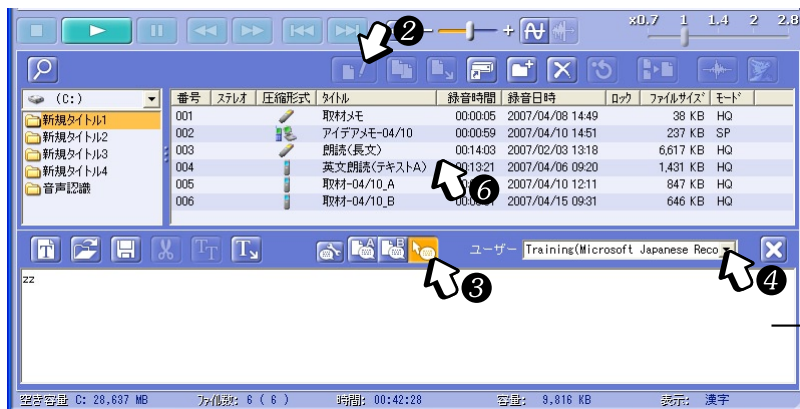
5 をクリックする

〈単語の追加と削除〉画面が表示されます。
「既定の読み上げ」欄と「任意の読み上げ」欄に入力したコマンド名の読み方を単語登録します。（☞67 ページ「単語を登録する」）

6 確認の画面の OK をクリックする

7〈音声認識機能の設定と確認〉画面の 閉じる をクリックする

次ページへ続く ▶

音声コマンドの操作

❶ **パソコンにマイクロホンを接続する（☞ 61 ページ）**

❷ **をクリックする**

「書き起こしウィンドウ」が表示されます。

❸ **（音声コマンドモード）をクリックする**

（音声コマンドモード）の右側に「音声認識ユーザー」欄が表示されます。

❹ **「音声認識ユーザー」を選ぶ**

音声コマンドを実行する声でトレーニングした「音声認識ユーザー」を選びます。

❺ **マイクロホンを ON にする**

❻ **音声ファイルを選ぶ**

❼ **マイクロホンに向かって〈音声コマンドの読み上げ〉画面に登録した音声コマンドを読み上げる**

音声で操作のコントロールができます。

お知らせ

をクリックすると、「書き起こしウィンドウ」が閉じます。

文字を音声に変換する（音声合成）

文章を読み上げる

入力した文章を読み上げます。
文章を耳で聞いて内容を確認したり、メールを読み上げさせながら別の作業をしたりするなどに利用できます。

❶ をクリックする

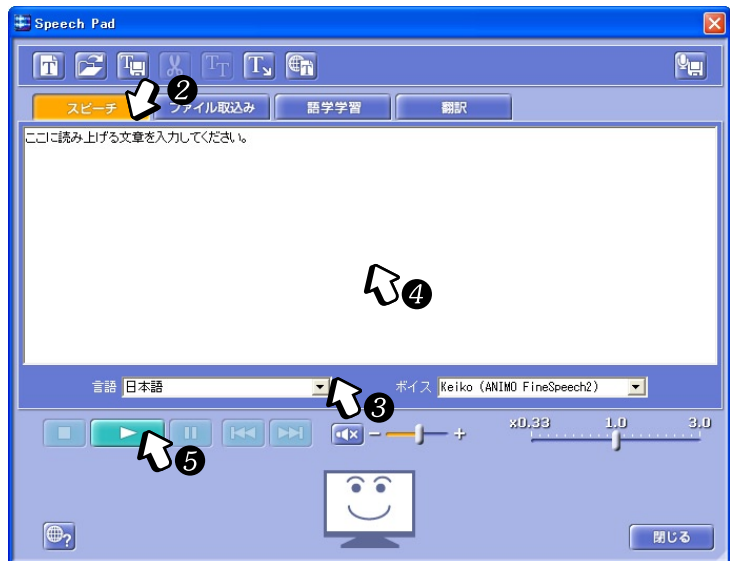
「Speech Pad」が起動します。

❷「スピーチ」タブをクリックする

❸「言語」と「ボイス」から読み上げる音声を選ぶ

❹「テキスト」欄に文章を入力する

❺ をクリックする

文章を読み上げます。

お知らせ

- 文字カーソルの位置から読み上げます。
- 手順❹のとき、をクリックすると、テキストファイルを開くこともできます。
- 「スピーチ」タブのテキストを音声ファイルに変換することもできます。（☞ 77 ページ「文章を音声ファイルに変換する」）
- 「スピーチ」タブに表示されるサンプル文書は、表示／非表示の切り替えができます。（☞ 90 ページ「オプションの設定」）
- 「スピーチ」タブに入力した文章は、テキストファイル (*.txt)、またはリッチテキストファイル (*.rtf) に保存できます。その場合はをクリックします。
- 音声合成エンジンは追加ができます。詳しい内容については、「Q&A（よくあるご質問）（☞ 109 ページ）」をご覧ください。
- をクリックすると、音声合成に関するサポートページが表示されます。

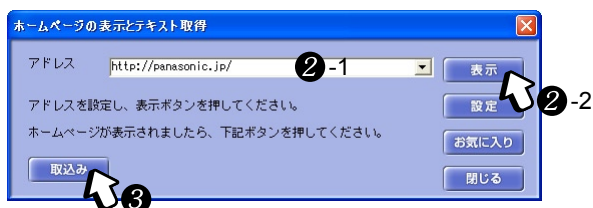
インターネットのホームページの内容を読み上げる

ホームページ上のニュース記事や論文などを取り込んで読み上げます。

❶ をクリックする

〈ホームページの表示とテキスト取得〉画面が表示されます。

❷ 取り込みたいホームページの URL を「アドレス」欄に入力し、［表示］ボタンをクリックする

インターネットエクスプローラーが起動し、「アドレス」欄に入力した URL のページが表示されます。

❸ ［取込み］ボタンをクリックする

インターネットエクスプローラーに表示されている内容のテキストが「Speech Pad」に取り込まれます。

❹「Speech Pad」の をクリックする

取り込んだ内容を読み上げます。

お知らせ

- 「アドレス」欄に入力した URL は、Voice Editing に記憶されます。
  「アドレス」欄の をクリックすると、プルダウンリストから URL を選ぶこともできます。
- URL の並び順の変更や削除ができます。
  〈ホームページの表示とテキスト取得〉画面の［設定］ボタンをクリックすると〈ホームページアドレスの管理〉画面が表示されます。
  と を使って、URL の並び順の変更を行います。
  ［削除］ボタンをクリックすると、選んでいる URL が削除されます。

- 〈ホームページの表示とテキスト取得〉画面の［お気に入り］ボタンをクリックすると、インターネットエクスプローラーの「お気に入り」に登録している URL が表示されます。
- 音声ファイルに変換することもできます。（☞ 77 ページ「文章を音声ファイルに変換する」）
  変換した音声ファイルを IC レコーダーに転送（保存）すると、外出中にホームページの内容が聞けます。

文章を音声ファイルに変換する

❶「Speech Pad」の「スピーチ」タブをクリックする

❷「言語」と「ボイス」から読み上げる音声を選ぶ

❸「テキスト」欄に文章を入力する

❹ をクリックする

〈音声ファイルの保存〉画面が表示されます。

- 音声ファイルを保存する場所を指定します。
  IC レコーダー、ドライブ、サブフォルダーの切り替えができます。
  また、［フォルダ作成］ボタンで、新規フォルダーの作成もできます。
- 音声ファイルのタイトルを入力します。
  「カナ表示」、「漢字表示」を入力します。
- 「圧縮形式」と「モード」を選びます。

❺［保存］ボタンをクリックする

音声ファイルに変換され、保存されます。
〈音声ファイルの保存〉画面で選んだドライブ、フォルダーに保存されます。

お知らせ

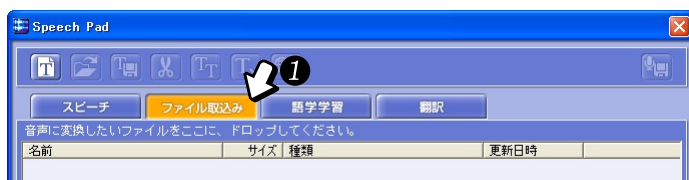
- 〈音声ファイルの保存〉画面を表示しているときには、IC レコーダーや、SD メモリーカードの抜き差しをしないでください。
- 手順❸のとき、 をクリックするとテキストファイルを開くこともできます。
- 変換した音声ファイルを IC レコーダーに転送（保存）すると、外出中にその内容が聞けます。

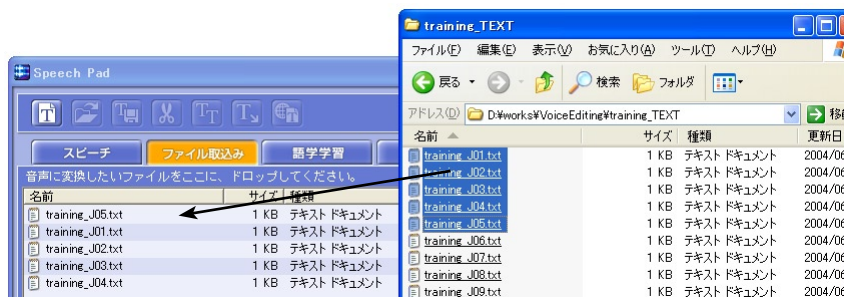
複数の文書を音声ファイルに変換する

複数の文書を一括して音声ファイルに変換します。
未読メールやレポートを音声ファイルに変換し、IC レコーダーに転送（保存）すると、外出中に文書内容の確認ができます。

お知らせ

音声ファイルに変換できる文書ファイルのファイル形式は以下の通りです。
- テキストドキュメント (*.txt)
- Microsoft Word 文書 (*.doc)
- Outlook Express メールメッセージ (*.eml)
  ただし、HTML 形式のメールメッセージは変換できないことがあります。

1「Speech Pad」の［ファイル取り込み］タブをクリックする

2「言語」と「ボイス」から読み上げる音声を選ぶ

3 Windows エクスプローラーなどで音声ファイルに変換する文書ファイルを選び、「Speech Pad」にドラッグ＆ドロップする

次ページへ続く

❹ 音声ファイルに保存する文書ファイルを選び、をクリックする

（☞ 21 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

〈音声ファイルの保存〉画面が表示されます。

- 音声ファイルを保存する場所を指定します。
  IC レコーダー、ドライブ、サブフォルダーの切り替えができます。
  また、［フォルダ作成］ボタンで、新規フォルダーの作成もできます。
- 「圧縮形式」と「モード」を選びます。
- 音声ファイルのタイトル名は、文書ファイル名になります。

❺［保存］ボタンをクリックする

〈音声ファイルの保存〉画面で選んだドライブ、フォルダーに保存されます。

お知らせ

- 〈音声ファイルの保存〉画面を表示しているときには、IC レコーダーや、SD メモリーカードの抜き差しをしないでください。
- 文書ファイルを選び、右クリックで表示されるメニューから［選択の切り替え］を選ぶと、文書ファイルの選択状態が反転します。
- 文書ファイルを選んで をクリックすると、文書ファイルを読み上げます。
  複数の文書ファイルを選んでいる場合、 をクリックすると、次のファイルを読み上げます。
- 文書ファイルの内容を「スピーチ」タブで確認できます。
  文書ファイルを右クリックして［スピーチタブに展開］を選ぶと、「スピーチ」タブに内容が表示されます。
  複数の文書ファイルを選んでいる場合、すべての文書ファイルの内容が順番に「スピーチ」タブで表示されます。
- 「ファイル取り込み一覧」のリストから文書ファイルを解除したい場合、文書ファイルを右クリックし、［ファイルの削除］を選びます。ファイル本体は削除されません。

外国語を学習する（音声合成）

音声合成機能を利用して、ヒアリング練習のファイルを作成します。
IC レコーダーに転送（保存）すると、いつでもヒアリングの練習ができます。
読み上げる文章を翻訳することもできます。

❶「Speech Pad」の「語学学習」タブをクリックする

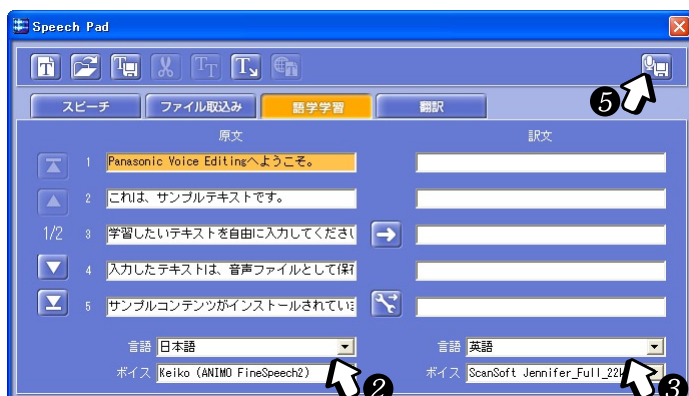
❷ 左の「原文」側の「言語」と「ボイス」を選ぶ

❸ 右の「訳文」側の「言語」と「ボイス」を選ぶ

❹「原文」と「訳文」を入力する

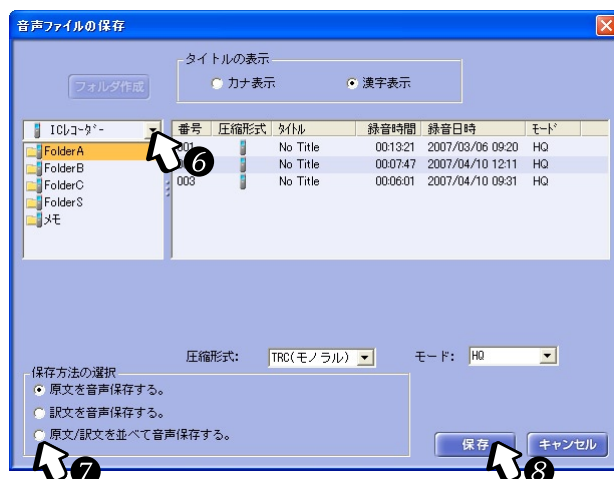
左側の「原文」欄に読み上げる文章の原文を入力します。
右側の「訳文」欄に読み上げる文章の訳文を入力します。
たとえば、左側に母国語を入力し、右側にその内容を翻訳した外国語を入力します。

次ページへ続く

5 ［アイコン］をクリックする

〈音声ファイルの保存〉画面が表示されます。

6 ドライブボックスのプルダウンリストから IC レコーダーを選ぶ

7 保存方法を選ぶ

入力した文章が音声ファイルのタイトルになります。

「保存方法の選択」で保存する音声を選びます。

原文を音声保存する：「原文」欄に入力した文章のみを読み上げて音声ファイルに保存します。
「原文」欄に入力した文章がタイトル名になります。

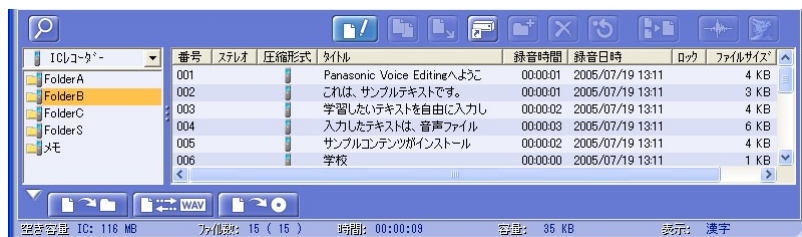
訳文を音声保存する：「訳文」欄に入力した文章のみを読み上げて音声ファイルに保存します。
「訳文」欄に入力した文章がタイトル名になります。

原文 / 訳文を並べて音声保存する：
「原文」欄と「訳文」欄に入力した文章を続けて読み上げて音声ファイルに保存します。
IC レコーダーに直接保存する場合、「原文」欄に入力した文章がタイトル名になります。
IC レコーダー以外に保存する場合、「原文」欄と「訳文」欄に入力した文章がタイトル名になります。

お知らせ

〈音声ファイルの保存〉画面を表示しているときには、IC レコーダーや、SD メモリーカードの抜き差しをしないでください。

8 〈音声ファイルの保存〉画面の［保存］ボタンをクリックする

1 項目ずつ個別の音声ファイルに変換されて保存されます。

※「原文 / 訳文を並べて音声保存する」を選んで保存した場合

9 IC レコーダーに保存した音声ファイルを再生する

次ページへ続く

外国語を学習する（音声合成）

お知らせ

- 手順❸のとき、［▶］をクリックすると、「原文」欄と「訳文」欄に入力した文章をそれぞれ上から順に再生します。
- 手順❹のとき、「原文」欄の文章を翻訳して、「訳文」欄に入力することができます。
  「原文」欄に文章を入力し、［➡］をクリックします。「訳文」側で選んでいる「言語」に翻訳され、「訳文」欄に表示されます。「原文」欄のオレンジ色の部分を 1 つずつ翻訳します。
- ［設定］をクリックすると、翻訳の設定が行えます。詳しい設定については、「付録」の「翻訳の設定（☞ 118 ページ）」を参照してください。
- 手順❹のとき、「原文」側と「訳文」側のそれぞれで選んだ言語の文章を入力してください。
  たとえば、「訳文」側の「言語」を「英語」にしている場合、「訳文」欄にドイツ語を入力すると正しい発音で読み上げません。
- ヒアリングの練習をする場合、手順❼のときに〈音声ファイルの保存〉画面で「原文 / 訳文を並べて音声保存する」を選んで保存すると、母国語と外国語を順番に聞くことができます。
- 1 ページにつき 5 項目の語学学習用音声ファイルの作成ができます。
  1 つの plf ファイルにつき最大 20 ページまで作成できます。
  ［▼］と［▲］で、ページの切り替えができます。
- 「語学学習」タブに入力したテキストは保存できます。
  ［保存］をクリックすると、plf ファイル（*.plf）として入力したテキストの保存ができます。
  plf ファイルをダブルクリックすると、Voice Editing が起動します。
- 「語学学習」タブに表示されるデフォルトサンプルは、表示／非表示の切り替えができます。（☞ 90 ページ「オプションの設定」）
- 「タイトル」欄に表示される文字数については、「タイトルの表示（☞ 51 ページ）」をご覧ください。
- 欧州言語の特殊な文字は、タイトル名に表示されません。英文字が代わりに表示されます。
- 中国語、韓国語、ロシア語の文章を入力すると、タイトル名は「言語名＋テキストボックスの番号」になります。

翻訳する

入力した文章を外国語に翻訳します。

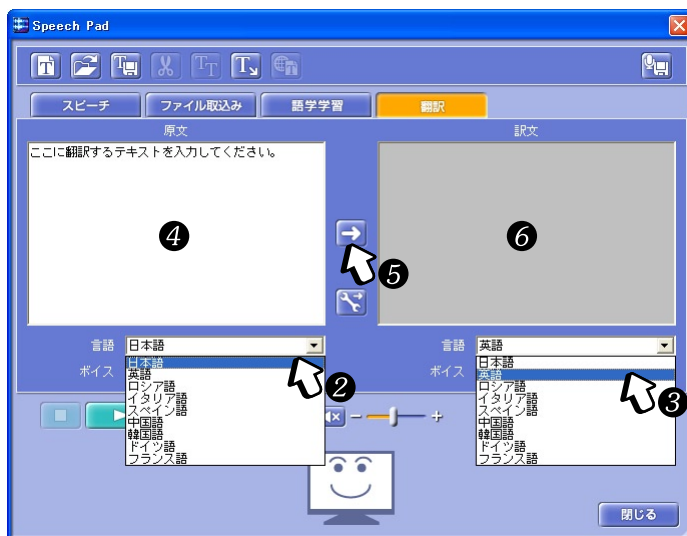
ご注意

翻訳機能・通訳機能による翻訳（通訳）結果は、一例であって、内容を保証するものではありません。
当社は、翻訳（通訳）結果に関していかなる責任も負いません。
また、翻訳（通訳）結果について何らかの編集をせず公表・販売・頒布することは著作権法に違反する恐れがあります。
翻訳する文章の内容によっては、意図した翻訳結果が得られない場合があります。

❶「Speech Pad」の［翻訳］タブをクリックする

❷「原文」側で、元になる文章の「言語」と「ボイス」を選ぶ

❸「訳文」側で、翻訳する他言語の「言語」と「ボイス」を選ぶ

❹「原文」欄に翻訳する元の文章を入力する

❺ ➡ をクリックする

手順❹で入力した文章が翻訳され、「訳文」欄に表示されます。

❻「訳文」欄をクリックし、 ▶ をクリックする

翻訳された文章が読み上げられます。

次ページへ続く ▶

❼ 翻訳された文章を音声ファイルとして保存する

「訳文」欄をクリックし、をクリックします。
〈音声ファイルの保存〉画面が表示されます。
タイトルを入力し、［保存］ボタンをクリックします。

❽ 翻訳された文章をテキストとして保存する

「訳文」欄をクリックし、をクリックします。
〈名前をつけて保存〉画面が表示されます。
ファイル名を入力し、［保存］ボタンをクリックします。

お知らせ

- 「原文」欄の文章の読み上げもできます。「原文」欄をクリックし、をクリックします。
- 「原文」欄の文章の保存もできます。「原文」欄をクリックし、をクリックすると、音声ファイルとして保存できます。をクリックすると、テキストとして保存できます。
- をクリックすると、翻訳の設定が行えます。詳しい設定については、「付録」の「翻訳の設定（☞ 118 ページ）」を参照してください。

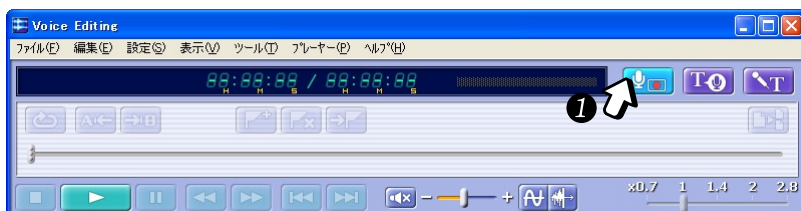
録音する

再生した音声を音声ファイルとして録音ができます。
たとえば、語学教材の CD を録音し、IC レコーダーへ転送（保存）すると、いつでもヒアリングの練習ができます。

ご注意

Simple Recorder 機能を使って、語学教材 CD など著作権を有するコンテンツから音声を録音する場合は、個人として使用する他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。録音したファイルは、個人の使用の範囲内でご使用ください。

❶ をクリックする

確認画面が表示されます。

❷ 確認画面の内容を確かめ、[はい] ボタンをクリックする

「Simple Recorder」が起動します。
同時に〈操作手順〉画面が表示されます。

❸ をクリックする

〈録音コントロール〉画面が表示されます。
再生する音源を選び、音量を調節します。
たとえば、語学教材の CD を録音する場合、「ステレオミキサー」を選びます。

❹ 録音する

音源を再生し、「Simple Recorder」のをクリックします。
に変わり、録音が始まります。
をクリックすると、録音が終了します。
音源の再生を終了します。

次ページへ続く

❺ 録音した音声ファイルを保存する

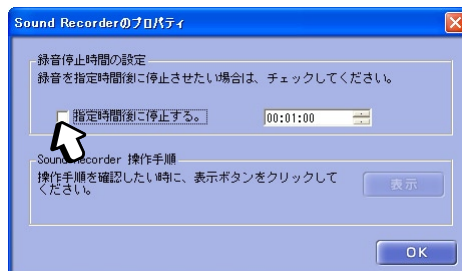
「Simple Recorder」のをクリックします。
〈音声ファイルの保存〉画面が表示されます。

- 音声ファイルを保存する場所を指定します。
  ドライブ、サブフォルダー、IC レコーダーの切り替えができます。
  また、［フォルダ作成］ボタンで、新規フォルダーの作成もできます。
- 音声ファイルのタイトルを入力します。
  「カナ表示」、「漢字表示」を入力します。
- 「圧縮形式」と「モード」を選びます。

❻［保存］ボタンをクリックする

音声ファイルに変換され、保存されます。

お知らせ

- 手順❸のとき、再生する音源に応じて〈録音コントロール〉画面で音源を切り替えます。
- 録音時間は、最大 2 時間までです。
  ハードディスクの空き容量によっては、2 時間の録音ができない場合もあります。
- 指定した時間が経てば、自動的に録音を停止することもできます。
  「Simple Recorder」のをクリックすると、〈Simple Recorder のプロパティ〉画面が表示されます。「指定時間後に停止する」にチェックマークを付け、自動的に停止させる時間を指定します。

表示設定

画面の幅を変更する

❶ ポインターを変更したい境界線上に移動する

「◀━▶」マークに切り替わります。

❷ 任意の幅にドラッグする

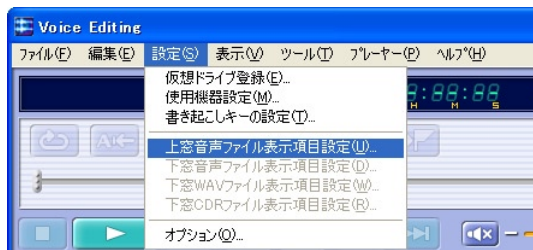
お知らせ

- 音声ファイル一覧の項目の幅を縮めると非表示にできます。
  再表示については、「表示項目設定（☞ 次項）」を参照してください。
- 音声ファイル一覧の項目をドラッグすると、位置の移動ができます。

表示項目設定

音声ファイル一覧に表示される項目の変更ができます。一覧ごとに表示する項目の設定ができます。

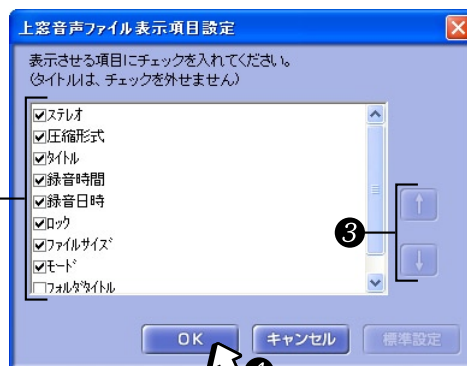
❶［設定］メニューから［上窓音声ファイル表示項目設定］を選ぶ

〈上窓音声ファイル表示項目設定〉画面が表示されます。

❷ 表示する項目に「✔」を入れる

「タイトル」の「✔」は外せません。

❸ 表示する項目を反転表示させ↑、↓で順番を変える

❹ OK をクリックする

表示項目が変更されます。

お知らせ

- 右クリックで表示されるメニューから［表示項目設定］を選ぶこともできます。
- 〈表示項目設定〉画面の［標準設定］ボタンをクリックすると初期状態に戻ります。
- 上のウィンドウ、下のウィンドウ、WAV 変換ウィンドウ別に表示項目の設定ができます。
- 音声ファイル一覧の項目をドラッグしても、項目位置の移動や非表示にすることもできます。

表示言語を切り替える

Voice Editing を起動したまま、表示言語の切り替えができます。

1 **「表示」メニューから［表示言語］を選ぶ**

切り替えられる言語が表示されます。

2 **切り替えたい言語を選ぶ**

確認の画面が表示されます。

3 **［はい］ボタンをクリックする**

表示言語が切り替わり、再度確認の画面が表示されます。

4 **OK をクリックする**

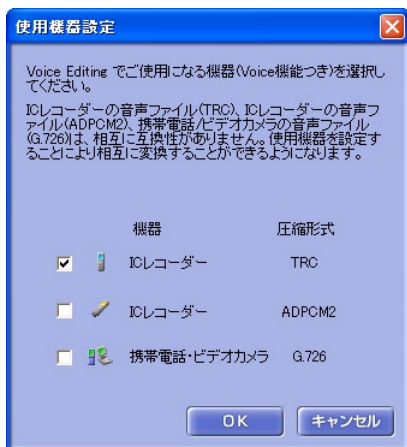
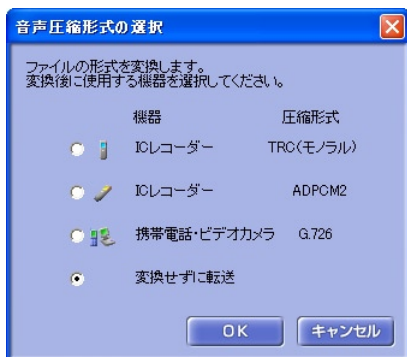
表示言語が切り替わります。
［元に戻す］ボタンをクリックすると元の表示言語に戻ります。

使用機器の選択

IC レコーダーの音声ファイルには、下記の圧縮形式があります。

圧縮形式	主な機器
TRC	IC レコーダー
ADPCM2	IC レコーダー
G.726	SD オーディオプレーヤー、携帯電話、ビデオカメラなど

これらの圧縮形式には互換性がありません。
それぞれの圧縮形式の VM1 音声ファイルが使用できる機器を設定することにより相互に変換できるようになります。

「設定」メニューから［使用機器設定］を選ぶと、〈使用機器設定〉画面が表示されます。
使用する機器（圧縮形式）にチェックマークを付けます。

音声ファイルを転送（保存）するとき、複数の機器（圧縮形式）を選んでいる場合には、〈音声圧縮形式の選択〉画面が表示されます。

お知らせ

〈使用機器設定〉画面で圧縮形式が TRC の IC レコーダーのみを選んでいるときも、ステレオ TRC を転送（保存）すると〈音声圧縮形式の選択〉画面が表示されます。

オプションの設定

各機能で共通する設定を行います。
「設定」メニューから［オプション］を選ぶと、〈オプション〉画面が表示されます。
〈オプション〉画面では、以下の設定が行えます。

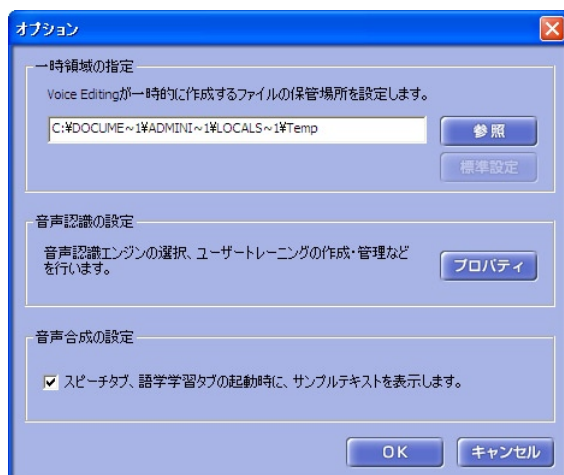
A 一時領域の指定

音声認識や CD-R/RW にファイルを書き込むとき、一時ファイルを作成します。一時ファイルを作成するドライブ、フォルダーの指定ができます。

B 音声認識の設定

音声認識ユーザーを作成します。（☞ 61 ページ「音声を文字に変換する」）

C 音声合成の設定

チェックマークが付いていると、「Speech Pad」の［スピーチ］タブと［語学学習］タブを表示したときにサンプル文書を表示します。

OK をクリックすると、オプションが設定されます。

オートアップデート

最新のシステムにアップデートできます。

「ヘルプ」メニューから［アップデート］を選ぶ

以降、画面の指示に従って操作してください。

Voice Editing Launcher

メモ帳など他のソフトウェアに入力した文章の読み上げや翻訳をワンタッチで行えます。

Voice Editing Launcher の起動

Voice Editing Launcher を起動するには、以下の 3 つの方法があります。

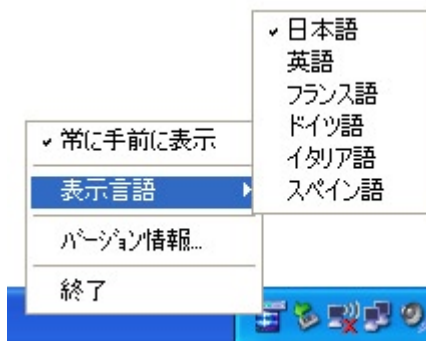
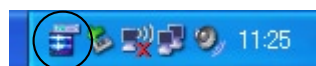
- 「スタート」メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］→［Voice Editing］→［Voice Editing Launcher］を順に選ぶ
- Microsoft Office 2000/XP/2003 のツールバーに表示されているアドインアイコンをクリックする

※ Microsoft Excel の場合

- Microsoft Internet Explorer の右クリックで表示されるメニューから［Voice Editing Launcher］を選ぶ

Microsoft Office、Internet Explorer を起動しているとき、Voice Editing Launcher をいつでも起動することができます。

また、Voice Editing Launcher を起動していると、[Ctrl]+[C] でコピー、[Ctrl]+[V] で貼り付けが行えるソフトウェアであれば、読み上げ機能、翻訳機能が使えます。

Voice Editing Launcher が起動すると、タスクトレーにアイコンが表示されます。
タスクトレーのアイコンを右クリックするとメニューが表示されます。
「常に手前に表示」にチェックマークを付けると、常に最上面に表示されます。
Voice Editing Launcher を起動したまま、表示言語の切り替えができます。［表示言語］から切り替える言語を選びます。

お知らせ

- Voice Editing Launcher は Voice Editing をインストールしている場合に使用できます。Voice Editing Launcher のみのインストールはできません。
- Voice Editing が起動しているとき、Voice Editing Launcher は起動できません。
- お使いのソフトウェアによっては、Voice Editing Launcher の機能が使えない場合があります。
- Voice Editing をインストールした OS の言語やソフトウエアの種類によっては、コピー機能のキー操作が［Ctrl］+［C］、貼り付け機能のキー操作が［Ctrl］+［V］でない場合があります。
- Voice Editing Launcher は、すべてのアプリケーションの［Ctrl］+［C］、［Ctrl］+［V］のキー操作に対応することを保証していません。

読み上げ機能

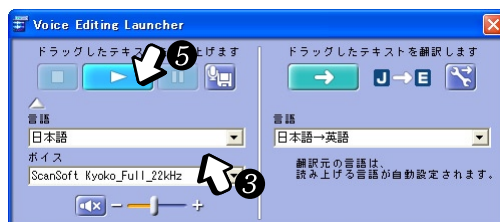
❶ メモ帳などの他のソフトウェアを起動し、文章を入力する

❷ Voice Editing Launcher を起動する

❸ をクリックし、Voice Editing Launcher の左側で読み上げる「言語」と「ボイス」を選ぶ

❹ メモ帳などに入力している文章をドラッグし、反転させる

❺ Voice Editing Launcher の をクリックする

反転させた文章が読み上げられます。

お知らせ

メモ帳などに入力している文章を反転し、をクリックすると、音声ファイルに変換することもできます。
(☞ 77 ページ「文章を音声ファイルに変換する」)
ただし、IC レコーダーへ直接保存することはできません。

翻訳機能

❶ メモ帳などの他のソフトウェアを起動し、文章を入力する

❷ Voice Editing Launcher を起動する

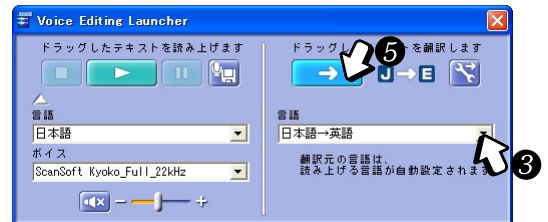
❸ をクリックし、
Voice Editing Launcher の右側で翻訳言語を選ぶ

❹ 文章をドラッグし、反転させる

❺ Voice Editing Launcher の をクリックする

反転させた文章が翻訳され、下記の画面に翻訳結果が表示されます。

❻ [編集結果を貼り付け] をクリックする

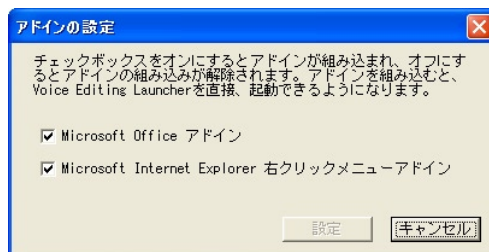
メモ帳などのカーソルが入っている位置に翻訳結果が貼り付けられます。

お知らせ

- をクリックすると、翻訳の設定が行えます。詳しい設定については、「付録」の「翻訳の設定（☞ 118 ページ)」を参照してください。
- の右側のアイコンは、言語を表しています。

J：日本語　E：英語　C：中国語　K：韓国語　S：スペイン語　F：フランス語
G：ドイツ語　I：イタリア語　R：ロシア語

Voice Editing Launcher の設定

Voice Editing Launcher は、Microsoft Office、Internet Explorer への組み込み、解除ができます。

「スタート」メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］→［Voice Editing］→［Voice Editing Launcher 設定］を順に選びます。
〈アドインの設定〉画面が表示されます。

チェックマークを外し、［設定］ボタンをクリックすると、Microsoft Office のアドイン、Internet Explorer の右クリックメニューへの組み込みが解除されます。

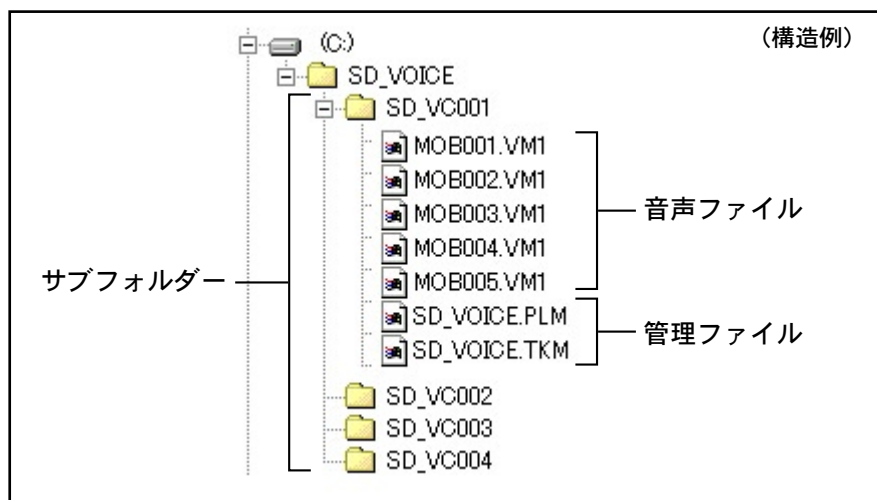
チェックマークを付けて、［設定］ボタンをクリックすると、Microsoft Office のアドイン、Internet Explorer の右クリックメニューへの組み込みができます。

お知らせ

Microsoft Office が起動しているとき、Microsoft Office アドインの組込み、解除はできません。

SD_VOICE フォルダーと音声ファイル

フォルダー構造

パソコンのハードディスク上では、初期設定で以下のようなフォルダー構造になっています。

お知らせ

- サブフォルダー、音声ファイル、管理ファイルをエクスプローラー上で操作しないでください。音声ファイルが壊れ、Voice Editing Ver.2.0 が正常に動作しなくなります。
- これらのフォルダーおよびファイルはすべて隠しファイルの属性設定になっています。
- 音声ファイルを外部記憶装置にバックアップする場合、「SD_VOICE」フォルダーごとコピーしてください。

ファイル数

G.726 形式の音声ファイル（携帯電話、ビデオカメラで録音される音声データ）の場合、8 分 24 秒ごとに分割されて保存されるため、8 分 24 秒を越える音声ファイルがある場合は 1 フォルダーあたりの保存できるファイル数が 999 個より少なくなります。

（例）

G.726 録音時間	音声ファイル数	構成ファイル数
5 分	1 個	1 個（5 分× 1 個）
10 分	1 個	2 個（8 分 24 秒× 1 個＋ 1 分 36 秒× 1 個）
20 分	1 個	3 個（8 分 24 秒× 2 個＋ 3 分 12 秒× 1 個）
合　計	3 個	6 個

お知らせ

TRC と ADPCM2（IC レコーダーで録音される音声データ）は、音声ファイル数と構成ファイル数は同一です。

音声ファイルのバックアップ

Windows XP をお使いの場合

Windows XP で Voice Editing をお使いの場合、Windows XP の CD-R 書き込み機能を使って、音声ファイルを CD-R/RW へバックアップできます。

お知らせ

- この機能では、パケットライトソフト的な使いかたはできません。
  パケットライトソフトでフォーマットされた CD-R/RW は、[ボタン]でのバックアップに使えません。
  詳しくは、パケットライトソフトに付属の取扱説明書をご覧ください。
- Windows XP 以外の OS でお使いの場合、「音声ファイルのバックアップ」の「Windows 98SE/Me/2000 をお使いの場合（☞98 ページ）」をご覧ください。

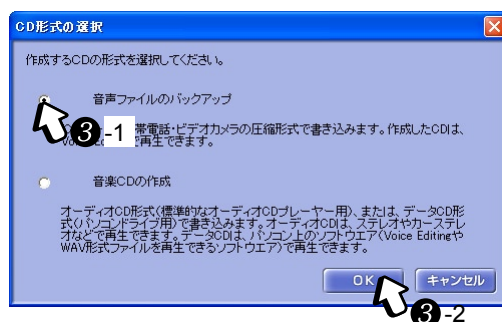
音声ファイルを CD-R/RW に書き込む

❶ **CD-R/RW をパソコンにセットする**

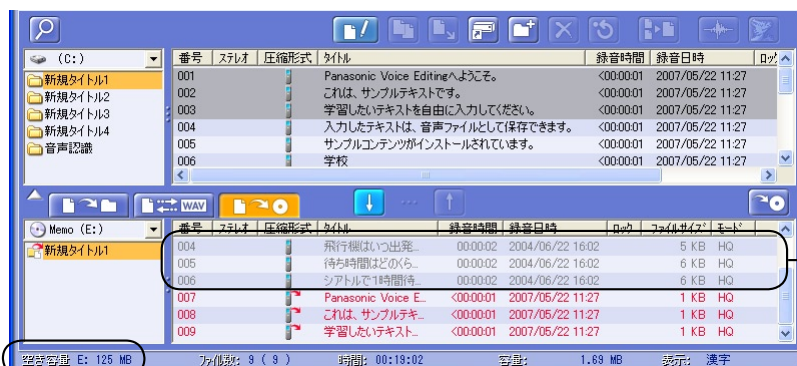
❷ **[ボタン]をクリックする**

〈CD 形式の選択〉画面が表示されます。

❸ **「音声ファイルのバックアップ」を選び、[OK]をクリックする**

CD-R ウィンドウが表示されます。

次ページへ続く

❹ バックアップしたい音声ファイルを下の CD-R ウィンドウに転送（保存）する

書き込み準備ができた音声ファイルには、圧縮形式を示すアイコンに書き込み準備マーク が付きます。

お知らせ

ステータスバーで容量の確認ができます。
CD-R/RW の記録可能容量を超えないようにしてください。

❺ をクリックする

「CD 書き込みウィザード」が起動します。
画面の指示に従って操作を行ってください。

CD-R/RW の音声ファイルを再生する

❶ CD-R/RW を CD ドライブにセットする

❷ ドライブボックスのプルダウンリストから CD-R/RW のドライブを選ぶ

❸ 音声ファイルを選び、 をクリックする

CD-R/RW 内の音声ファイルが再生できます。

お知らせ

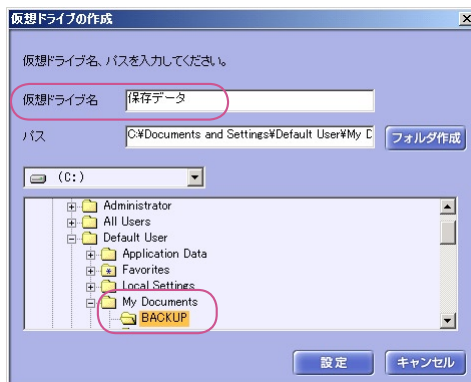
- CD-R/RW 内の音声ファイルには、下記の制限があります。
  - 並べ替えはできません。
  - 音声ファイルの削除はできません。
  - 音声ファイルの編集はできません。
- CD-R/RW 内の音声ファイルは、Voice Editing で再生できますが、CD-R/RW 単独では再生できません。
  CD-R/RW 単独で再生するためには、「オーディオ形式の CD を作成する」の「Windows XP をお使いの場合（☞ 101 ページ）」をご覧ください。

Windows 98SE/Me/2000 をお使いの場合

音声ファイルを CD-R/RW に書き込む

CD-R 書き込みソフトウェアを使って、音声ファイルを CD-R/RW にバックアップする場合、以下の手順で操作をしてください。
以下の手順でバックアップを行うと、CD-R/RW 内の音声ファイルの再生ができます。

❶ バックアップ用の仮想ドライブを作成する

たとえば「BACKUP」フォルダーを作成し、仮想ドライブ名を「保存データ」とします。

❷ バックアップ用の仮想ドライブにバックアップしたい音声ファイルを転送（保存）する

ドライブボックスのプルダウンリストから、手順❶で作成した仮想ドライブを選び、バックアップしたい音声ファイルを転送（保存）します。

お知らせ

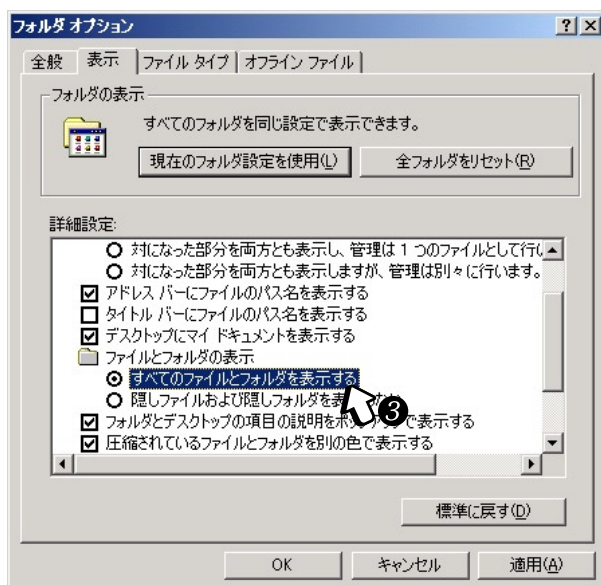
ステータスバーで容量の確認ができます。
CD-R/RW の記録可能容量を超えないようにしてください。

次ページへ続く

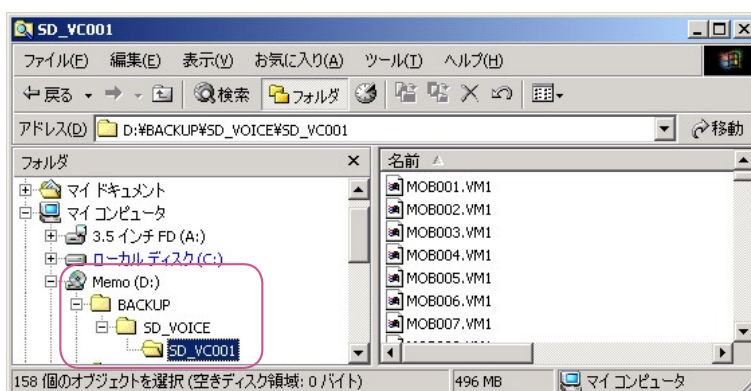
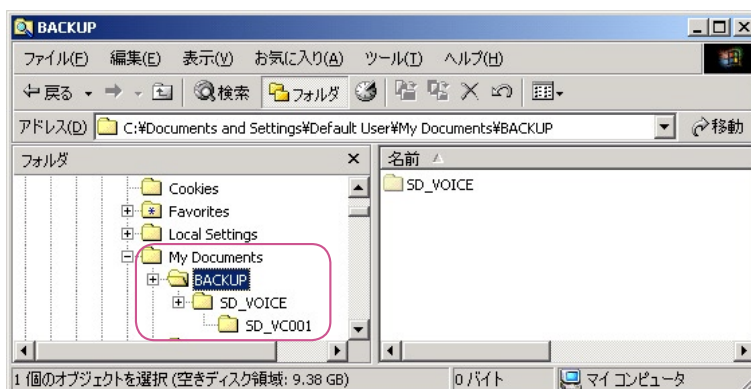
もくじへ

❸ 仮想ドライブと音声ファイルをエクスプローラーで確認する

エクスプローラーの「ツール」メニューから［フォルダオプション］を選びます。
［表示］タブをクリックし､「ファイルとフォルダの表示」の「すべてのファイルとフォルダを表示する」をクリックします。

［適用］ボタンをクリックし、［OK］ボタンをクリックします。
仮想ドライブがエクスプローラー上で確認できます。

❹ CD-R 書き込みソフトウェアを使用し、CD-R/RW へ仮想ドライブに指定したフォルダーを書き込む

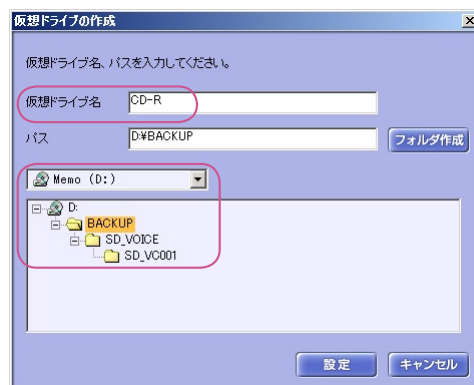
手順❶で指定した仮想ドライブのフォルダー下を CD-R/RW に書き込みます。

CD-R/RW に書き込むと、このようなファイル構成になります。

お知らせ
CD-R 書き込みソフトウェアの操作については、CD-R 書き込みソフトウェアに付属の取扱説明書をご覧ください。

次ページへ続く

CD-R/RW の音声ファイルを再生する

❶ CD-R/RW を CD ドライブにセットし、CD-R/RW 用の仮想ドライブを作成する

たとえば、仮想ドライブ名を「CD-R」とし、CD-R/RW 内の「BACKUP」フォルダーを指定します。

❷ ドライブボックスのプルダウンリストから CD-R/RW 用の仮想ドライブを選ぶ

CD-R/RW 内の音声ファイルが音声ファイル一覧に表示されます。
音声ファイルを再生することもできます。

お知らせ

- CD-R/RW 内の音声ファイルには、下記の制限があります。
  - 並べ替えはできません。
  - 音声ファイルの削除はできません。
  - 音声ファイルの編集はできません。
- CD-R/RW 内の音声ファイルは、Voice Editing で再生できますが、CD-R/RW 単独では再生できません。
  CD-R/RW 単独で再生するためには、「オーディオ形式の CD を作成する」の「Windows 98SE/Me/2000 をお使いの場合（(☞ 103 ページ)」をご覧ください。

オーディオ形式の CD を作成する

Windows XP をお使いの場合

Windows XP で Voice Editing をお使いの場合、Windows XP の CD-R 書き込み機能を使って、オーディオ形式の CD の作成ができます。
オーディオ形式の CD にすると、音声ファイルを標準的なオーディオ CD プレーヤーで再生することができます。

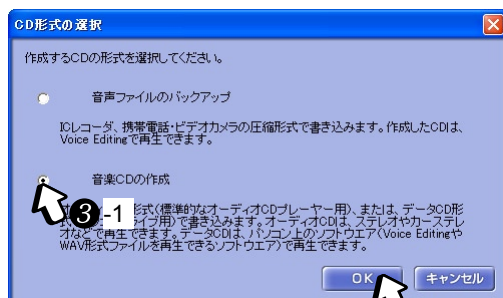
お知らせ

- 新しい CD-R/RW でのみオーディオ形式の CD の作成ができます。
- 書き込みができる最大時間は、CD-R/RW の書き込み可能時間によって異なります。
- Windows XP 以外の OS でお使いの場合、音声ファイルを WAVE 形式ファイルに変換し、市販の CD-R 書き込みソフトウェアを使ってオーディオ形式の CD を作成してください。
- Windows XP 以外の OS でお使いの場合、「オーディオ形式の CD を作成する」の「Windows 98SE/Me/2000 をお使いの場合（☞ 103 ページ）」をご覧ください。

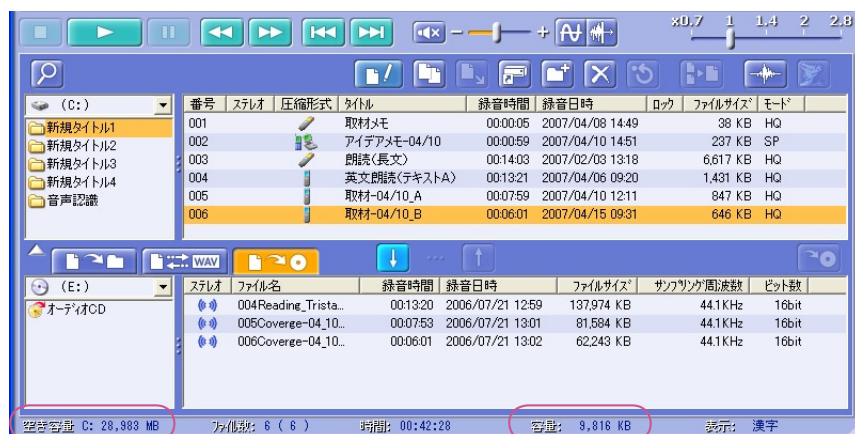
❶ 新しい CD-R/RW をパソコンにセットする

❷ [ボタン] をクリックする

〈CD 形式の選択〉画面が表示されます。

❸「音楽 CD の作成」を選び、 OK をクリックする

CD-R ウィンドウが表示されます。

次ページへ続く ▶

❹ オーディオ形式の CD に書き込みたい音声ファイルを下の CD-R ウィンドウに転送（保存）する

お知らせ

- ステータスバーで容量の確認ができます。
  「容量」欄には、オーディオ CD 形式に変換した音声ファイルの推定合計容量が表示されます。
  「空き容量」欄には、オーディオ CD 形式に変換した音声ファイルを書き込める残り容量が概算で表示されます。
  「容量」欄、「空き容量」欄に表示される容量は、オーディオ CD 形式に変換した後の予測容量です。書き込み可能時間のめやすにしてください。
- 書き込み可能時間を越える音声ファイルの転送はできません。書き込みができる最大時間は、CD-R/RW の書き込み可能時間によって異なります。

❺ をクリックする

「CD 書き込みウィザード」が起動します。
画面の指示に従って操作を行ってください。

以上の手順でオーディオ形式の CD が作成されます。
「CD 書き込みウィザード」で「オーディオ CD」を選んだ場合、標準的なオーディオ CD プレーヤーで再生できます。
「データ CD」を選んだ場合、WAVE 形式ファイルの再生ができるソフトウェアで再生できます。

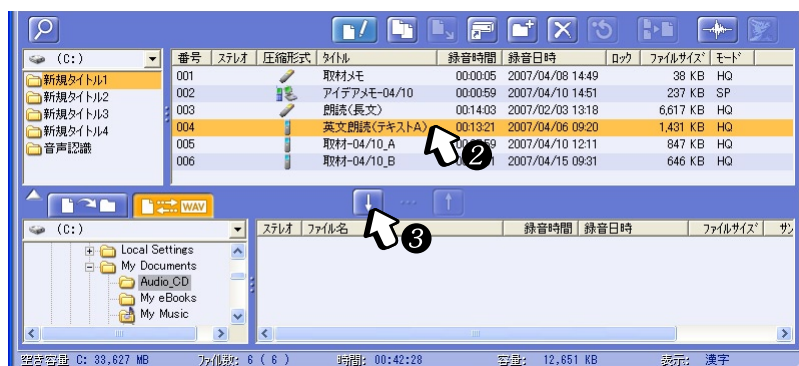
お知らせ

- オーディオ形式の CD として作成した CD-R/RW の内容は、「WAV 変換ウィンドウ」で内容の確認ができます。
- オーディオ形式の CD をパソコンにセットすると、デフォルトでは Windows Media Player が自動的に起動します。
  Windows Media Player の操作方法については、Windows Media Player の取扱説明書をご覧ください。

Windows 98SE/Me/2000 をお使いの場合

CD-R 書き込みソフトウェアを使って、オーディオ形式の CD を作成する場合、以下の手順で操作をしてください。
作成したオーディオ CD は、一般的な CD 付きオーディオ機器での再生ができます。

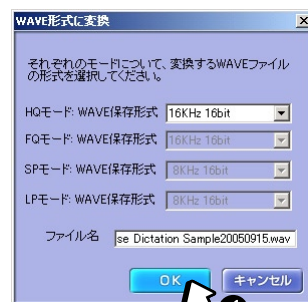
❶ CD-R 書き込みソフトウェアが 35 ページに記載されている WAVE 形式をサポートしているか確認する

❷ WAV 変換ウィンドウを開き、オーディオ形式の CD に書き込みたい音声ファイルを選ぶ

❸ [↓] をクリックする

〈WAVE 形式に変換〉画面が表示されます。

❹ 手順❶で確認した WAVE 形式を選び、[OK] をクリックする

選んだ音声ファイルが WAVE 形式ファイルに変換されます。

WAVE形式に変換
それぞれのモードについて、変換するWAVEファイルの形式を選択してください。
HQモード: WAVE保存形式 16KHz 16bit
FQモード: WAVE保存形式 16KHz 16bit
SPモード: WAVE保存形式 8KHz 16bit
LPモード: WAVE保存形式 8KHz 16bit
ファイル名 se Dictation Sample20050915.wav
OK キャンセル

お知らせ

ステータスバーで容量の確認ができます。
CD-R/RW の記録可能容量を超えないようにしてください。

❺ CD-R 書き込みソフトウェアを使用し、WAVE 形式ファイルに変換した音声ファイルを CD-R/RW へ書き込む

お知らせ

CD-R 書き込みソフトウェアの操作については、CD-R 書き込みソフトウェアに付属の取扱説明書をご覧ください。

IC レコーダーの初期化

Voice Editing を使って、IC レコーダーの初期化ができます。

ご注意

- IC レコーダーを初期化すると、ロックされている音声ファイルも消去されます。
- 必要な音声ファイルか確認してから、IC レコーダーを初期化してください。
- 認証済みのセキュリティ機能付き IC レコーダーを初期化すると、セキュリティフォルダー内の音声ファイルも消去されます。
  認証していないセキュリティ機能付き IC レコーダーを初期化すると、セキュリティフォルダー内の音声ファイルはそのまま残ります。

❶ IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続する（☞ 8 ページ）

❷ ドライブボックスのプルダウンリストから、IC レコーダーを選ぶ

❸「ファイル」メニューから［IC レコーダー初期化］を選ぶ

確認の画面が表示されます。

❹［はい］ボタンをクリックする

IC レコーダーの初期化が始まり、音声ファイルがすべて消去されます。

アンインストールする

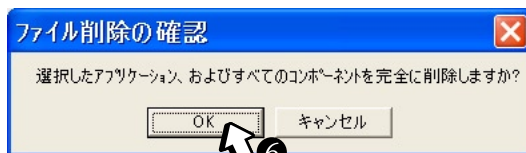
❶「スタート」メニューから、「コントロールパネル」を選ぶ

❷「プログラムの追加と削除」をダブルクリックする
〈プログラムの追加と削除〉画面が表示されます。

❸［プログラムの変更と削除］をクリックする

❹［Voice Editing］をクリックし、［変更と削除］をクリックする
〈設定言語の選択〉画面が表示されます。

❺［OK］ボタンをクリックする
〈ファイル削除の確認〉画面が表示されます。

❻［OK］ボタンをクリックする
Voice Editing が削除されます。

お知らせ

- パソコン内の音声ファイルは、アンインストールを行っても削除されません。
- このソフトウェアを一度インストールした後、別のドライブまたはフォルダーに移動させる場合は、アンインストールしてから再度インストールを行ってください。
- Voice Editing Ver.2.0 をアンインストールすると、音声認識エンジン、音声合成エンジン、翻訳エンジンも同時にアンインストールされます。

Q&A（よくあるご質問）

質問（Q）	回答（A）
Macintosh で使用できますか。	現在のところ対応の予定はありません。
このソフトウェアを、アンインストールや再インストールした場合、保存したデータは残りますか。	残ります。ただし、安全のためにバックアップしておくことをお勧めします。
パソコンに保存したファイルがみつかりませんが、どこに保存されているのですか。	隠しファイルの設定になっています。ドライブのルートに「SD_VOICE」という隠しフォルダーが作られ、その中に保存されています。隠しファイル、隠しフォルダーの属性設定については Windows の取扱説明書をご覧ください。 お知らせ ファイル単体での保存はできません。
MP3 は、再生できますか。	対応していません。
音声ファイルを、人に渡したいのですが。	音声ファイルを渡したい相手が、Voice Editing Ver.2.0 をお持ちの場合、「メール転送形式に変換」機能を使って、VM1 のファイル「＊ .pvc」を作成してお渡しください。 お持ちでない場合は、VM1 のファイル「＊ .pvc」と Voice Editing Mini Player「VEd1_VM1_Player.exe」を作成してお渡しください。 （☞ 56 ページ）
送信した VM1 のファイル「＊ .pvc」が相手先で再生できません。	Voice Editing Ver.2.0 で作成した VM1 のファイル「＊ .pvc」は、以前のバージョンでは再生できません。 Voice Editing Mini Player を相手先に送付してください。 （☞ 57 ページ）
IC レコーダーの音声ファイルを WAVE 形式のファイルに変換する利点はありますか。	WAVE 形式ファイルは、通常どのパソコンでも再生ができます。音声ファイルを WAVE 形式ファイルに変換し、CD-R 書き込みソフトウェアを用いて音楽 CD を作成すれば、一般的な CD 付きオーディオ機器での再生ができるようになります。 ただし、CD-R 書き込みソフトウェアが 35 ページに記載されている WAVE 形式をサポートしている必要があります。 お知らせ CD-R 書き込みソフトウェアの操作については、CD-R 書き込みソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
WAVE 形式ファイルに、どうやって変換するのですか。	Voice Editing の変換機能を使ってください。 詳しい操作方法については「VM1 → WAVE 形式に変換」（☞ 34 ページ）を参照してください。
Voice Editing で管理しているサブフォルダーはいくつまで作れますか。	パソコンのハードディスク等、書き換え可能なドライブには、1 ドライブ当たり、999 個まで作成できます。（☞ 6, 7 ページ）
1 つのサブフォルダーに、音声ファイルは最大いくつ保存できますか。	1 つのサブフォルダーには、最大 999 個のファイルを保存することができます。（☞ 6, 7 ページ）

次ページへ続く

質問（Q）	回答（A）
Voice Editing で、メディア（SD メモリーカードやリムーバブルメディアなど）上のファイルを表示させているとき、メディアを交換しても問題ないでしょうか。	Voice Editing で音声ファイルを表示させているときにメディアを交換した場合は必ず、「表示」メニューで［最新の情報に更新］を選ぶか、または［F5］キーを押して、情報を更新させてください。 お知らせ 再生・転送・変換などでメディア上の音声ファイルをアクセスしている最中にメディアを抜き取ると、音声ファイルが壊れることがあります。操作中は抜き取らないでください。
IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続すると、OS のハードウェアウィザードが現れました。 どうすれば、良いですか。	ドライバーがインストールされていないためです。ハードウェアウィザードをキャンセルし、いったん、USB プラグを抜き取ってから、Voice Editing の CD-ROM をインストールしてください。Voice Editing のインストールと共に、ドライバーもインストールされます。インストールが完了しましたら、OS を再起動して、USB プラグを接続してください。 お知らせ 付属の CD-ROM には、ルートに driver フォルダーがあります。これを用いて、手動でドライバーをインストールすることも可能です。
SD メモリーカードに転送した音声ファイルが再生できません。	音声ファイルの圧縮形式、TRC、ADPCM2、G.726 は、それぞれ互換性がありません。 使用機器に合わせた圧縮形式に変換してください。（☞ 89 ページ）
Voice Editing で再生できる音声ファイルが入っている SD メモリーカードを、SD メモリーカードスロット付き IC レコーダーに差し込んでも再生されない音声ファイルがあります。	SD メモリーカード付き IC レコーダーは、95 ページに記載しているファイル構造の MOB001.VM1 ～ MOB099.VM1 のみが再生できます。MOB のファイル番号が、100 番以上の音声ファイルは、SD メモリーカード付き IC レコーダーでは再生できません。この場合、再生できない音声ファイルを別のサブフォルダー（SD_VC001 ～ SD_VC009）に転送してください。
Voice Editing では、他のメーカーのボイスレコーダーで録音した音声ファイルを再生できますか。	Voice Editing で、再生できない音声ファイルは、音声ファイル一覧の「圧縮形式」欄に？が表示されます。？が表示された音声ファイルはサポートしていません。
Voice Editing Ver.2.0 に対応している機種名を教えてください。	IC レコーダー：RR-XR330 RR-US520/US530/US630/US620 RR-US007/US009/US050/US070/US090 RR-US500/US900/US470 D-Snap：SV-AV10/AV30/AS3/AV35/AV50 D-Snap Audio：SV-SD100V/SD350V/SD370V/SD570V/SD750V/SD770V 最新の対応機種については、当社のホームページで確認してください。 Voice Editing の「ヘルプ」メニューから［松下電器サポートページ］を選ぶ （2007 年 1 月現在）
下記の IC レコーダーを持っています。 RR-XR320/330、 RR-US520/US530/US630/US620 RR-US007/US009/US050/US070/US090 RR-US500/US900 これらの IC レコーダーに付属のソフトウェアとの互換性はありますか。	上位互換です。 Voice Editing Ver.2.0 は、左記のソフトウェアの上位バージョンに当たります。

次ページへ続く

質問（Q）	回答（A）
IC レコーダーの音声ファイルを直接再生するとき、操作できないボタンがありますが。	機能しないボタンは非アクティブ（グレー表示）になっています。
録音した音声ファイルを音声認識ソフトでテキストに変換するとき、最も良い認識結果を得るにはどうすれば良いですか。	• 認識率の高い文字変換を行うには、音声認識させたい人の声を登録する「トレーニング」が必要です。（☞ 61 ページ） • 「トレーニング」を追加すると、認識精度が上がります。本ソフトウェアは、追加トレーニングを行う文章を用意しています。（☞ 112 ページ） お知らせ トレーニング時、マイクウィザードでマイクロホンのボリュームを適切に設定してください。 • 追加「トレーニング」を実施しても、正しく認識されない単語がある場合、「単語の追加と削除」機能（☞ 67 ページ）を使用し、辞書に音声を登録してください。辞書に音声が登録されると、登録した単語が正しくテキストに変換されるようになります。 • IC レコーダーを「メモ録音」にしてお使いください。 • 音声認識の精度には個人差があります。はっきりとした口調で急がないで話してください。また、静かな環境で話してください。 お知らせ 同時会話のような話者の特定ができない会議録音や、雑音の入った会話録音での音声認識はできません。

次ページへ続く ▶

Q&A（よくあるご質問）

質問（Q）	回答（A）
どのような音声認識エンジンが使えますか？	マイクロソフト社の SAPI5 に対応している音声認識エンジンが使えます。
どのような音声合成エンジンが使えますか？	マイクロソフト社の SAPI5 に対応している音声合成エンジンが使えます。
付属の「音声・テキスト変換専用コード」を用いても、マイクロホンの感度が悪く、トレーニングやディクテーションができないのですが。	IC レコーダーの音量を調節してみてください。 また、パソコンの種類によっては、ストレートミニプラグと L 型ミニプラグを逆に差し替えることで、感度がよくなることもあります。
「Speech Pad」の「スピーチ」タブで入力した文章をリッチテキストファイルで保存しましたが、欧州言語の特殊な文字が表示されないのですが？	Windows 98SE、Windows Me で Voice Editing をお使いの場合、OS の制限で、欧州言語の特殊な文字の表示ができません。
〈ホームページの表示とテキスト取得〉画面で「Speech Pad」にホームページを取り込みましたが、欧州言語の特殊な文字が表示されません？	OS の制限で、欧州言語の特殊な文字の表示ができません。 ホームページから文字をコピーし、「Speech Pad」に貼り付けてください。

■ サポートページもご覧ください

最新のサポート情報が掲載されています。
［ヘルプ］メニューから［松下電器サポートページ］を選ぶ

故障かな !? と思ったら

症　状	原因・対策
インストールできない	• ハードディスクの空き容量が少ない可能性があります。 →容量を確認してください。
音声ファイルが 再生できない	• サウンドボードが付いていない（☞ 4 ページ）。 • パソコンにスピーカーが内蔵または接続されていない。 • DirectX がインストールされていない。
再生音量が小さい	• パソコン側で音量を上げてみてください。（詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください）
音声ファイルの 保存・追加・削除中に 画面が動かなくなる	• 録音時間の長い音声ファイルや大量の音声ファイルを保存、追加、削除に時間がかかります。 →保存、追加、削除が終了するまでお待ちください。 通常の操作ができるようになります。
音声ファイルが 編集できない	• ロックされた音声ファイルは編集ができません。 →ロックを解除してください。（☞ 43 ページ）
メールに添付された「VEd1_VM1_Player.exe」が受け取れない	• 電子メールソフトによっては、「＊ .exe」や「＊ .bat」の送付を制限している場合があります。 • 相手先への送付前に「＊ .exe」の拡張子「.exe」を一旦消して送付してください。相手先で「.exe」を手入力で付加した後、ダブルクリックで実行してください。拡張子を非表示にしているときは、表示の設定を変更してください。設定方法は Windows の取扱説明書をご覧ください。
音声ファイルの変換時にサブフォルダーや音声ファイル一覧が正しく表示されない	• Internet Explorer5.0 以前のバージョンをお使いの場合、表示が乱れることがあります。Internet Explorer をアップデートしてください。
Windows で「タスクバーを自動的に隠す」設定にしているとき、タスクバーが表示されない	• 「タスクバーを自動的に隠す」設定をしているときに Voice Editing を最大化表示で使用すると、タスクバーが表示できなくなる場合があります。 右上端の（表示切替ボタン）を押して最大化を解除してご使用ください。

本ソフトウェアに関するお問い合わせ先

製品に関するQ＆Aやアップデートなどのサポート情報については、下記のホームページをご覧ください。

- IC レコーダー本体について
  http://panasonic.jp/support/audio/
- Voice Editing について
  http://panasonic.jp/support/software/

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル 0120-878-365（パナは365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… 06-6907-1187

FAX フリーダイヤル 0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan

Tokyo (03) 3256 - 5444　**Osaka** (06) 6645 - 8787

Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

■ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

松下電器産業株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

音声認識エンジンのトレーニング

本ソフトウェアに付属している音声認識エンジン（マイクロソフト株式会社製）は、日本語、英語、中国語の 3 種類です。
それぞれの音声認識エンジンには、追加トレーニングのセッションが用意されています。
〈音声認識のプロパティ〉画面の［トレーニングの追加］ボタンをクリックすると、〈音声認識のトレーニング〉画面が表示されます。
「トレーニング方法の選択」から「既定文章」を選び、OK をクリックすると、用意されているセッションが表示されます。
各セッションの数は以下の通りです。

お知らせ

追加トレーニングで「既定文章」を選んだ場合、1 回目は、セッション名「イントロ」の内容が「音声トレーニング」ウィザードに表示されます。
2 回目以降は、「既定文章」のセッションから自由に選べます。

日本語

■ **Microsoft Japanese v5.1 Recognizer**

セッション名	ステップ数
イントロ	28
エッセイ：ジャズバー、母校、その他	36
エッセイ：映画鑑賞、アロマセラピー、その他	28
シェークスピアフェスティバル	22
ビルゲーツ：未来を語る	43
音声技術の紹介	21
家族	24

英語

■ **Microsoft English v5.1 Recognizer**

セッション名	ステップ数
Aesop's Fables	32
Bill Gates describes - The Road Ahead, Second Version	14
Excerpts from - The Problems of Philosophy by Bertrand Russell	42
Excerpts from "The Fall of the House of Usher" by Edgar Allan poe	34
Excerpts from SUMMER. by Edith Wharton	28
Excerpts from The War of the Worlds by H. G. Wells	30
Introduction to Microsoft Speech Recognition	17
The Wonderful Wizard of Oz - by L. Frank Baum	27

次ページへ続く

中国語

■ Microsoft Simplified Chinese Recognizer v5.1

セッション名	ステップ数
附加训练文本 (I)	18
附加训练文本 (II)	22
微软语音识别系统简介	102

お知らせ

- 中国語の音声認識エンジンは、中国語 OS に Voice Editing をインストールすると使用できます。
- 日本語版、英語版、中国語版の Microsoft Office 2003 をインストールしている場合、Office 2003 に搭載されている音声認識エンジンが使えます。
  詳しい内容については、Office 2003 の取扱説明書をご覧ください。

任意文章

任意文章による音声認識エンジンのトレーニングもできます。

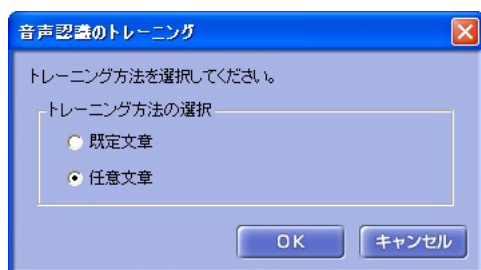
トレーニングで読み上げる文章を入力した文書ファイルを下記の場所に入れます。
¥My Documents¥Voice Editing¥Dictation¥Training

お知らせ

「任意文章」でのトレーニングで表示する文書ファイルに、「インスートル」や「トレニーング」などの正しくない単語があった場合、音声認識トレーニングが正しく行われません。

〈音声認識のプロパティ〉画面の［トレーニングの追加］ボタンをクリックすると、〈音声認識のトレーニング〉画面が表示されます。

「トレーニング方法の選択」から「任意文章」を選び、OK をクリックすると、〈ファイルを開く〉画面が表示されます。
トレーニングで読み上げる文章を入力したテキストファイルを選び、［開く］ボタンをクリックします。

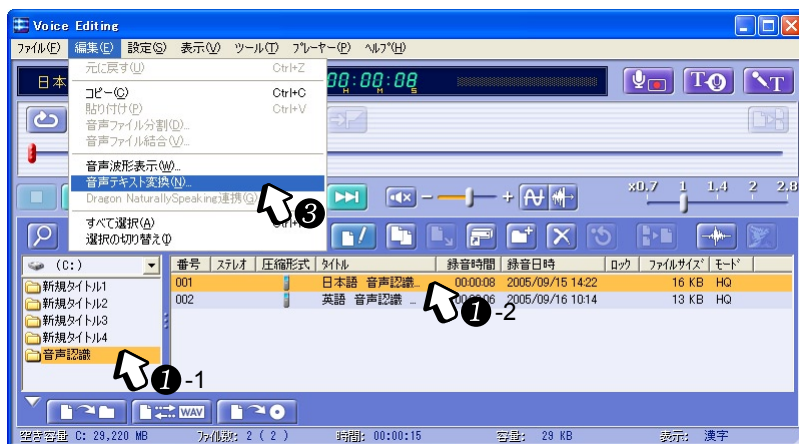
以降は、「音声トレーニング」ウィザードの指示に従ってください。

音声認識サンプル

音声認識サンプルを使って、音声認識機能の動作テストが行えます。

❶ ドライブボックスのプルダウンリストから「デフォルト・ドライブ」を選び、「音声認識」フォルダーを選ぶ

❷「音声認識」フォルダー内の「音声認識サンプル」を選び、▶ をクリックする

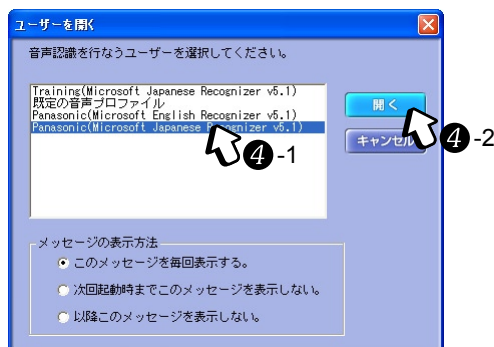
「音声認識サンプル」の内容を確認します。

❸「音声認識サンプル」を選び、「編集」メニューから［音声テキスト変換］を選ぶ

〈ユーザーを開く〉画面が表示されます。

❹ 音声認識ユーザー名「Panasonic(Microsoft Japanese Recognizer V5.1)」を選び、［開く］ボタンをクリックする

〈書き起こしの選択〉画面が表示されます。

次ページへ続く

もくじへ

❺ 書き起こす方法を選ぶ

「音声ファイルをテキストに変換する」を選ぶ場合、Ⓐの手順へ進んでください。

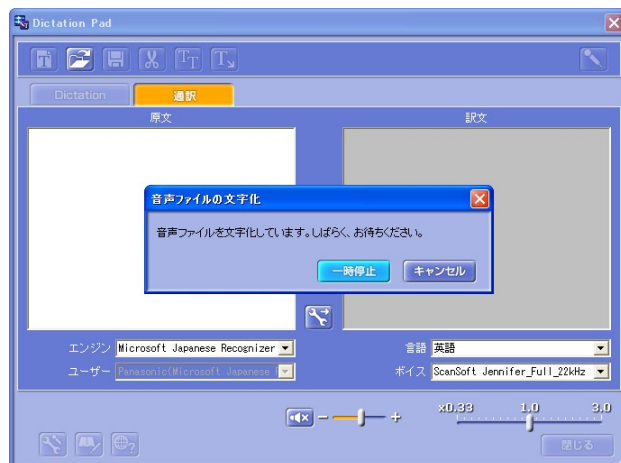
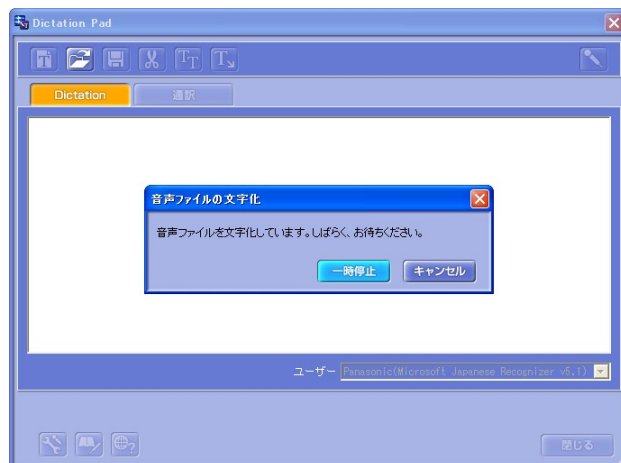
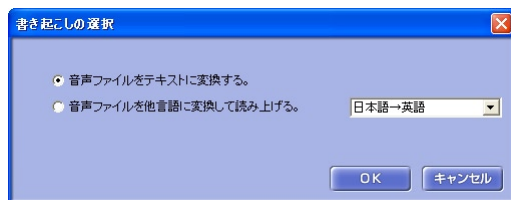
「音声ファイルを他言語に変換して読み上げる」を選ぶ場合、Ⓑの手順へ進んでください。

Ⓐ「音声ファイルをテキストに変換する」

音声ファイルを文字に変換します。
「音声ファイルをテキストに変換する」を選んで OK をクリックします。
「Dictation Pad」が起動し、「Dictation」タブで音声ファイルを文字に変換します。
変換中に、[一時停止] ボタンをクリックすると、テキスト変換が途中で止まります。
[再開] ボタンをクリックすると、テキスト変換が再開します。
[キャンセル] ボタンをクリックすると、テキスト変換が中止します。

Ⓑ「音声ファイルを他言語に変換して読み上げる」

音声ファイルを文字に変換した後、同時に他言語に翻訳します。
「音声ファイルを他言語に変換して読み上げる」を選ぶ場合、〈書き起こしの選択〉画面右側のプルダウンメニューから変換後の言語を選びます。
OK をクリックすると、「Dictation Pad」が起動し「通訳」タブが表示されます。
音声ファイルを文字に変換し、続けて他言語に変換します。文字への変換、翻訳は、1センテンス毎に実行されます。

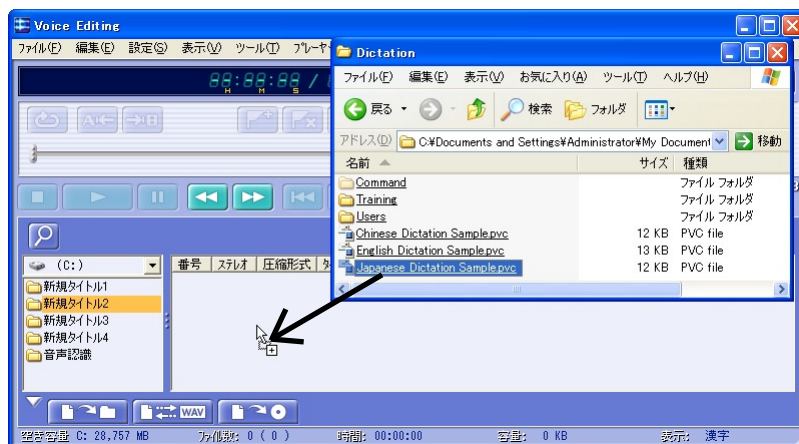
手順❷で確認した音声ファイルの内容が表示されているか確認してください。

お知らせ

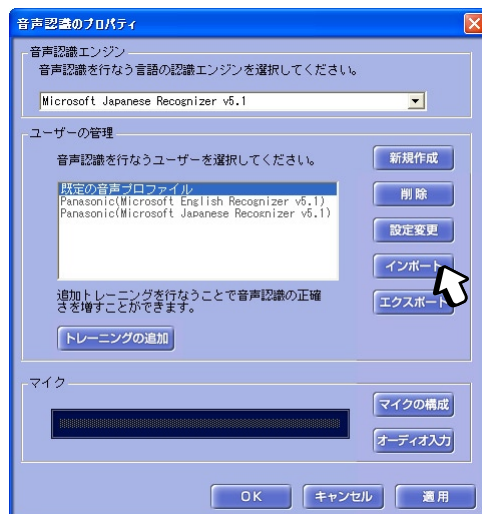
手順❹で選ぶ音声認識ユーザーの言語と手順❺のⒷで選ぶ変換元の言語は、同じ言語を選んでください。言語が異なっていると、正しく翻訳されません。

次ページへ続く

お知らせ

- 「音声認識サンプル」をテキスト変換する前に「書き起こしウィンドウ」を開いている場合、手順❹で［開く］ボタンをクリックすると「書き起こしウィンドウ」にテキスト変換の結果が表示されます。
- 音声認識サンプルは、初回起動時に登録されます。
  初回起動時に登録しなかった場合、以下の方法で Voice Editing に取り込んでください。
  - 音声認識サンプルの音声ファイル
    以下の場所にある VM1 のファイル「＊ .pvc」を Voice Editing の音声ファイル一覧にドラッグ＆ドロップします。

￥My Documents￥Voice Editing￥Dictation

- 音声認識のサンプルユーザーファイル
  以下の場所にある音声認識のユーザーファイル「＊ .pud」を〈音声認識のプロパティ〉画面の［インポート］ボタンをクリックして読み込みます。

￥My Documents￥Voice Editing￥Dictation￥Users

音声合成エンジン

本ソフトウェアに付属している音声合成エンジンは、下記の 10 種類です。

言語	ボイス
日本語	Keiko (ANIMO FineSpeech2)
英語	ScanSoft Jennifer_Full_22kHz
フランス語	ScanSoft Virginie_Full_22kHz
ドイツ語	ScanSoft Steffi_Full_22kHz
イタリア語	ScanSoft Bianca_Full_22kHz
スペイン語	Scansoft Isabel_Full_22kHz
ロシア語	ScanSoft Katerina_Full_22kHz
中国語	ScanSoft Mei-Ling_Full_22kHz
韓国語	ScanSoft Narae_Full_22kHz

お知らせ

RealSpeak Solo は、Nuance Communications 社の音声合成エンジンです。
FineSpeech2 は、株式会社アニモの音声合成エンジンです。

FineSpeech Ver.2

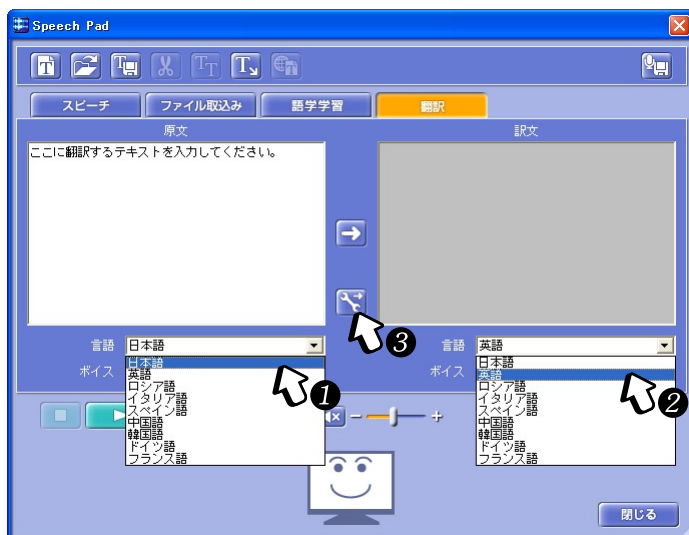
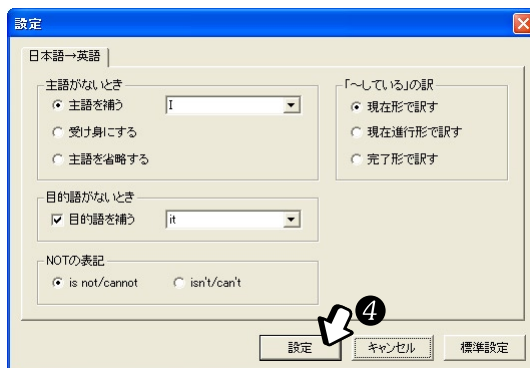
翻訳の設定

「Dictation Pad」の「通訳」タブ、「Speech Pad」の「語学学習」タブ、「翻訳」タブ、「Voice Editing Launcher」の翻訳機能で外国語に翻訳するときの翻訳設定が行えます。

❶「原文」側で、翻訳の元になる文章の「言語」を選ぶ

❷「訳文」側で、翻訳したい「言語」を選ぶ

❸ をクリックする

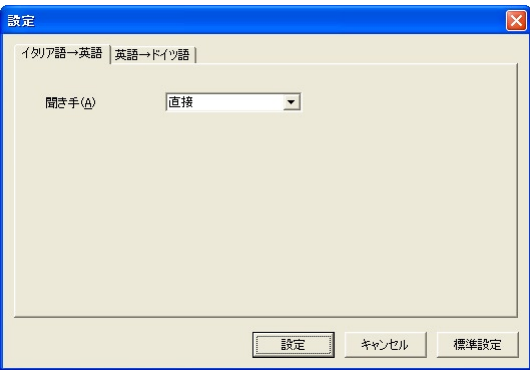
〈設定〉画面が表示されます。

❹ 翻訳の設定内容を変更し、[設定] ボタンをクリックする

※「原文」側で「日本語」を、「訳文」側で「英語」を選んだ場合

お知らせ

- 翻訳設定の内容は、手順❶と❷で選ぶ言語によって変わります。
- 「Dictation Pad」の「通訳」タブの場合、「原文」側では、音声合成エンジンとユーザーを選びます。

翻訳設定の詳細

Voice Editing の翻訳は、言語の組み合わせによっては、ブリッジ翻訳を行っています。

たとえば、欧州言語同士の場合、英語を中継して翻訳を行います。
イタリア語をドイツ語に翻訳する場合、イタリア語からいったん英語へ翻訳した後、翻訳した英語を元にドイツ語へ翻訳します。
この場合の翻訳設定は、「イタリア語→英語」と「英語→ドイツ語」の設定を行います。

※「原文」側で「イタリア語」を、
「訳文」側で「ドイツ語」を選んだ場合

各言語同士のブリッジ翻訳の組み合わせは以下の通りです。

	訳文				
原文	英語	フランス語	ドイツ語	イタリア語	スペイン語
英語		E→F	E→G	E→I	E→S
フランス語	F→E		F→E→G	F→E→I	F→E→S
ドイツ語	G→E	G→E→F		G→E→I	G→E→S
イタリア語	I→E	I→E→F	I→E→G		I→E→S
スペイン語	S→E	S→E→F	S→E→G	S→E→I	
ロシア語	R→E	R→E→F	R→E→G	R→E→I	R→E→S
日本語	J→E	J→E→F	J→E→G	J→E→I	J→E→S
中国語	C→J→E	C→J→E→F	C→J→E→G	C→J→E→I	C→J→E→S
韓国語	K→E	K→E→F	K→E→G	K→E→I	K→E→S

	訳文			
原文	ロシア語	日本語	中国語	韓国語
英語	E→R	E→J	E→C	E→K
フランス語	F→E→R	F→E→J	F→E→C	F→E→K
ドイツ語	G→E→R	G→E→J	G→E→C	G→E→K
イタリア語	I→E→R	I→E→J	I→E→C	I→E→K
スペイン語	S→E→R	S→E→J	S→E→C	S→E→K
ロシア語		R→E→J	R→E→C	R→E→K
日本語	J→E→R		J→C	J→K
中国語	C→J→E→R	C→J		C→J→K
韓国語	K→E→R	K→J	K→J→C	

お知らせ

- 言語の組み合わせによっては、翻訳設定をしなくてもよいものがあります。
- ブリッジ翻訳の場合、翻訳を中継する言語が多くなると、言語間のニュアンスの違いから翻訳精度が低くなります。

次ページへ続く ▶

英語→フランス語

■主語の性別

フランス語には、名詞、冠詞、形容詞に性別があるので、話し手が男性か女性かによって、訳文が変わる場合があります。

たとえば、“I am a lecturer.”を翻訳すると以下のようになります。

男性：Je suis conférencier.

女性：Je suis conférencière.

■形式

英語の「you」の訳し方を指定します。英語の「you」は、フランス語では“tu”（カジュアル）、“vous”（カジュアル・複数形 / フォーマル / フォーマル・複数形）と訳し分けられます。

たとえば、“You sing.”を翻訳すると以下のようになります。

カジュアル：Tu chantes.

カジュアル・複数形 / フォーマル / フォーマル・複数形：Vous chantez.

英語→ドイツ語

■主語の性別

ドイツ語には、一般名詞に性別があるので、話し手が男性か女性かによって、訳文が変わる場合があります。

たとえば、“I am a lecturer.”を翻訳すると以下のようになります。

男性：Ich bin Dozent.

女性：Ich bin Dozentin.

■形式

英語の「you」の訳し方を指定します。英語の「you」は、ドイツ語では“du”（カジュアル）、“ihr”（カジュアル・複数形）、“Sie”（フォーマル / フォーマル・複数形）と訳し分けられます。

たとえば、“You sing.”を翻訳すると以下のようになります。

カジュアル：Du singst.

カジュアル・複数形：Ihr singt

フォーマル / フォーマル・複数形：Sie singen.

次ページへ続く

英語→イタリア語

■主語の性別

イタリア語には、名詞、冠詞、形容詞に性別があるので、話し手が男性か女性かによって、訳文が変わる場合があります。

たとえば、“I am tall.”を翻訳すると以下のようになります。

男性：Sono alto.

女性：Sono alta.

■形式

英語の「you」の訳し方を指定します。英語の「you」は、イタリア語では“tu”（カジュアル）、“voi”（カジュアル・複数形）、“Lei”（フォーマル）、“Loro”（フォーマル・複数形）と訳し分けられます。

たとえば、“You went for dinner.”を翻訳すると以下のようになります。

カジュアル：Tu andasti per cena.

カジュアル・複数形：Voi andaste per cena.

フォーマル：Lei andò per cena.

フォーマル・複数形：Loro andarono per cena.

イタリア語→英語

■聞き手

三人称代名詞の訳し方を指定します。
直接：イタリア語の三人称代名詞を、英語の二人称代名詞に翻訳します。
間接：イタリア語の三人称代名詞を、英語の三人称代名詞に翻訳します。

たとえば、“Io le spedii una lettera.”を翻訳すると以下のようになります。

直接：I sent you a letter.

間接：I sent her a letter.

次ページへ続く ▶

英語→スペイン語

■主語の性別

スペイン語には、名詞、冠詞、形容詞に性別があるので、話し手が男性か女性かによって、訳文が変わる場合があります。

たとえば、“I am tall.”を翻訳すると以下のようになります。

男性：Yo soy alto.

女性：Yo soy alta.

■形式

英語の「you」の訳し方を指定します。英語の「you」は、スペイン語では“tu”（カジュアル）、“vosotros”（カジュアル･複数形）、“Usted”（フォーマル）、“Ustedes”（フォーマル･複数形）と訳し分けられます。

たとえば、“You sing.”を翻訳すると以下のようになります。

カジュアル：Cantas.

カジュアル・複数形：Cantais.

フォーマル：Canta.

フォーマル・複数形：Cantan.

スペイン語→英語

■聞き手

三人称代名詞の訳し方を指定します。
直接：スペイン語の三人称代名詞を、英語の二人称代名詞に翻訳します。
間接：スペイン語の三人称代名詞を、英語の三人称代名詞に翻訳します。

たとえば、“Le doy este libro.”を翻訳すると以下のようになります。

直接：I give you this book.

間接：I give him/her this book.

次ページへ続く

英語→日本語

■大文字を小文字にして訳す

チェックマークを付けると文章中の大文字で始まる単語やすべて大文字で書かれている単語などを翻訳します。
チェックマークを外すと、文章中の大文字で始まる単語やすべて大文字で書かれている単語などを原文のまま表示します。

■長い文章を節・句ごとに区切って訳す

チェックマークを付けると、できるだけ元の文章の語順を保持して翻訳します。
たとえば、“I know that he is ill.”の場合、「私は知っています　-　彼が病気であるということを。」と翻訳されます。

■命令文を平叙文として訳す

マニュアルなどの説明文には命令形が良く使われます。そのまま「～しなさい。」「～してください。」と命令文として翻訳するよりも、「～する。」「～します。」のように平叙文として翻訳する方が読みやすくなります。
たとえば、「ボタンを押しなさい。」は、「ボタンを押す。」に翻訳されます。

■ですます調で訳す

チェックマークを付けると、文末を「ですます調」に翻訳されます。チェックマークを外すと、「だ、である調」に翻訳されます。

■カタカナを「・」でつなぐ

チェックマークを付けると、翻訳結果でカタカナが続いた場合、「・」で区切ります。

次ページへ続く

日本語→英語

■主語がないとき

日本語では、主語が省略されることがあります。しかし、英語では、ほとんどのケースで主語が必要です。そのような文章をどのように翻訳するのかを指定します。

■主語を補う

主語を補って翻訳します。主語はプルダウンメニューから選びます。

■受け身にする

受動態の文章として翻訳します。
ただし、受動態になりえない構造の文章の場合、チェックマークを付けていても自動的に主語を補って翻訳します。この場合の主語は「主語を補う」で指定されたものです。

■主語を省略する

命令形の文章として翻訳します。
たとえば､｢翻訳ボタンをクリックします。｣の場合､“Click a translation button.” と翻訳されます。

■目的語がないとき

英語の動詞には、他動詞と自動詞があり、他動詞の目的語は省略できません。しかし、日本語では他動詞と自動詞の区別がないため、「～を」などの目的語は省略しがちです。ここでは、他動詞を含む英語の文章で原文に目的語がない場合の処理を設定します。

■目的語を補う

チェックマークを付けると、目的語を補います。補う目的語はプルダウンメニューから選びます。
チェックマークを外すと、動詞が他動詞でも目的語を補いません。

■ NOT の表記

否定を示す「NOT」を含む英語の文章で、省略形にするかしないかを設定します。｢is not/cannot｣を選択すると原形で、｢isn't/can't｣ を選択すると省略形で翻訳します。

■「～している」の訳

日本語で「～している」は、必ずしも現在進行形を表現しているとは限りません。現在形で英語に翻訳した方が適切な場合が多くあります。このような文章をどのように翻訳するかを選択します。

お知らせ

日本語の文章が「～していた」のように過去形の場合は、それぞれ、「過去形」、「過去進行形」、「過去完了形」で翻訳されます。

次ページへ続く

英語→中国語

■翻訳後の表示コード

「簡体中国語」で表示するのか、「繁体中国語」で表示するのかを選びます。

■大文字を小文字にして訳す

チェックマークを付けると文章中の大文字で始まる単語やすべて大文字で書かれている単語などを翻訳します。
チェックマークを外すと、文章中の大文字で始まる単語やすべて大文字で書かれている単語などを原文のまま表示します。

英語→韓国語

■大文字を小文字にして訳す

チェックマークを付けると文章中の大文字で始まる単語やすべて大文字で書かれている単語などを翻訳します。
チェックマークを外すと、文章中の大文字で始まる単語やすべて大文字で書かれている単語などを原文のまま表示します。

日本語→中国語

■翻訳後の表示コード

「簡体中国語」で表示するのか、「繁体中国語」で表示するのかを選びます。

「ドラゴンスピーチ」で音声認識を行う

IC レコーダーで録音した音声ファイルを、別売りの音声認識ソフト「ドラゴンスピーチ」を使って文字に変換することができます。

お知らせ

- 対象となる「ドラゴンスピーチ」は、下記のバージョンです。
  - ドラゴンスピーチ・セレクト バージョン 7
  - Dragon NaturallySpeaking 2005 (Professional/Select/Select USB)
- モノラル録音した HQ モードの音声ファイルをお使いください。FQ、SP、LP モードの音声ファイルの変換はできません。
- 初めて変換するときは、変換する前に音声認識ソフト「ドラゴンスピーチ」側で、「トレーニング」をしておく必要があります。
- インストール方法や「トレーニング」、操作の詳細は、音声認識ソフト「ドラゴンスピーチ」の取扱説明書またはヘルプをご覧ください。
  また、Voice Editing の「ヘルプ」メニューから［ドラゴンスピーチ 製品ページ］を選ぶと、「ドラゴンスピーチ・セレクト」のホームページが表示されます。
- 以下の手順は、「ドラゴンスピーチ・セレクト 7」での操作です。

❶「ドラゴンスピーチ」を起動する

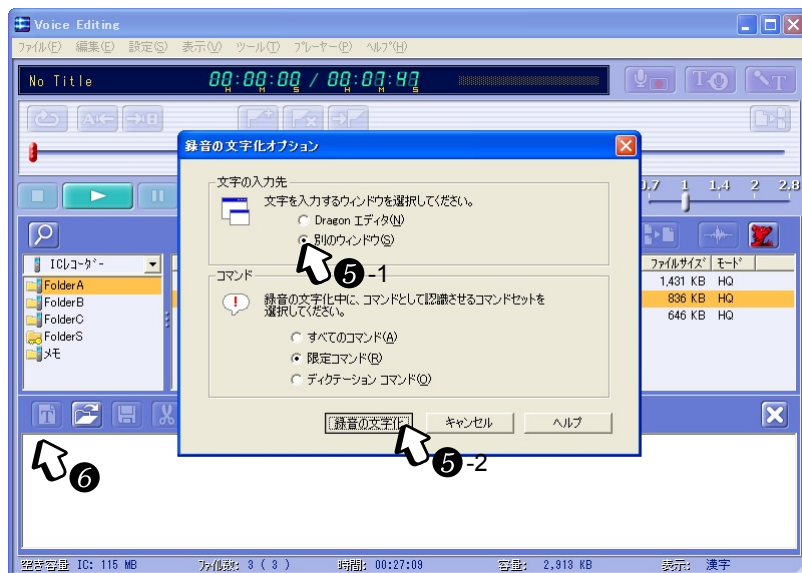
❷ IC レコーダー用に作成した「ドラゴンスピーチ」の「ユーザー」を選ぶ

❸ Voice Editing で、文字変換する音声ファイルを選ぶ

❹ をクリックする

〈録音の文字化オプション〉画面が表示されます。

次ページへ続く

❺「文字の入力先」で「別のウィンドウ」を選び、[録音の文字化]ボタンをクリックする

❻「書き起こしウィンドウ」をクリックする

「書き起こしウィンドウ」にテキスト変換した結果が表示されます。

- 本製品、およびパソコンの不具合により、録音ができない場合や音声データが破損した場合などのデータの補償についてはご容赦ください。
- 本製品、および本書の内容に関しましては、事前に予告なしに変更することがあります。
- 本書では、OS が Windows XP のときに表示される操作画面例を使用しています。また、本書のイラストや画面は一部実際と異なる場合があります。

お知らせ

音声入力ソフトウェア Dragon NaturallySpeaking（ニュアンス株式会社より別売）との連携機能を搭載しています。Dragon NaturallySpeaking については、ニュアンスコミュニケーションズ株式会社のウェブサイトをご覧ください。
http://japan.nuance.com/naturallyspeaking/

松下電器産業株式会社
ネットワーク事業グループ
〒 571-8504　大阪府門真市松生町 1 番 15 号

RQT8914-S
MSC0158AD_J_ZA
M1006KH0
2.0PE_Pa_L00